

レンズ交換式デジタルカメラ取扱説明書および付属ソフトウェアの最新サポート情報(製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、使用可能なメモリーカード、アクセサリ互換情報など)は下記のホームページから

『α』専用サポートサイト

<http://www.sony.co.jp/DSLR/support/>



ソフトウェアのサポート情報

<http://www.sony.co.jp/support-disoft/>

『α』オフィシャルサイト

<http://www.sony.jp/ichigan-a/>

レンズ交換式デジタルカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。(English manual download service is available.)

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル..... 0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 050-3754-9577

修理相談窓口

フリーダイヤル..... 0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・ 050-3754-9599
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>



4536323030

SONY

4-536-323-03 (1)

α
77II

レンズ交換式デジタルカメラ

α 77II

取扱説明書

Aマウント



ヘルプガイドについて

Web上のマニュアル「ヘルプガイド」もご覧ください。パソコンやスマートフォンでご覧いただけます。

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1410/ja/>



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や

人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告 安全のために

→ 273 ~ 277ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる感電や傷害など人への危害、また火災などの財産への損害を未然に防止するため、次のことを必ず守ってください。



「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がいたら、すぐに相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・
においがしたら
煙が出たら

- ➔
- ① 電源を切る
 - ② 電池をはずす
 - ③ 相談窓口につながる

裏表紙に相談窓口の連絡先があります。

危険 万一、電池の液漏れが起きたら

- ① すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。
- ② 液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で十分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。
- ③ 液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。
- ④ 液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



プラグをコンセントから抜く



指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含まず。

目次

安全のために.....	2
機能別目次.....	11

はじめに

お使いになる前に必ずお読みください.....	13
付属品を確認する.....	17
各部のなまえ.....	18
本体前面.....	18
本体後面.....	19
本体上面.....	21
本体側面/底面.....	22
レンズ.....	24
画面表示一覧.....	25
モニターの画面表示.....	25
表示パネルの表示.....	29

機能一覧

ボタン/ダイヤルで選ぶ機能.....	30
クイックナビの使いかた.....	32
操作方法を確認する.....	34
マルチセレクターの使いかた.....	34
前ダイヤル/後ダイヤルの使いかた.....	34
Fn (ファンクション)ボタンで選ぶ.....	35
Fn (ファンクション)に登録できる機能.....	36
MENU (メニュー)ボタンで選ぶ設定.....	37
📷 (撮影設定).....	38
⚙️ (カスタム設定).....	43
📶 (ワイヤレス).....	48
▶️ (再生).....	49
🔧 (セットアップ).....	50
カメラ内ガイドを見る.....	54

準備する

バッテリー（電池）を充電する.....	55
バッテリー/メモリーカード(別売)を入れる.....	57
使用できるメモリーカード.....	59
レンズを取り付ける.....	60
日付と時刻を設定する.....	63
日時やエリアを合わせ直す.....	64
手ブレを抑えてきれいに撮る.....	65
手ブレ警告表示について.....	65
手ブレ補正機能を使う.....	65
シャッターボタン半押し時に手ブレ補正機能を使う.....	66
正しく構える.....	67
アイピースカップを取りはずす.....	68

基本撮影/再生

静止画を撮る.....	69
動画を撮る.....	70
再生する.....	71
静止画と動画を切り換える.....	72
削除する.....	73
モニターの角度を変えて撮る.....	74

撮影モードを変える

撮影モードを変える.....	75
モードダイヤルを回したときに希望のモードを選ぶようにする.....	76
AUTO オートモード.....	76
SCN シーンセレクション.....	78
 スイングパノラマ.....	81
 連続撮影優先AE.....	85
P プログラムオート.....	86
A 絞り優先.....	87
S シャッタースピード優先.....	89
M マニュアル露出.....	90

Mバルブ撮影.....	92
撮影モードごとの設定可能機能.....	95

画面の表示を変える

画面の表示を変える (DISP).....	96
使用する画面表示を選ぶ.....	96
ヒストグラム.....	98
ライブビューの見えかたを変更する.....	99

ピントを合わせる

ピントを合わせる.....	100
オートフォーカス.....	100
静止画撮影時のオートフォーカスの追従感度を 変更する.....	103
フォーカスロック.....	104
フォーカスエリア.....	104
中央ボタン押しロックオンAF.....	106
AFの作動範囲を限定する (AFレンジコントロール).....	107
シャッターボタン以外でAFを行う (AFオン).....	110
 AF補助光.....	110
AF微調整.....	111
フォーカス/リリース優先.....	112
マニュアルフォーカス.....	112
ピントが合った部分を強調表示する (ピーキング).....	113
ピント拡大.....	114
ダイレクトマニュアルフォーカス (DMF).....	115
AF/MFコントロール.....	116
瞳AF.....	116

明るさを調整する

露出補正.....	118
AEロック.....	121
測光モード.....	122

ドライブ機能を使う

 /  ドライブモードを選ぶ	123
1枚撮影	124
連続撮影	124
セルフタイマー	125
セルフタイマー (連続)	125
連続ブラケット/1枚ブラケット	126
ホワイトバランスブラケット	129
DROブラケット	129

応用撮影

フラッシュを使う	130
ワイヤレスフラッシュ	132
スローシンクロ	133
シンクロターミナルコード付きフラッシュを使う	134
使用可能なフラッシュモード	135
調光補正	136
調光モード	137
FELロック	139
ISO感度を設定する	141
マルチショットノイズリダクション	142
明るさ、コントラストを自動補正する (DRO/オートHDR)	143
Dレンジオプティマイザー	143
オートHDR	144
画像の仕上がりを設定する	146
ピクチャーエフェクト	146
クリエイティブスタイル	148
色合いを調整する(ホワイトバランス)	151
色温度・カラーフィルター	153
カスタムホワイトバランス	154
画像サイズを変える	155
 画像サイズ	155
パノラマ：画像サイズ	156

画像の横縦比と画質を設定する.....	157
 横縦比.....	157
 画質.....	157
顔を検出する.....	159
個人顔登録.....	161
オートフレーミング.....	162
スマイルシャッター.....	164
ズームする.....	166
ワンプッシュでズームする (スマートテレコンバーター).....	166
光学ズーム以外のズーム機能を使う.....	167
画像ノイズを減らす.....	170
 長秒時ノイズリダクション.....	170
 高感度ノイズリダクション.....	171
リモコンを使って撮る.....	172
色空間を設定する.....	173

動画撮影の設定

動画撮影の設定.....	174
動画の設定を変更して撮影する.....	175
 記録方式.....	176
 記録設定.....	177
録音レベル.....	178
音声レベル表示.....	179
音声出力タイミング.....	180
音声の記録について.....	180

再生機能を使う

再生時の機能を使う.....	181
静止画と動画を切り換える(ビューモード).....	181
拡大して見る.....	181
一覧表示で見る.....	182
回転.....	183
スライドショー.....	184
記録画像の回転表示.....	185

再生時の画面表示について	186
再生時の画面表示の切り換え	186
ヒストグラム表示時の画面表示一覧	186
保護する(プロテクト)	189
プリント指定する	190
画像を選択する	190
日付を入れる	191
削除する	192
画像選択削除	192
まとめて画像を削除する	193
テレビで見る	194
HDMI情報表示	196
ブラビア™リンク	196
4K静止画再生	197

カメラをカスタマイズする

本体の設定を変更する	198
レンズなしリリース	198
グリッドライン	198
オートレビュー	198
カスタムキー設定	199
電子先幕シャッター	201
モニター明るさ	201
ファインダー明るさ	202
パワーセーブ開始時間	202
FINDER/MONITOR	202
レンズ補正を設定する	203
レンズ補正(周辺光量)	203
レンズ補正(倍率色収差)	203
レンズ補正(歪曲収差)	203
メモリーカードへの記録方法を設定する	204
フォーマット	204
ファイル番号	204
フォルダー形式	205
記録フォルダー選択	205

フォルダー新規作成.....	206
管理ファイル修復.....	206
アップロード設定(Eye-Fi).....	207
好みの設定を登録する.....	209
設定を初期値に戻す.....	211
本機のバージョンを確認する.....	217

Wi-Fiを使う

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能を使う.....	218
カメラを無線アクセスポイントに接続する.....	219

パソコンで見る

ソフトウェアを使う.....	220
パソコンの推奨環境を確認する.....	220
Image Data Converterを使う.....	221
Image Data Converterをインストールする.....	221
Image Data Converterガイドを見る.....	222
PlayMemories Homeを使う.....	223
PlayMemories Homeをインストールする.....	224
Remote Camera Controlを使う.....	225
Remote Camera Controlをインストールする.....	225
本機とパソコンを接続する.....	226
USB接続方法を設定する.....	226
USB接続モードを設定する(USB LUN設定).....	227
パソコンと接続する.....	227
画像を取り込んで見る(Windows).....	228
画像を取り込んで見る(Mac).....	229
パソコンとの接続を切断する.....	230
動画のディスクを作成する.....	231
動画ディスクの作りかたを選ぶ.....	231
PlayMemories Homeで使えるディスクの種類について.....	233
パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する.....	233

困ったときは/本機について

困ったときは.....	234
警告表示.....	243
本体のお手入れ.....	245
イメージセンサーをクリーニングする.....	246
使用上のご注意.....	249
海外で使用するには.....	252
AVCHD規格について.....	253
メモリーカードについて.....	253
バッテリー/バッテリーチャージャーについて.....	255
ライセンスについて.....	257
保証書とアフターサービス.....	258
ヘルプガイドについて.....	259
撮影可能枚数/時間を確認する.....	260
バッテリーの使用時間と撮影/再生可能枚数.....	262
主な仕様.....	266
安全のために.....	273

索引.....278

Wi-Fiを使った機能については、別紙「Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ」をご覧ください。

本書では付属するレンズが異なる機種をまとめて記載しています。
レンズによって、機種名が変わります。

機種名	付属されるレンズ
ILCA-77M2	なし
ILCA-77M2Q	DT 16-50mm F2.8 SSM

機能別目次

ここでは、撮影でよく使う機能や、本機の特徴的な機能をピックアップして紹介します。

詳細は、()内のページをご覧ください。

よく使う撮影機能

露出補正(118)

露出を補正して、画像全体の明るさを補正します。

本機では、露出モード「M」でも、ISOがオートなら露出補正が可能です。

ISO感度(141) /マルチショットNR (142)

明るさに対する感度を設定します。

ISO50 ~ 25600の範囲で調整可能です。

マルチショットノイズリダクションにすると、最大ISO感度よりも感度を上げることができます。

ホワイトバランス(151)

色合いの調整を行います。

光源に適した色合いにしたり、色温度・カラーフィルターの組み合わせによる微調整も可能です。

ドライブモード(123)

1枚撮影、連写、ブラケットなどの目的に合わせて撮影方法を変えることができます。

本機の特徴的な機能

AFレンジコントロール(107)

AF作動距離を設定する機能です。意図しないフォーカシングを防止します。

DRO/オートHDR (143)

Dレンジオプティマイザーでは、被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にします。オートHDRでは、露出の異なる3枚の画像を撮影し、画像を合成することにより階調豊かな画像にします。

クリエイティブスタイル(148)

画像の仕上がりを13種類の画像スタイルから選べます。選んだスタイルをベースにして、露出補正などの変更も可能です。

マニュアル動画(175)

P、A、S、Mモードでは動画撮影中も露出を自由に調整できます。

本機の操作方法/カスタマイズ

表示情報(96)

本機はファインダーに目を近づけるとファインダー表示になり、離すとモニター表示になります(お買い上げ時の設定)。DISPボタンを押すことで、表示方法を変えることができます。

クイックナビ(32)

ファインダー撮影用画面のときにFnボタンを押すと、モニターが設定画面に移行します。直感的な操作が可能です。

カスタマイズ(199)

本機にはお好みの機能を割り当てられるカスタムボタンがあります。また、AELボタンなどにも、お好みの機能を割り当てられます。

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

撮影方法について

本機はモニターを使用して撮影するモニターモードと、ファインダーを使用して撮影するファインダーモードの2通りの撮影方法が可能です。

本機搭載の機能について

- 本機は1080 60i対応機です。
- 本機は1080 60pの動画に対応しています。従来の標準的な記録モードがインターレースで記録するのと異なり、1080 60pではプログレッシブで記録します。これにより解像度が増え、滑らかでよりリアルな映像を撮影することができます。

管理ファイル作成について

管理ファイルが作成されていないメモリーカードを本機に挿入し電源を入れると、メモリーカードの一部の容量を使って自動的に管理ファイルを作成するため、次の操作まで時間がかかることがあります。管理ファイルエラーが発生したときは、PlayMemories Home™ですべての画像をパソコンに取り込んでから、本機でメモリーカードをフォーマットしてください。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー（バックアップ）をおとりください。

モニター、およびファインダー、レンズ、イメージセンサーについてのご注意

- モニターやファインダーは、有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。
- モニターを持って本機を持ち運ばないでください。
- 長時間、太陽に向けて撮影または放置しないでください。カメラの内部が故障することがあります。また、太陽光が近くの物に結露すると、火災の原因となります。
- モニターの裏や回転軸付近には、磁石が設置されています。フロッピーディスクやクレジットカードなど磁気の影響を受ける物をはさまないでください。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 撮影する前に確認する画像は、実際の撮影結果と異なることがあります。

ファインダーでの撮影について

高解像度、高コントラスト有機ELファインダーを搭載しています。視認性の良いファインダーを実現するため、様々な要素のバランスを重視した設計を行い、広い視野角と、長いアイポイントを実現しています。

- ファインダーの周辺部分の画像が少し歪んで見える場合がありますが、故障ではありません。構図の隅々まで確認して撮影したいときは、モニターも使用してください。
- ファインダーをのぞきながらパンしたり、視線を上下左右に動かすと、ファインダーの画像が歪んだり、色合いが変わって見える場合があります。これはレンズや表示デバイスの特性によるもので、故障ではありません。なるべくファインダーの中央付近を見るようにして撮影してください。
- ファインダーを使用中、目の疲労、疲れ、気分が悪くなる・乗り物酔いに似た症状が出る場合があります。ファインダーを使用するときは、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。不快な症状が出たときは、回復するまでファインダーの使用を控え、必要に応じて医師にご相談ください。

長時間撮影についてのご注意

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために自動的に電源が切れたり、動画撮影ができなくなることがあります。電源が切れる前や撮影ができなくなった場合は、モニターにメッセージが表示されます。このような場合、本機やバッテリーの温度が充分下がるまで電源を切ったままお待ちください。十分に温度が下がらない状態で電源を入れると、再び電源が切れたり動画撮影ができなくなることがあります。
- 気温の高い場所では本機の温度上昇が早くなります。
- 本機の温度が上昇すると、画質が低下する場合があります。温度が下がるのを待って撮影されることをおすすめします。
- 本機の表面が熱くなる場合がありますが、故障ではありません。

AVCHD動画のパソコンへの取り込みについて

AVCHD動画をパソコンに取り込むときは、ソフトウェアPlayMemories Homeを下記からインストールして使用してください。

www.sony.net/pm/

フラッシュについて

- フラッシュ部を持ったり、無理な力を加えないでください。
- 上がったフラッシュ部に水滴や砂埃が入ると故障の原因になります。
- フラッシュ部を下げるときに手を挟まないように注意してください。

他機での動画再生に際してのご注意

- 本機は、AVCHD方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のHigh Profileを採用しております。このため、本機でAVCHD方式で記録した動画は次の機器では再生できません。
 - High Profileに対応していない他のAVCHD規格対応機器
 - AVCHD規格非対応の機器
 また、本機は、MP4方式の記録にMPEG-4 AVC/H.264のMain Profileを採用しております。このため、本機でMP4方式で記録した動画はMPEG-4 AVC/H.264の対応機器以外では再生できません。
- ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクはAVCHD規格対応機器でのみ、再生できます。DVDプレーヤーやDVDレコーダーはAVCHD規格に非対応のため、ハイビジョン画質(HD)で記録したディスクを再生できません。また、これらの機器にAVCHD規格で記録したハイビジョン画質(HD)のディスクを入れた場合、ディスクの取り出しができなくなる可能性があります。
- 1080 60pの動画は、対応機器以外では再生できません。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

本書中のデータについて

性能、仕様に関するデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温(25℃)下でのものです。バッテリーについては、CHARGEランプ消灯まで充電した状態のバッテリーを使用したときのものです。

無線に関連する機能(Wi-Fiなど)を一時的に無効にする

無線に関する機能は、[飛行機モード]で一時的に無効にすることができます。

認証マークの表示について

本機が対応している認証マークの一部は、本機の画面上で確認することができます。

MENUボタン →  (セットアップ) 6 → [認証マーク表示] を選択してください。

本機の故障などの問題により表示できない場合は、相談窓口にご相談下さい。

機器認定について

本製品は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線局の無線設備として、工事設計認証を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本製品を分解/改造すること

周波数について

本製品は2.4GHz帯で使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。



この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてDSSS/OFDM変調方式を採用し、与干渉距離は20m以下です。

この機器のネットワークモードでの使用時の注意事項

本製品の使用周波数は2.4GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局(免許を要する無線局)等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

- 1.本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
- 2.万一、本製品と「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、電波の発射を停止してください。
- 3.その他、この機器から「他の無線局」に対して有害な電波干渉の実例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、相談窓口へお問い合わせください。相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

ワイヤレスLANに関するご注意

紛失や盗難などによって本機に搭載されている接続先への不正アクセスや利用などが行われ、被害や損害が発生しても、弊社では一切の責任を負いかねます。

ワイヤレスLAN機能の使用地域について

ワイヤレスLAN機能は、日本国内でのみ使用できます。

付属品を確認する

ご自分のカメラの機種名をご確認の上(10ページ)、付属品をお確かめください。

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。

()内は個数

全機種共通

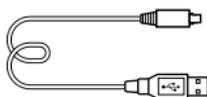
- カメラ(1)
- バッテリーチャージャー
BC-VM10A (1)



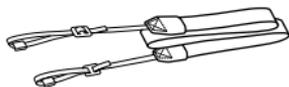
- リチャージャブルバッテリー
パックNP-FM500H (1)



- マイクロUSBケーブル(1)



- ショルダーストラップ(1)



取り付けかたは22ページをご覧ください。

- ボディキャップ(1)(本機に装着)



- シューキャップ(1)(本機に装着)
- アイピースカップ(1)(本機に装着)
- 取扱説明書(1)(本書)
- 保証書(1)
- Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ(1)

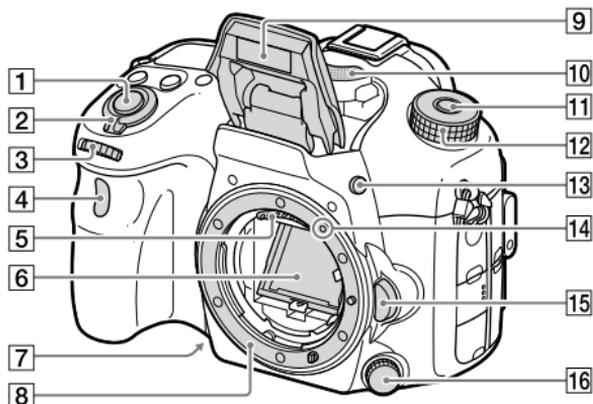
ILCA-77M2Q

- DT 16-50 mm ズームレンズ
(1)(レンズフロントキャップ、
レンズリヤキャップ含む)/
レンズフード(1)

各部のなまえ

()の数字は、参照ページです。

本体前面



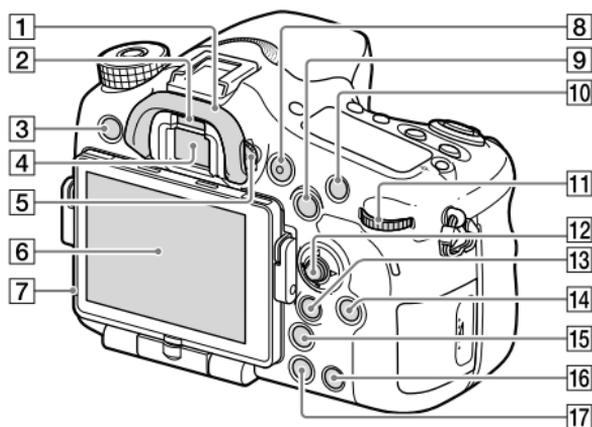
- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 シャッターボタン(69) | 11 モードダイヤルロック解除ボタン(75) |
| 2 電源スイッチ(63) | 12 モードダイヤル(75) |
| 3 前ダイヤル(86) | 13 ⚡(フラッシュポップアップ)ボタン(130) |
| 4 リモコン受光部(172) | 14 マウント標点(60) |
| 5 レンズ信号接点* | 15 レンズ取りはずしボタン(61) |
| 6 ミラー * | 16 フォーカスモードダイヤル(100、112) |
| 7 プレビューボタン(88) | |
| 8 マウント | |
| 9 内蔵フラッシュ * (130) | |

- 発光させるには、⚡(フラッシュポップアップ)ボタンを押してください。
- フラッシュを使わないときは、手で押して元に戻してください。

*の付いたところは、直接手で触れないでください。

**動画撮影時は手でふさがないようにしてください。ノイズや音量低下の原因になります。

本体後面



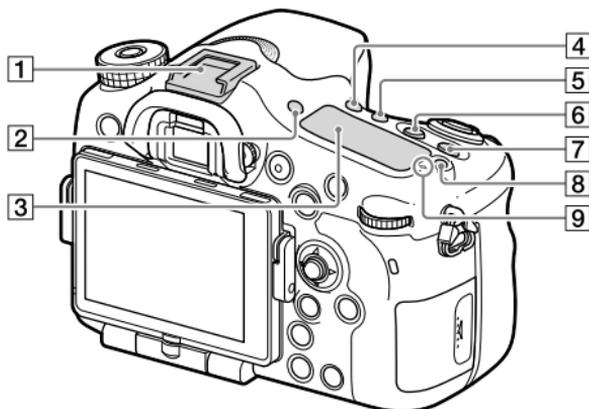
- | | |
|--|---|
| <p>① アイピースカップ(68)</p> <p>② アイセンサー (68)</p> <p>③ ^{メニュー}MENUボタン(37)</p> <p>④ ファインダー*</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファインダーに目を近づけるとファインダー表示に切り替わり、離すとモニター表示に戻ります。 <p>⑤ 視度調整ダイヤル</p> <ul style="list-style-type: none"> • ファインダー内の画像表示がはっきり見えるように、ご自身の視度に合わせてダイヤルを回します。 | <p>⑥ モニター (25、186)</p> <p>⑦ 明るさセンサー (201)</p> <p>⑧ ^{ムービー}MOVIE (動画) ボタン(70、174)</p> <p>⑨ 撮影時：AEL (AEロック) ボタン(92、121)/SLOW SYNC (スローシンクロ) ボタン(133)
再生時： (一覧表示) ボタン(182)</p> <p>⑩ 撮影時：AF/MF (オートフォーカス/マニュアルフォーカス) ボタン(116)
再生時： (拡大) ボタン(181)</p> <p>⑪ 後ダイヤル(86)</p> <p>⑫ マルチセレクター</p> |
|--|---|



- ファンクション
13 撮影時：Fnボタン(35)
再生時：
(スマートフォン転送)ボタン
(31)
- このボタンを押すとスマートフォン転送画面になります。
 - 縦位置グリップ(別売)装着時、縦位置グリップの (再生画像回転) ボタンを押すと、スマートフォン転送画面になります。
- ディスプレイ
14 DISP (表示切り換え) ボタン
(96、186)
- 15  (スマートテレコンバーター) ボタン(166)
- 16 C (カスタム) ボタン(107)
再生時： (削除) ボタン(73)
- 17  (再生) ボタン(71)

*の付いたところは、直接手で触れないでください。

本体上面



- ① マルチインターフェース
シュー*
- ② ファインダー / モニター
FINDER/MONITOR切り換え
ボタン(202)
- ③ 表示パネル(29)
- ④ / (ドライブモード)ボタ
ン(123)
- ⑤ ホワイトバランス
WBボタン(151)
- ⑥ (露出補正)ボタン(118)
- ⑦ ISOボタン(141)
- ⑧ 表示パネル照明ボタン(29)
- ⑨ イメージセンサー位置表
示(103)

*マルチインターフェースシュー
対応アクセサリーについて詳し
くは、専用サポートサイトでご確
認ください。

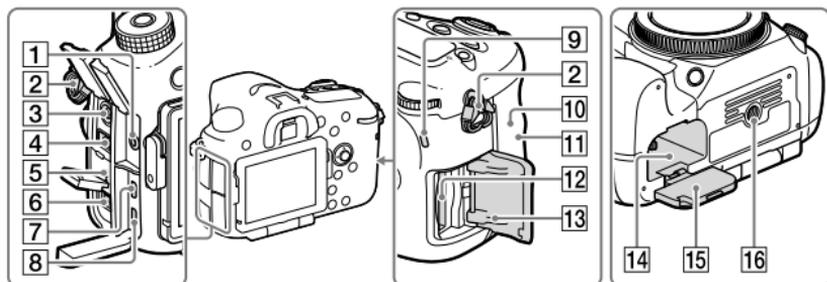
[http://www.sony.co.jp/
DSLR/support/](http://www.sony.co.jp/DSLR/support/)

アクセサリーシュー対応のアク
セサリーも使用できます。他社
のアクセサリーを取り付けた場
合の動作は保証できません。

ni Multi
Interface Shoe

Accessory Shoe

本体側面/底面



① マイク端子

- 外部マイクを接続すると自動的に内蔵マイクから外部マイクに切り替わります。プラグインパワー対応の外部マイクを使うと、マイクの電源は本機から供給されます。

② ショルダーストラップ取り付け部

- ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。



③ ⚡ (シンクロ)ターミナル(134)

④ REMOTE端子

- リモートコマンダー RM-L1AM (別売)を本機とつなぐ場合は、リモートコマンダーのターミナルを、コードが前方に向くようにして REMOTE端子のガイド溝に合わせて差し込んでください。

⑤ スピーカー

⑥ DC IN端子

- ACアダプター AC-PW10AM (別売)を本機とつなぐ場合は、本機の電源を切り、ACアダプターの接続コードのプラグをDC IN端子に差し込んでください。

⑦ HDMIマイクロ端子(194)

⑧ マルチ/マイクロUSB端子*
(227)

- この端子にはマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

⑨ アクセスランプ

⑩ **N**(Nマーク)(218)

- NFC機能搭載のスマートフォンと本機を接続するときにタッチします。
一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンはNFCに対応しています。詳しくはスマートフォンの取扱説明書でご確認ください。
- NFC (Near Field Communication)は近距離無線通信技術の国際標準規格です。

⑪ Wi-Fi受信部(内蔵)

⑫ メモリーカード挿入口(57)

⑬ メモリーカードカバー (57)

⑭ バッテリー挿入口(57)

⑮ バッテリーカバー (57)

⑯ 三脚ネジ穴

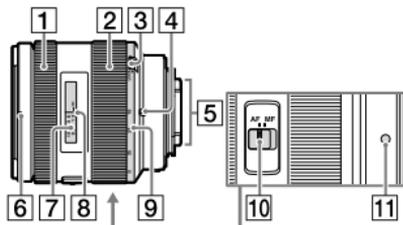
- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

*マルチ/マイクロUSB端子対応アクセサリーについては、専用サポートサイトでご確認ください。

<http://www.sony.co.jp/DSLR/support/>

レンズ

DT 16-50mm F2.8 SSM (ILCA-77M2Qに付属)



- 1 フォーカスリング
- 2 ズームリング
- 3 ズームロックスイッチ
- 4 焦点距離指標
- 5 レンズ信号接点*
- 6 レンズフード指標
- 7 距離目盛
- 8 距離指標
- 9 焦点距離目盛
- 10 フォーカスモードスイッチ
- 11 マウント指標

*の付いたところは、直接手で触れないでください。

- DT 16-50mm F2.8 SSMはソニー製Aマウントカメラ(APS-Cサイズ相当のイメージセンサー搭載機種)専用のレンズです。35mm判カメラでは使えません。
- DT 16-50mm F2.8 SSM以外のレンズについては、レンズの取扱説明書をご覧ください。

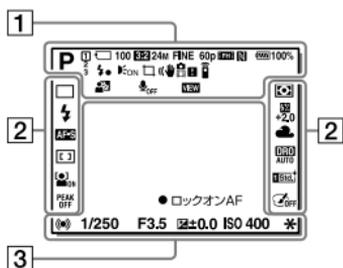
画面表示一覧

モニターの画面表示

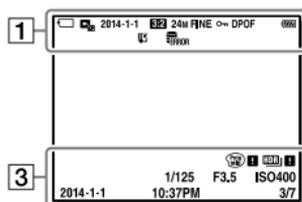
お買い上げ時は[全情報表示]になっています。

DISPボタンを押すと、ファインダーを見ながら撮影するときのモニター表示になったり、ヒストグラムを表示できます(96ページ)。

モニター撮影用

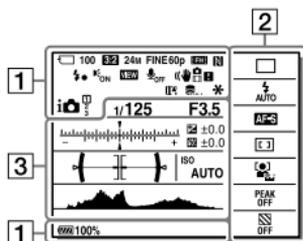


再生時(基本情報画面)

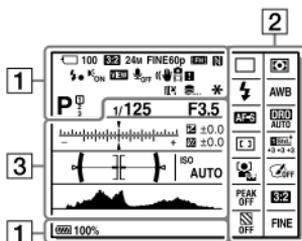


ファインダー撮影用

オートモード/シーンセレクション時



P/A/S/M/スイングパノラマ時



1

表示	意味
	撮影モード(75)
1 2 3	登録番号(209)
	シーン認識マーク (77)
	メモリーカード(57、 253) /アップロード (207)
100	撮影可能枚数
3:2 16:9	静止画の画像横縦比 (157)
24M 12M 6.0M 20M 10M 5.1M WIDE STD	静止画の画像サイズ (155)
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質(157)
60p 60i 24p	動画のフレームレート (177)

表示	意味
	動画の記録設定(177)
	バッテリー容量(58)
	バッテリー残量警告 (58)
	フラッシュ充電表示 (130)
	設定効果反映Off (99)
	NFC有効
	飛行機モード
	動画音声記録オフ (180)
	風音低減オン(180)
	手ブレ補正(静止画) / 手ブレ警告
	手ブレ補正(動画) /手 ブレ警告
	温度上昇警告
	管理ファイルフル警告 (244) /管理ファイル エラー警告(244)
	スマートズーム/全画 素超解像ズーム/デジ タルズーム(167)
	スポット測光サークル (122)
	水準器(97)
	音声レベル(179)

表示	意味
	ビューモード(181)
100-0003	フォルダー番号-ファイル番号(228)
	プロテクト(189)
AVCHD MP4	動画の記録方式(177)
DPOF	DPOF (プリント)指定(190)
	オートフレーミング(162)

2

表示	意味
	ドライブモード(123)
	フラッシュモード(130) / 赤目軽減(39)
±0.0	調光補正(136)
	フォーカスモード(100)
	フォーカスエリア(104)
	顔検出(159) / スマイルシャッター(164)
	測光モード(122)

表示	意味
	ホワイトバランス(オート、プリセット、カスタム、色温度、カラーフィルター)(151)
	Dレンジオプティマイザー(143) / オートHDR(144)
	クリエイティブスタイル(148) / コントラスト、彩度、シャープネス
	中央ボタン押しロックオンAF
	ピクチャーエフェクト(146)
	スマイル検出感度インジケーター

3

表示	意味
●ロック オンAF	中央ボタン押しロック オンAF用ガイド表示 (106)
	測光インジケータ (91、118、128)
	スマートテレコンバー ター (166)
	AFレンジコントロ ール(107)
	露出補正(118) / メー タードマニュアル (91)
REC 0:12	動画の記録時間(分： 秒)
●(⊙)(C)	フォーカス(69、102)
1/250	シャッタースピード (89)
F3.5	絞り値(87)
ISO400 ISO AUTO	ISO感度(141)
	AEロック(121) / FEL ロック(139)
	シャッタースピードイ ンジケータ (97)
	絞りインジケータ (97)
	ヒストグラム(98)
	オートHDR画像警告 (144)
	ピクチャーエフェクト エラー (147)

表示	意味
2014-1-1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモー ド内画像枚数

表示パネルの表示

シャッタースピードと絞り、露出補正、調光補正、ISO、ホワイトバランス、ドライブモード、画質は上面の表示パネルを見ながら設定できます。



シャッタースピード (89) / 絞り (87)	125 F5.6	露出補正 (118) / 調光補正 (136)	+1.0
ISO (141)	ISO 1600	ホワイトバランス (151)	00
ドライブモード (123) / リモコン (172)	F 07 3	画質 (157)	FINE
バッテリー容量 (58)	000	撮影可能枚数 (260) *	[1000]

* 9,999枚より多いときでも、表示パネルには「9999」と表示されます。

表示パネルのバックライトをつけるには

上面の表示パネル照明ボタンを押します。
もう一度押すと消えます。

表示パネル照明ボタン



ボタン/ダイヤルで選ぶ機能

下記のボタンを使って、それぞれの機能を設定、または操作できます。
各ボタンの配置は「各部のなまえ」をご覧ください(18ページ)。

 (フラッシュポップアップ)ボタン(130)	フラッシュ発光部を上げる。
 (ドライブモード)ボタン(123)	ドライブモードを選ぶ。
WB (ホワイトバランス)ボタン(151)	ホワイトバランスを設定する。
 (露出)ボタン(118)	露出を補正する。
ISOボタン(141)	ISO感度を設定する。
FINDER/MONITOR切り換えボタン(202)	モニター表示とファインダー表示を切り換える。
表示パネル照明ボタン(29)	表示パネルのバックライトをつける。
モードダイヤル(75)	撮影モードを切り換える。
MENUボタン(37)	メニュー画面を表示する。
MOVIEボタン(70)	動画を撮影する。
AF/MFボタン/  ボタン(181)	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを一時的に切り換える/再生時に画像を拡大する。
AELボタン(121) / SLOW SYNCボタン(133) /  (一覧表示)ボタン(182)	画面全体の露出を固定する/シャッタースピードを遅くしてフラッシュ撮影する/画像を一覧表示する。

Fnボタン(32、35、36) /  (スマートフォン転送)ボタン	Fnボタンを使って設定する機能の設定画面を表示する。[ファインダー撮影用]画面では、クイックナビ画面に入る/再生時に、  ボタンを押すことでスマートフォン転送画面に入る。
 ボタン(71)	画像を再生する。
 ボタン(166)	画像の中央部分を拡大表示する。
Cボタン(199) /  (削除)ボタン(73)	よく使う機能のボタンにする。お買い上げ時は[AFレンジコントロール]が割り当てられている/画像を削除する。
フォーカスモードダイヤル(100)	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り換える。
プレビューボタン(89)	背景のぼかし具合を確認して撮る。

クイックナビの使いかた

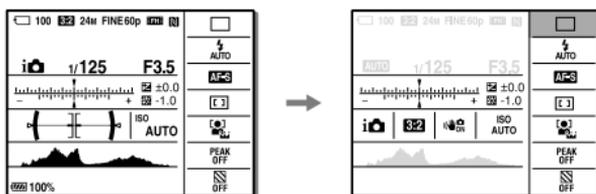
ファインダー撮影用画面のとき、変更したい項目をダイレクトに操作できます(クイックナビ)。

1 MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) 2 → [DISPボタン] → [背面モニター]で[ファインダー撮影用]を選び、[実行]を選ぶ。

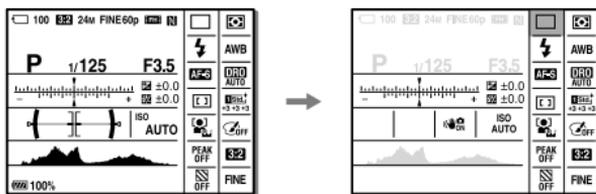
2 DISPボタンを押して、[ファインダー撮影用]画面にする(96ページ)。

3 Fnボタンを押してクイックナビ画面にする。

オートモード/シーンセレクション時



P/A/S/M/スイングパノラマ時



4 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で、設定する機能を選ぶ。

5 前ダイヤルを回して希望の設定にする。

- 一部の機能は、後ダイヤルを回して微調整値の設定もできます。
- 項目を選んでいるときにマルチセレクター中央の●を押すと、その項目設定用の専用画面になる(34ページ)。
- もう一度Fnボタンを押すと、クイックナビ画面から元の画面に戻る。

クイックナビで選択可能な機能

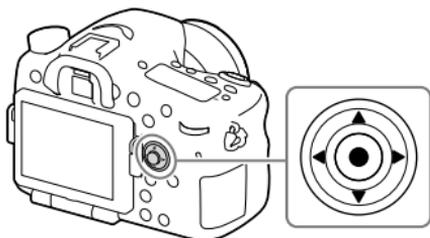
ドライブモード	フラッシュモード	調光補正
フォーカスエリア	露出補正	ISO感度
測光モード	ホワイトバランス	DRO/オートHDR
クリエイティブスタイル	ピクチャーエフェクト	顔検出/スマイルシャッター
ピーキングレベル	ゼブラ	 画像サイズ
 横縦比	 画質	 手ブレ補正
オートモード	シーンセレクション	

ご注意

- クイックナビ画面でグレーになっている項目は、変更できません。
- クリエイティブスタイル(148ページ)では、専用画面に入らないと操作できない設定もあります。

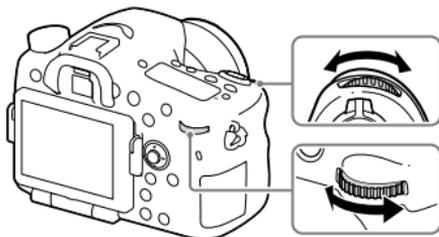
操作方法を確認する

マルチセレクターの使いかた



- マルチセレクターで上下左右を選ぶと、選択枠を動かすことができます。選んだ項目は中央の●を押すと決定されます。本書ではマルチセレクターで上下左右を選ぶ動作を▲/▼/◀/▶で表現しています。
- 再生時に、マルチセレクターで◀/▶を選ぶと、前/次の画像を表示できます。
- お買い上げ時の設定では、中央の●には[スタンダード]機能が割り当てられています。中央の●を押すと、画面の中央に合わせてオートフォーカスを行います。

前ダイヤル/後ダイヤルの使いかた



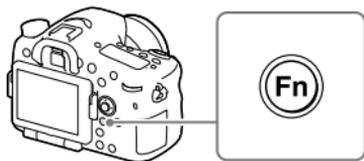
前ダイヤル/後ダイヤルを回して、撮影モードごとに必要な設定を即座に変更できます。

Fn (ファンクション)ボタンで選ぶ

クイックナビ画面以外のおき、撮影時に比較的使用頻度が高い設定、機能を実行します。

1 DISPボタンを押して、[ファインダー撮影用]画面以外にする(96ページ)。

2 Fnボタンを押す。

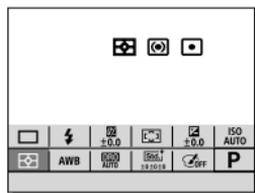


3 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で設定したい項目を選ぶ。

登録できる機能の一覧と、登録方法は36ページをご確認ください。

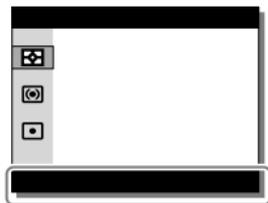
4 前ダイヤルを回して希望の設定を選び、マルチセレクター中央の●を押す。

一部の機能は、後ダイヤルを回して設定値の微調整もできます。



専用画面で設定するには

手順3で、設定した項目を選んでマルチセレクター中央の●を押すと、その項目の専用設定画面になります。操作ガイドに従って設定してください。



操作ガイド

Fn (ファンクション)に登録できる機能

Fn (ファンクション)ボタンを押したときに表示される機能を選べます。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 6 →
[ファンクションメニュー設定] → 希望の場所に機能を設定する。

Fnボタンで設定できる機能は以下の通りです。

ドライブモード	フラッシュモード	調光補正
フォーカスエリア	露出補正	ISO感度
測光モード	ホワイトバランス	DRO/オートHDR
クリエイティブスタイル	撮影モード	ピクチャーエフェクト
中央ボタン押しロックオンAF	顔検出/スマイルシャッター	 美肌効果
 オートフレーミング	 画像サイズ	 横縦比
 画質	 手ブレ補正	 手ブレ補正
録音レベル	ゼブラ	グリッドライン
音声レベル表示	ピーキングレベル	ピーキング色
未設定		

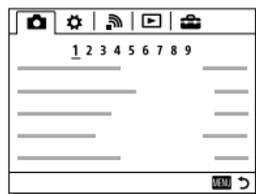
MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影、再生、操作方法などカメラ全体に関する基本設定を変更したり、機能の実行を行えます。

1 MENUボタンを押して、メニュー画面を表示する。

2 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で設定したい項目を選び、中央の●を押す。

- 画面上部のアイコンを選んで、◀/▶で他のメニューへ移動できます。



3 設定値を選択して、中央の●を押して決定する。

タイトルメニューを表示するには

MENUボタンを押したときに、タイトルメニューを表示するかを設定します。

MENUボタン →  (セットアップ) 2 → [タイトルメニュー] → [入]を選ぶ。

 (撮影設定)

 画像サイズ(155)	静止画のサイズを選択する。 (L: 24M/M: 12M/S: 6.0M (3:2のとき) L: 20M/M: 10M/S: 5.1M (16:9のとき))
 横縦比(157)	静止画の横縦比を選択する。 (3:2/16:9)
 画質(157)	静止画の画質を設定する。 (RAW/RAW+JPEG/エクストラファイン/ ファイン/スタンダード)
パノラマ: 画像サイズ (156)	パノラマ画像のサイズを選択する。 (標準/ワイド)
パノラマ: 撮影方向(84)	パノラマの撮影方向を設定する。 (右/左/上/下)
 記録方式(176)	動画を記録するときの記録方式を設定する。 (AVCHD/MP4)
 記録設定(177)	動画のサイズを選択する。 (60i 24M(FX)/60i 17M(FH)/60p 28M(PS)/ 24p 24M(FX)/24p 17M(FH)(AVCHDの とき) 1440×1080 12M/VGA 3M (MP4のと き))
ドライブモード(123)	連続撮影などの撮影方法を設定する。 (1枚撮影/連続撮影/セルフタイマー/ セルフタイマー (連続) / 連続ブラケット/1枚ブラケット/ ホワイトバランスブラケット/ DROブラケット)

フラッシュモード (130)	フラッシュの発光方式を設定する。 (発光禁止/自動発光/強制発光/ スローシンクロ/後幕シンクロ/ ワイヤレス)
調光補正(136)	フラッシュの発光量を調整する。 (-3.0EV ~ +3.0EV)
調光モード(137)	フラッシュの発光量を決める方法を設定 する。 (ADI調光/P-TTL調光/内蔵マニュアル)
発光レベル(138)	[調光モード]を[内蔵マニュアル]にした ときの内蔵フラッシュ発光量を設定する。 (1/1 ~ 1/16)
赤目軽減発光	フラッシュ撮影時、目が赤くなるのを軽減 する。 (入/切)
AF-Aの機能(115)	フォーカスモードが[AF-A]のときに手動 でピントを微調整できるかどうかの設定 をする。 (AF-A/DMF)
フォーカスエリア (104)	ピント合わせの位置を選ぶ。 (ワイド/ゾーン/中央/ フレキシブルスポット/ 拡張フレキシブルスポット/ ロックオンAF)
☑AF補助光(110)	暗所でピントを合わせるための補助光を 発光する。 (オート/切)

 AF駆動速度	静止画撮影時、オートフォーカスのピント合わせの速度を切り換える。マクロ撮影時に[低速]にするとピントが合いやすくなる。 (高速/低速)
 AF追従感度(103)	静止画撮影時のオートフォーカスの追従感度を設定する。 (1～5)
 AF追従感度	動画撮影時のオートフォーカスの追従感度を設定する。 (高/中/低)
露出補正(118)	画像全体の明るさを補正する。 (-5.0EV～+5.0EV)
露出値ステップ幅	シャッタースピード、絞り値、露出補正值の設定幅を設定する。 (0.5段/0.3段)
ISO感度(141)	ISO感度を設定する。 (マルチショットNR/ISO AUTO/ISO 50～ISO 25600)
測光モード(122)	明るさを測る方法を選ぶ。 (マルチ/中央重点/スポット)
ホワイトバランス(151)	撮影場所の光の状況に合わせて画像の色合いを調整する。 (オート/太陽光/日陰/曇天/電球/ 蛍光灯：温白色/蛍光灯：白色/ 蛍光灯：昼白色/蛍光灯：昼光色/ フラッシュ/色温度・カラーフィルター/ カスタム1～3/カスタムセット)
DRO/オートHDR(143)	明るさ、コントラストを自動補正する。 (切/Dレンジオプティマイザー/ オートHDR)

クリエイティブスタイル (148)	お好みの画像の仕上がりを選ぶ。 コントラスト、彩度、シャープネスの調整もできる。 (スタンダード/ビビッド/ニュートラル/ クリア/ディープ/ライト/ポートレート/ 風景/夕景/夜景/紅葉/白黒/セピア/ スタイルボックス1～6)
ピクチャーエフェクト (146)	好みの効果を使って、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できる。 (切/トイカメラ/ポップカラー/ ポストリゼーション/レトロフォト/ ソフトハイキー /パートカラー/ ハイコントラストモノクロ/ ソフトフォーカス/絵画調HDR/ リッチトーンモノクロ/ミニチュア/ 水彩画調/イラスト調)
ズーム(167)	光学ズーム以外のズームの倍率を設定する。
ピント拡大(114)	撮影前の画像を拡大してピントの確認ができる。
☑長秒時NR (170)	シャッタースピードを1秒以上にした場合のノイズ軽減処理を設定する。 (入/切)
☑高感度NR (171)	高感度撮影した場合のノイズ軽減処理を設定する。 (標準/弱/切)
中央ボタン押しロック オンAF (106)	撮影画面で中央ボタンを押したとき、被写体を追尾してピントを合わせ続ける機能を設定する。 (切/入)

顔検出/スマイルシャッター (159)	人物の顔を自動でとらえ、ピントや露出を最適にする。笑顔を検出すると自動で撮影する。 (切/入(登録顔優先) /入/ スマイルシャッター)
☑美肌効果(160)	顔検出時、被写体の美肌効果を設定する。 (入(高、中、低) /切)
☑オートフレーミング (162)	人物の顔やマクロ撮影する被写体、またはロックオンAFでとらえた被写体を検出して、撮影するときにシーンを分析して、印象の異なる構図で画像を保存する。 (切/オート)
オートモード(76)	オート撮影の方法を選ぶ。 (おまかせオート/プレミアムおまかせオート)
シーンセレクション (78)	撮影状況に合わせて、あらかじめ用意された設定で撮影する。 (ポートレート/スポーツ/マクロ/風景/ 夕景/夜景/手持ち夜景/ 夜景ポートレート)
動画(70、174)	撮りたい被写体や効果に合わせて、露出モードを選んで撮影する。 (プログラムオート/絞り優先/ シャッタースピード優先/マニュアル露出)
☑手ブレ補正(65)	静止画撮影時の手ブレ補正を設定する。 (入/切)
📹手ブレ補正(65)	動画撮影時の手ブレ補正を設定する。 (入/切)
☑色空間(173)	再現できる色の範囲を変更する。 (sRGB/AdobeRGB)

オートスローシャッター (176)	動画撮影時、被写体が暗いときに自動でシャッタースピードを遅くするかどうかを設定する。 (入/切)
音声記録(180)	動画撮影時、音声記録を行うかどうかを設定する。 (入/切)
録音レベル(178)	録音レベルを調整する。 (0 ~ 31)
音声出力タイミング (180)	動画撮影時の音声出力のタイミングを設定する。 (ライブ/リップシンク)
風音低減(180)	動画撮影時、風音を低減する。 (入/切)
登録(209)	好みのモード、カメラの設定を登録する。

☆ (カスタム設定)

ゼブラ(120)	明るさ調整の目安になる縞表示を設定する。 (切/70 ~ 100/100+)
ピント拡大時間	拡大表示する時間を設定する。 (2秒/5秒/無制限)
グリッドライン(198)	構図を合わせるための線を表示する。 (3分割/方眼/対角+方眼/切)
音声レベル表示(179)	音声レベルを画面に表示するかどうかを選ぶ。 (入/切)

オートレビュー (198)	撮影したあと、撮った画像を表示するオートレビューの設定をする。 (10秒/5秒/2秒/切)
DISPボタン(96)	DISPボタンを押してモニターやファインダーに表示する情報の種別を設定する。 (グラフィック表示/全情報表示/ 情報表示なし/水準器/ヒストグラム/ ファインダー撮影用*) * モニター表示のみ
ピーキングレベル (113)	マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定された色で強調表示する設定をする。 (高/中/低/切)
ピーキング色(113)	輪郭を強調表示するピーキング表示の色を設定する。 (レッド/イエロー /ホワイト)
露出設定ガイド	撮影画面で露出設定を変更した時に表示するガイドの設定をする。 (切/入)
ライブビュー表示(99)	モニターの表示に、露出補正などの設定値を反映するかどうかを設定する。 (設定効果反映On/設定効果反映Off)
 AFレンジコントロール	AFレンジコントロール中に被写体が設定距離範囲内にあるかどうかを画面上に表示するかを設定する。 (入/切)
フォーカスエリア自動消灯 (105)	フォーカスエリア表示を常に表示するか、合焦後一定時間経過後に非表示にするかを設定する。 (入/切)

フォーカスエリア点数 (105)	フォーカス点数が意図しない点数に設定されるのを防ぐために、手動で切り換える。 (オート/61点)
フレキシブルスポット点数 (106)	フォーカスエリア点数をすべて使用するか、中央の15点を使用するかを設定する。 (全て/15点)
ワイドフォーカスエリア表示 (106)	フォーカスエリアをワイドにしているときにフォーカスエリアを表示するかを設定する。 (入/切)
ズーム設定(167)	全画素超解像ズーム、デジタルズームを使用するかどうかを設定する。 (光学ズームのみ/入：全画素超解像ズーム/ 入：デジタルズーム)
☑️アイスタートAF (68)	ファインダーをのぞくとオートフォーカスするかどうかを設定する。 (入/切)
FINDER/MONITOR (202)	ファインダーとモニターの表示切り換え方法を設定する。 (オート/マニュアル)
レンズなしリリース (198)	レンズが装着されていない状態でシャッターが切れるかどうかを設定する。 (許可/禁止)
フォーカス/リリース優先 (112)	オートフォーカスのときに、ピントが合っていないなくてもシャッターを切れるようにするかどうかの設定をする。 (フォーカス優先/リリース優先/ バランス重視)

☒シャッター半押しAF	シャッターボタンを半押ししたときに、オートフォーカスによるピント合わせを行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 (入/切)
☒シャッター半押しAEL	シャッターボタンを半押ししたときに、露出決定を行うかどうかを設定する。ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効。 (オート/入/切)
☒シャッター半押しブレ補正(66)	シャッターボタンを半押ししたときに、手ブレ補正を行うかどうかを設定する。 (入/切)
電子先幕シャッター(201)	電子先幕シャッター機能を使用するかどうかを設定する。 (入/切)
プレミアムおまかせオート(77)	[プレミアムおまかせオート]時の撮影方法や記録方法を設定する。 (連続撮影(オート/切) /画像抽出(オート/切))
露出補正の影響(119)	露出補正値をフラッシュの調光に反映するかどうかを設定する。 (定常光+フラッシュ /定常光のみ)
ブラケット順序	露出ブラケット、ホワイトバランスブラケットの撮影順序を設定する。 (0 → - → + /- → 0 → +)
個人顔登録(161)	優先してピントを合わせる人物の登録・編集を行う。 (新規登録/優先順序変更/削除/全て削除)

AF微調整(111)	オートフォーカスでのピント位置を微調整する。 (AF微調整設定/調整値/調整値クリア)
レンズ補正(203)	レンズ補正の種類を選ぶ。 (周辺光量補正/倍率色収差補正/ 歪曲収差補正)
ファンクションメニュー設定 (36)	Fn (ファンクション)ボタンで表示する機能をカスタマイズする。 (ドライブモード/フラッシュモード/ 調光補正/フォーカスエリア/露出補正/ ISO感度/測光モード/ホワイトバランス/ DRO/オートHDR/クリエイティブスタイル/ 撮影モード/ピクチャーエフェクト/ 中央ボタン押しロックオンAF/ 顔検出/スマイルシャッター/美肌効果/ オートフレーミング/画像サイズ/横縦比/ 画質/手ブレ補正(静止画) /手ブレ補正(動画) / 録音レベル/ゼブラ/グリッドライン/ 音声レベル表示/ピーキングレベル/ ピーキング色/未設定)
カスタムキー設定 (199)	あらかじめキーに機能を設定しておく、キーを押すだけで設定しておいた機能を実行できる。 (フォーカスホールドボタン*/AELボタン/ ISOボタン/露出補正ボタン/ ホワイトバランスボタン/ ドライブモードボタン/AF/MFボタン/ Cボタン/プレビューボタン/  ボタン/中央ボタン) * レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定します。

ダイヤルの設定	撮影モードがMのとき、前ダイヤルと後ダイヤルに、シャッタースピードと絞り値のどちらを割り当てるか設定する。 ( シャッター  絞り/  絞り  シャッター)
ダイヤル露出補正 (119)	前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出補正ができるように設定する。 (切/前ダイヤル/後ダイヤル)
MOVIE (動画)ボタン (70)	MOVIEボタンの有効/無効を設定します。 (常に有効/動画モードのみ有効)
ダイヤルロック	Fnボタンを長押しして、前ダイヤル/後ダイヤルを一時的に無効にする機能を設定する。Fnボタンを長押しすることでロックまたはロック解除する。 (入/切)

(ワイヤレス)

スマートフォン転送	スマートフォンに画像を表示、転送する。 (カメラから選ぶ/スマートフォンから選ぶ)
パソコン保存	本機の画像をネットワークにつながれたパソコンに転送し、バックアップをとる。
テレビ鑑賞	ネットワークにつながれたテレビで画像を見る。
スマートフォン操作	スマートフォンでカメラを遠隔操作して、静止画・動画を撮影したり、撮影した静止画をスマートフォンに保存する。

飛行機モード	飛行機などに搭乗するとき、Wi-Fi/NFC機能を使用する設定を一時的にすべて無効にする。 (入/切)
アクセスポイント簡単登録	WPSボタンを押すことで、簡単にアクセスポイントを登録できる。
アクセスポイント手動登録	手動でアクセスポイントを登録できる。
機器名称変更	Wi-Fi Directなどの機器名称を変更する。
MACアドレス表示	本機のMACアドレスを表示する。
SSID・PWリセット	スマートフォン接続の接続情報をリセットする。
ネットワーク設定リセット	すべてのネットワーク設定をリセットする。

▶ (再生)

削除(192)	画像を削除する。 (画像選択/このフォルダーの全画像/ この日付の全画像)
ビューモード(181)	画像を日付ごとや静止画/動画のフォルダーごとに再生します。 (日付ビュー / フォルダービュー (静止画) / フォルダービュー (MP4) / AVCHDビュー)
一覧表示(182)	画像を一覧表示する。 (9枚/25枚)
記録画像の回転表示 (185)	縦向きで記録した静止画の再生方法を設定する。 (オート/マニュアル/切)

スライドショー (184)	画像を連続再生する。 (リピート/間隔設定)
回転(183)	画像を回転する。
⊕拡大(181)	再生画像を拡大表示する。
4K静止画再生(197)	HDMI接続した4K対応テレビに4K解像度で静止画を出力する。
プロテクト(189)	画像を誤って消さないように保護(プロテクト)する。 (画像選択/このフォルダーの全画像/ この日付の全画像/このフォルダーを全て解除/ この日付を全て解除)
プリント指定(190)	メモリーカードの画像にプリント予約マークを付ける。 (画像選択/全画像解除/印刷設定)

(セットアップ)

モニター明るさ(201)	モニターの明るさを設定する。 (オート/マニュアル/屋外晴天)
ファインダー明るさ (202)	ファインダー使用時、ファインダーの明るさを設定する。 (オート/マニュアル)
ファインダー色温度	ファインダーの色温度を設定する。
音量設定	動画再生時の音量を設定する。
電子音	AF合焦時や、セルフタイマー操作時の電子音の有無を設定する。 (入/切)
アップロード設定 (207)	市販のEye-Fiカードを使うときのアップロード通信設定をする。 (入/切)

タイトルメニュー (37)	MENUボタンを押したときに、タイトルメニューを表示するかを設定します。 (入/切)
モードダイヤルガイド (76)	モードダイヤルガイド(各撮影モードの説明)の表示を設定する。 (入/切)
削除確認画面	削除の確認画面で、[削除]と[キャンセル]のどちらを選択された状態にするかを設定する。 (「削除」が先/「キャンセル」が先)
パワーセーブ開始時間 (202)	自動的に省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定する。 (30分/5分/2分/1分/10秒)
クリーニングモード (246)	イメージセンサーをクリーニングする。
デモモード	動画のデモンストレーションの入/切を設定する。 (入/切)
リモコン(172)	赤外線リモコンを使用する/しないを設定します。 (入/切)
HDMI設定(194、196)	HDMIに関する設定を行います。 (HDMI解像度/HDMI情報表示/ HDMI機器制御)
USB接続(226)	接続するパソコンやUSB機器に合わせて設定する。 (オート/マスタストレージ/MTP/ PCリモート)

USB LUN設定(227)	USB接続の機能を制限して互換性を高める。通常は[マルチ]のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、[シングル]に設定する。 (マルチ/シングル)
日時設定(64)	時計、日付の設定をする。
エリア設定(64)	本機を使用する場所に適した時刻に設定する。
フォーマット(204)	メモリーカードをフォーマット(初期化)する。
ファイル番号(204)	ファイル番号の付けかたを設定する。 (連番/リセット)
記録フォルダー選択(205)	画像を記録するフォルダーを設定する。
フォルダー新規作成(206)	静止画と動画(MP4)を記録する新しいフォルダーを作成する。
フォルダー形式(205)	静止画を記録するフォルダーの形式を設定する。 (標準形式/日付形式)
管理ファイル修復(206)	画像の管理ファイル修復を行い、記録・再生できるようにする。
メディア残量表示	現在撮影可能な動画の時間と静止画の枚数を表示する。
バージョン表示(217)	本機のソフトウェアのバージョンを表示する。
認証マーク表示	本機が対応している認証情報を表示する(表示されるのは認証情報の一部のみに なります)。

設定リセット(211)

設定をお買い上げ時の設定に戻す。すべての設定を初期値に戻す場合は、[初期化]を選ぶ。

(初期化/撮影設定リセット)

カメラ内ガイドを見る

[カスタムキー設定]で希望のボタンの機能にカメラ内ガイドを設定する。MENUの機能や設定に関する説明を表示します。

**MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 6 → [カスタムキー設定]
→ 希望のボタンの機能 → [カメラ内ガイド]を選ぶ。**

MENUボタンを押して、マルチセクターで説明を見たい項目を選び、[カメラ内ガイド]を設定したボタンを押す。

バッテリー（電池）を充電する

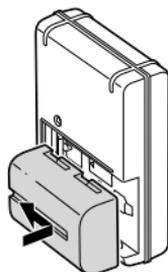
初めてお使いになるときは、インフォリチウム™バッテリー NP-FM500H（付属）を、必ず充電してください。

インフォリチウムバッテリーは、使い切らない状態でも充電できます。また、充電が完了していない状態で使用することもできます。

充電したバッテリーは、使わなくても少しずつ放電しています。撮影機会を逃さないためにも、ご使用前に充電してください。

1 バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。

カチッと音がするまで軽く押す。



準備する

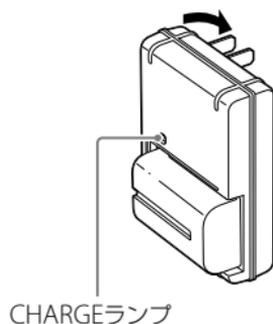
2 電源プラグを引き起こし、コンセントに取り付ける。

点灯：充電中

消灯：充電完了

充電時間の目安（満充電）	約175分
--------------	-------

- バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電した場合。
- 充電が完了すると、CHARGEランプが消える。

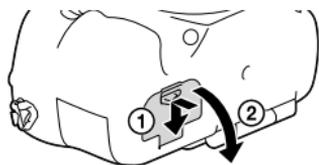


ご注意

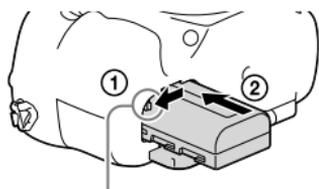
- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 必ずソニー製純正のバッテリーをお使いください。
- 周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- チャージャーはお手近なコンセントをお使いください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

バッテリー / メモリーカード(別売)を入れる

- 1 バッテリーカバーのオープンレバーを押し、カバーを開ける。



- 2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

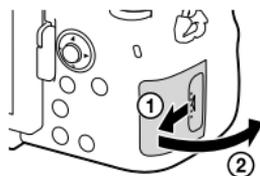


ロックレバー

- 3 カバーを閉じる。

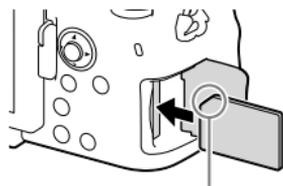


- 4 メモリーカードカバーをスライドして、カバーを開ける。



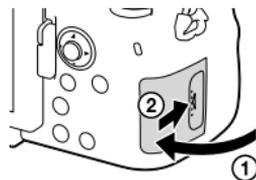
5 メモリーカードを入れる。

- 切り欠き部をイラストの向きに合わせ、「カチッ」と音がするまで奥に差し込む。



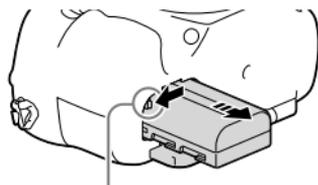
切り欠きの向きに注意する

6 カバーを閉じる。



バッテリーを取り出すには

電源を切り、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。



ロックレバー

メモリーカードを取り出すには

アクセスランプ(23ページ)が点灯していないことを確認し、カバーを開けて、メモリーカードを1度押します。

バッテリー残量を確認するには

付属のバッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているInfoLITHIUM™(インフォリチウム)バッテリーです。本機の使用状況に応じたバッテリー残量を%単位で表示します。

残量						「電池がなくなり ました」
	多 少					撮影できません

使用できるメモリーカード

本機で使用できるメモリーカードは、以下の通りです。ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

対応メモリーカード	静止画	動画	本書での表現
メモリースティック PRO デュオ™	○	○*1	メモリースティック PRO デュオ
メモリースティック PRO-HG デュオ™	○	○	
メモリースティック XC-HG デュオ™	○	○	
SDメモリーカード*	○	○*2	SDカード
SDHCメモリーカード*	○	○*2	
SDXCメモリーカード	○	○*2	

*1 Mark2のみ対応

*2 Class4以上で対応

- SDカードはUHS-IIにも対応しています。

ご注意

- メモリースティック XC-HG デュオおよびSDXCメモリーカードに記録した映像は、exFATに対応していないパソコンやAV機器などに、本機とマイクロUSBケーブルで接続して取り込んだり再生することはできません。接続する機器がexFATに対応しているかを事前にご確認ください。対応していない機器に接続した場合、フォーマット(初期化)を促す表示が出る場合がありますが、決して実行しないでください。内容がすべて失われます。(exFATは、メモリースティック XC-HG デュオおよびSDXCメモリーカードで使用されているファイルシステムです。)

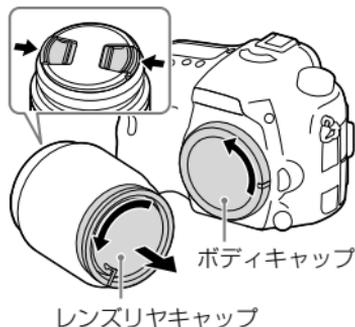
レンズを取り付ける

レンズの取り付け/取りはずしは、本機の電源を「OFF」にしてから行ってください。

1 本機のボディキャップとレンズの後ろのレンズリヤキャップをはずす。

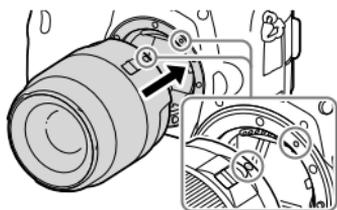
- カメラ内部にゴミやほこりが入らないように、ほこりの少ない場所で素早く行う。
- 撮影するときは、レンズ前面のレンズフロントキャップもはずす。

レンズフロントキャップ



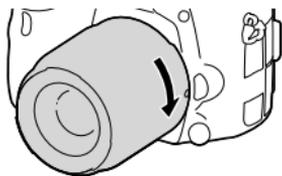
2 レンズと本機の2つのオレンジ色の点(マウント標点)を合わせてはめ込む。

- ゴミやほこりが入らないよう、マウントを下向きにして取り付ける。



3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

- レンズを斜めに差し込まない。

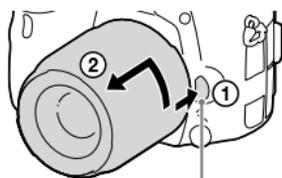


ご注意

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。
- Eマウントレンズには対応していません。
- 三脚座を備えたレンズを使用するときは、重量のバランスをとるためにレンズ側の三脚座を三脚に取り付けて使用してください。
- レンズを取り付けてカメラを持ち運ぶときは、カメラとレンズの両方をしっかり持ってください。
- ズームやピント合わせなどで繰り出したレンズ部分を持って、カメラを保持しないでください。

レンズを取りはずすには

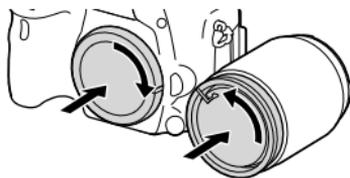
- 1 レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。



レンズ取りはずしボタン

- 2 本機にボディキャップを、レンズの前後にキャップを取り付ける。

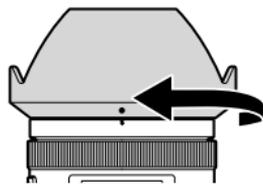
- キャップは、ほこりを落としてから取り付ける。



レンズフードを取り付けるには

画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

レンズフードの取り付け部の形状とレンズの先端の形状を合わせ、「カチッ」というまで時計方向に回す。



ご注意

- レンズフードは正確に取り付けてください。レンズフードの効果が出なかったり、画面の一部にレンズフードが写り込むことがあります。
- DT 16-50mm F2.8 SSMに正しくフードを取り付けると、レンズのフード標線（赤線）とフードの赤点が合います。
- フラッシュ発光時はレンズフードでフラッシュ光がさえぎられ、画像に影が写ることがあるため、レンズフードを取りはずしてください。
- 撮影後レンズフードを収納するときは、逆向きにレンズに取り付けてください。

レンズ交換時のご注意

レンズ交換の際に、カメラ内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。

本機はアンチダスト機能により電源オフ時にイメージセンサーが少し振動し、ゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。

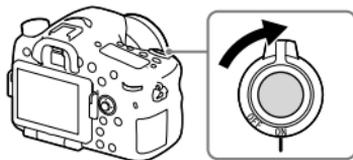
日付と時刻を設定する

初めて電源を入れたときや設定値リセットを行ったあとは、日時設定の画面が表示されます。

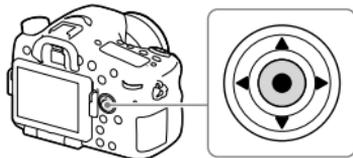
1 電源スイッチを「ON」にして、電源を入れる。

日時設定を要求する画面になる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。



2 モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、マルチセレクター中央の●を押す。



3 [東京/ソウル]が選ばれていることを確認し、中央の●を押す。

4 マルチセレクターの▲/▼で設定する項目を選び、中央の●を押す。

5 ▲/▼/◀/▶で希望の設定を選び、中央の●を押す。

[サマータイム:] : 日本では、サマータイムは[切]にする。

[表示形式:] : 日付表示順を選ぶ。

- [日時]を設定する場合、真夜中は12:00AM、正午は12:00PMとなる。

6 手順4、5を繰り返して、すべて設定し、[実行]を選んで中央の●を押す。

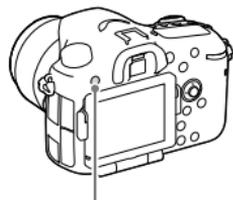
日時設定を中止するには

MENUボタンを押します。

日時やエリアを合わせ直す

日時設定画面は、初めて電源を入れたときや、内蔵バックアップ電池が消耗したときに自動で開きます。2回目以降はメニューで設定してください。

MENUボタン →  (セットアップ)
4 → [日時設定] または [エリア設定]
を選ぶ。



MENUボタン

ご注意

- 本機には、画像に日付を挿入する機能はありません。PlayMemories Homeを使用すると、日付を入れて保存/印刷できます(223ページ)。

設定した日時の保持について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切やバッテリーの有無に関係なく保持するために、充電式バックアップ電池を内蔵しています(250ページ)。

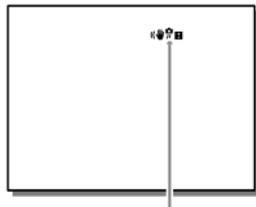
手ブレを抑えてきれいに撮る

「手ブレ」とは、撮影時にカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。

手ブレを抑えるには、以下の方法があります。

手ブレ警告表示について

手ブレのおそれがある場合は、 (手ブレ警告)表示が点滅します。この場合は、三脚、またはフラッシュを使ってください。



 (手ブレ警告)表示

準備する

手ブレ補正機能を使う

本機は本体内に手ブレ補正機能を搭載しており、手ブレを抑制します。機能の入/切は、静止画撮影時、動画撮影時それぞれで設定でき、お買い上げ時は静止画撮影は[入]、動画撮影は[切]になっています。

MENUボタン →  (撮影設定) 8 → [手ブレ補正]または[手ブレ補正] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 電源スイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。
- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能が誤動作するおそれがあるため、手ブレ補正機能を「切」にしてください。

シャッターボタン半押し時に手ブレ補正機能を使う

従来は撮影する瞬間にのみ働いていた静止画の手ブレ補正機能を、シャッターボタンを半押ししている間使うことができます。お買い上げ時の設定は「入」です。バッテリーの消耗を抑えたいときは「切」に設定してください。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 5 →
[シャッター半押しブレ補正] → 「入」を選ぶ。

ご注意

- [手ブレ補正]が「切」のときは、[シャッター半押しブレ補正]は使用できません。
- [シャッター半押しブレ補正]を「入」に設定していても、シャッターボタンを半押しし続けたままにすると、バッテリーの消耗を抑えるために手ブレ補正機能は一時的に働かなくなります。

正しく構える

上半身を安定させて、カメラが動かないように構える。

ファインダーモード時



ファインダーモード時
(縦位置)



モニターモード時



ポイント①

片手でカメラのグリップを持ち、もう片方の手でレンズの下側を支える。

ポイント②

両足を肩幅に広げて、下半身を安定させる。

ポイント③

脇を軽く締める。

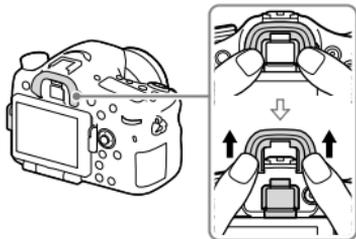
低い姿勢で撮影するときは、膝のうえに、肘などを乗せるなどして、上半身を安定させる。

アイピースカップを取りはずす

アングルファインダー FDA-A1AM (別売)を取り付けるときなどは、アイピースカップを取りはずします。

アイピースカップを取りはずす。

- アイピースカップの下部に指をおき、上方向にスライドさせる。



ご注意

- アングルファインダー FDA-A1AM (別売)を取り付けるときは、FINDER/MONITOR切り換えボタンを押してファインダーとモニターの表示を切り換えてください。ファインダーの上のアイセンサーが作動することがあるため、[アイスタートAF]を[切]にして使用することをおすすめします。

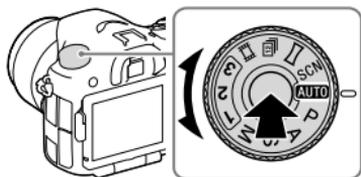
静止画を撮る

「オートモード」では、本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。

1 電源スイッチをONにして、電源を入れる。

2 モードダイヤルを **AUTO** (オートモード)にする。

- ダイヤル中央のモードダイヤルロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを回してください。



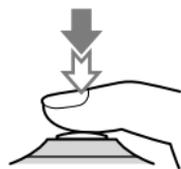
3 ファインダーをのぞいて、本機を構える。

- ズームレンズの場合は、ズームリングを回して被写体の大きさを決めます。



4 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●または(●) (フォーカス表示)が点灯する(102ページ)。



5 シャッターボタンを深く押し込んで、撮影する。

[オートフレーミング]が[オート]の場合、人物の顔やマクロ撮影する被写体、またロックオンAFでとらえた被写体を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し(トリミング)した画像が記録される。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録される。



動画を撮る

1 モードダイヤルをM(動画)にする。

- [MOVIE (動画)ボタン]を[常に有効]にすると、すべての撮影モードから動画撮影を開始できる。

2 MOVIE (動画)ボタンを押して、撮影を開始する。

MOVIE (動画)ボタン



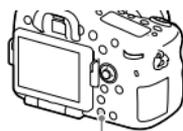
3 もう一度MOVIE (動画)ボタンを押して、撮影を終了する。

ご注意

- 動画撮影中はレンズやカメラの作動音などが記録されてしまうことがあります。[音声記録]を[切]にすると、音声記録されなくなります(180ページ)。
- 1回の連続撮影時間は環境温度や本機の使用状態により、撮影可能時間が短くなる場合があります。「動画の連続撮影についてのご注意」(264ページ)を確認してください。
- [H]が表示された場合は、本機の温度が上がっています。本機の電源を切り、温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 連続して撮影している場合は、本機の温度が上昇しやすく、熱く感じる場合がありますが故障ではありません。また、「しばらく使用できません カメラの温度が下がるまでお待ちください」という表示が出る場合があります。その場合は、本機の電源を切って、本機の温度が下がるのを待ってから撮影してください。
- 動画の[プログラムオート]モードでは、絞り値とシャッタースピードは自動で設定され、変更することはできません。また、フォーカスエリア点数は61点に設定されます。

再生する

1 ▶ ボタンを押す。



▶ ボタン

2 マルチセレクターの◀/▶で画像を選ぶ。

- 動画を再生する場合は、マルチセレクター中央の●を押す。

- 動画再生中に▼を押すと、操作パネルが表示されます。

操作パネル	できること
▶	再生
	一時停止
▶▶	早送り
◀◀	早戻し
▶◀	スロー再生
◀▶	スロー逆再生
▶▶	次の動画
◀◀	前の動画
▶	コマ送り
◀	コマ戻し
🔊	音量設定
↺	操作パネルを閉じる

ご注意

- 本機以外で撮影された動画ファイルは再生できない場合があります。

静止画と動画を切り換える

静止画を再生するには、[ビューモード]を[フォルダービュー（静止画）]に、動画を再生するには、[フォルダービュー（MP4）]または[AVCHDビュー]にする必要があります。また、[日付ビュー]を選ぶと、動画と静止画が混在で日付ごとに表示できます。

MENUボタン →  (再生) 1 → [ビューモード] → 希望のモードを選ぶ。

削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

1 削除したい画像を表示して、 ボタンを押す。



 ボタン

2 マルチセレクターの▲/▼で[削除]を選び、中央の●を押す。

- まとめて画像を削除したいときは、MENUボタン →  (再生) 1 → [削除]を選ぶ。

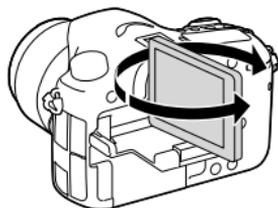
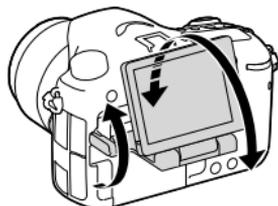
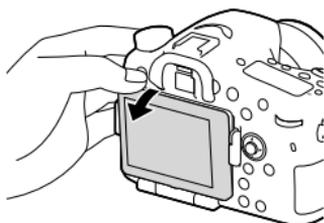
ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

モニターの角度を変えて撮る

モニターを見やすい角度に調節する。

- 右図のように、モニターの左上部に指をかけて、手前に引き出してください。
- 上に150°、手前に180°開きます。
- 引き出した状態で、さらに右に180°、左に90°回ります。
- 使用しないときは、モニターをカメラの内側に向けて収納することをおすすめします。

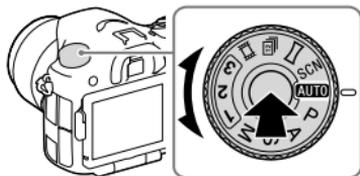


ご注意

- モニターを開いている場合は、ローポジションの撮影を考慮してアイセンサーが無効になる場合があります。ファインダーをのぞいても表示がモニターからファインダーに自動で切り替わらないときは、FINDER/MONITOR切り換えボタンを押してください。

撮影モードを変える

ダイヤル中央のモードダイヤル
ロック解除ボタンを押しながら、
モードダイヤルを回す。



本機には、以下の撮影モードがあります。

AUTO (オートモード) (76)	本機が適切だと判断した値で設定され、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できる。
P (プログラムオート) (86)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の設定は自分で調整できる。
A (絞り優先)(87)	絞りを調整し、ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できる。
S (シャッタースピード優先) (89)	シャッタースピードを手動調整し、動くものの表現を変えて撮影できる。
M (マニュアル露出)(90)	露出(シャッタースピードと絞り)を前/後ダイヤルで手動設定する。
1/2/3 (登録呼び出し) (209)	📷 (撮影設定)メニューの[登録]であらかじめ登録した設定を選んで呼び出す。
125 (動画)(70、174)	動画の撮影設定を変更して撮影する。
125 (連続撮影優先AE) (85)	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影する。毎秒最高約12枚の速度で連続して撮影する。
125 (スイングパノラマ) (81)	画像を合成してパノラマ画像を撮影できる。
SCN (シーンセレクション) (78)	撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、被写体に適した設定で撮影できる。

モードダイヤルを回したときに希望のモードを選べるようにする

モードダイヤルを回したときに撮影モードの説明を表示して、その撮影モード内の項目を変えることもできます。

1 MENUボタン →  (セットアップ) 2 →
[モードダイヤルガイド] → [入]を選ぶ。

2 モードダイヤルで希望の撮影モードを選ぶ。
選んだ撮影モードのガイドが表示される。

3 マルチセレクター中央の●を押す。
変更できる項目がある場合は、マルチセレクターの▲/▼で希望のモードを選ぶ。

AUTO オートモード

1 モードダイヤルを **AUTO** (オートモード)にする。

2 被写体にカメラを向け、ピントを合わせて撮影する。

 (おまかせオート)	本機が適切だと判断した値で撮影する。
 (プレミアムおまかせオート)	本機が撮影状況を認識して、自動的に設定を行う。 必要に応じて連続撮影し、合成や抽出によって最適な画像を保存する。

シーン認識

カメラがシーンを認識すると、シーン認識マークと連続撮影枚数が表示される。

[プレミアムおまかせオート]時は、認識したシーンに最適な撮影動作も表示される。
認識シーン：☾(夜景)、☾👤(手持ち夜景)、

▲(風景)、☀️(逆光&人物)、👤(人物)、

🌿(三脚夜景)、☀️(逆光)、👤(マクロ)、

👤(夜景&人物)、📍(スポットライト)、

📍(低照度)、👶(赤ちゃん)

撮影動作：連続撮影、スローシンクロ、

オートHDR、日中シンクロ、

スローシャッター、手持ち夜景

シーン認識マーク



連続撮影枚数

プレミアムおまかせオート時に連続撮影を設定するには

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 5 →

[プレミアムおまかせオート] → [連続撮影] → 希望の設定を選ぶ。

プレミアムおまかせオート時に連続撮影した画像の保存方法を設定するには

連続撮影した場合に、本機が判断した最適な画像を保存するか、すべての画像を保存するか設定できます。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 5 →

[プレミアムおまかせオート] → [画像抽出] → 希望の設定を選ぶ。

モードを切り換えるには

メニューからオート撮影の方法を選べます。

MENUボタン → 📷(撮影設定) 8 → [オートモード] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 認識シーンで[手持ち夜景]が選択された場合は、[画像抽出]を[切]にしても、保存される画像は合成された1枚になります。
- [📷画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは撮影動作が制限されます。

SCN シーンセレクション

こんなときに適しています

- 撮影状況に合わせて用意された設定で撮る。

1 モードダイヤルを SCN (シーンセレクション)にする。

2 ピントを合わせて撮影する。

<p> (ポートレート)</p>	<p>背景をぼかして、人物を際立たせる。肌をやわらかに再現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にする。 ● レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。 ● 逆光のときは、レンズフードをつけて撮る。 ● フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能(39ページ)を使う。 	
<p> (スポーツ)</p>	<p>高速なシャッタースピードで動く物が止まったように撮れる。シャッターボタンを押し続けると連続撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。 	

<p>🌸 (マクロ)</p>	<p>花や料理などに近づいて撮るときに適している。</p> <ul style="list-style-type: none"> マクロレンズ(別売)を使えば、より近づいて撮影できる。 1 m以内で撮る場合は、フラッシュモードを発光禁止にする。 近距離撮影では、手ブレ補正の効果を得にくい。補正の効果が得られないときは三脚を使用する。 ピントが合う最短距離は変わらない。 	
<p>🏞️ (風景)</p>	<p>風景を手前から奥までくっきりと鮮やかな色で撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 風景の広大さをより強調するには、レンズを広角側にする。 	
<p>🌅 (夕景)</p>	<p>夕焼けや朝焼けなどの赤を美しく撮る。</p>	
<p>🌃 (夜景)</p>	<p>暗い雰囲気損なわずに、夜景を撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがある。 	

<p>👉(手持ち夜景)</p>	<p>三脚を使わずにノイズが少ない夜景を撮る。連写を行い、画像を合成して被写体ブレや手ブレ、ノイズを軽減して記録する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 以下の場合はノイズを軽減する効果が弱くなる。 <ul style="list-style-type: none"> – 動きの大きな被写体 – 主要被写体とカメラの距離が近すぎる – 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体 – 波や滝など、常に模様に変化する被写体 • 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、ブロック状のノイズが発生することがある。 	
<p>👤 (夜景ポートレート)</p>	<p>夜景を背景に手前の人物を撮る。フラッシュ発光部を上げて使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。 	

シーンを切り換えるには

メニューからお好みのシーンを選べます。

MENUボタン → 📷 (撮影設定) 8 → [シーンセレクション] → 希望の設定を選ぶ。

撮影のテクニック

- より画像の仕上がりにこだわって撮影したい場合は、モードダイヤルを「P」、「A」、「S」、「M」にしてクリエイティブスタイル(148ページ)を使用すると、露出やISOなどの機能を自分で設定して撮影できる。

ご注意

- シーンセレクションでは、露出やISOなど、多くの機能がカメラまかせになり設定変更できなくなります。
- フラッシュは各シーンセレクションモードごとに自動発光/発光禁止が設定されています。この設定を変更することもできます(130、135ページ)。

☐ スイングパノラマ

こんなときに適しています

- 広大な景色や高層の建築物をそのままの迫力で撮る。

1 モードダイヤルを ☐ (スイングパノラマ)にする。

2 明るさ、ピントを合わせたい被写体にカメラを向け、シャッターボタンを半押しする。

- 撮影前に前ダイヤル、または後ダイヤルで撮影方向を変更できます。設定できるダイヤルは、[ダイヤル露出補正]の設定によって変わります。

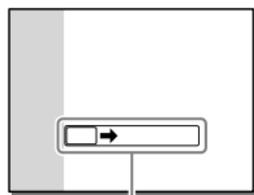
3 シャッターを半押しした状態で、構図の端にカメラを向ける。



撮影されない部分

4 シャッターボタンを深く押し込む。

5 画面に表示されている矢印の方向に、カメラをガイドの終わりまで動かす。



ガイド

ご注意

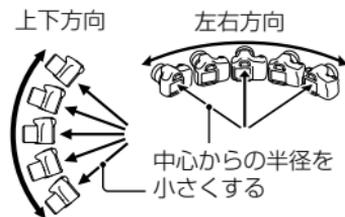
- 一定時間内にパノラマ撮影画角に満たなかった場合、足りない部分はグレーで記録されます。この場合はカメラを速く動かすと最後まで記録されません。
- 複数の画像を合成するため、つなぎ目がなめらかに記録できない場合があります。カメラを前後や左右に傾けず、まっすぐに動かして撮影してください。
- 暗いシーンでは画像がブレたり、撮影ができない場合があります。
- 蛍光灯など、ちらつきのある光源がある場合、合成された画像の明るさや色合いが一定ではなくなります。
- パノラマ撮影される画角全体と、AE/AFロックしたときの画角とで、明るさやピント位置などが極端に異なる場合、うまく撮影できないことがあります。このようなときは、AE/AFロックする場所を変えて撮影してください。
- 以下の場合はパノラマ撮影に適していません。
 - 動いている被写体
 - 主要被写体とカメラの距離が近すぎる
 - 空、砂浜、芝生など、似たような模様が続く被写体
 - 波や滝など、常に模様が変化する被写体
 - 太陽や電灯など、周囲との明るさの差が大きい被写体
- 以下の場合はパノラマ撮影が中断されることがあります。
 - カメラを動かす速度が速すぎる、または遅すぎる場合
 - ブレすぎた場合
- パノラマ撮影中は連続撮影となり、シャッター音が撮影終了まで鳴り続けます。

- パノラマ撮影では、以下の機能が使用できません。
 - 顔検出/スマイルシャッター
 - オートフレーミング
 - DRO/オートHDR
 - ピクチャーエフェクト
 - 美肌効果
 - 長秒時NR
 - 高感度NR
 - ロックオンAF
 - 光学ズーム以外のズーム
 - ドライブモード
- パノラマ撮影では、以下の機能は設定値が固定されます。
 - [ISO感度]は[ISO AUTO]に固定
 - [フォーカスエリア]は[ワイド]に固定
 - [フラッシュモード]は[発光禁止]に固定

スイングパノラマ撮影のポイント

一定の速度で円を描くように画面の矢印方向に動かしてください。パノラマ撮影は、止まっている被写体の撮影に適しています。

- パノラマ撮影には、広角レンズのご使用をおすすめします。
- 焦点距離が長いレンズを使用する場合は、広角レンズ使用時よりもゆっくりと動かしてください。
- シャッターボタンを半押しして、ピントや露出をロックしてから、カメラを動かしてください。
- 複雑な形状や景色が画面の端に偏っていると、うまく合成できないことがあります。その場合は、複雑な部分が画面の中央になるように構図を調整して撮影してください。



画像サイズを変更するには

画像サイズは、MENUボタン →  (撮影設定) 1 →

[パノラマ：画像サイズ]で希望の設定を選べます。

撮影方向を変更するには

カメラを動かす方向を設定します。

MENUボタン →  (撮影設定) 1 → [パノラマ：撮影方向] →
希望の設定を選ぶ。

パノラマ画像を見るには(スクロール再生)

パノラマ画像を選び、マルチセレクター中央の●を押す。

- もう一度中央の●を押すと一時停止する。一時停止中に▲/▼/◀/▶を押して手動でスクロール再生できる。

12 連続撮影優先AE

1枚目の撮影時に絞りを固定することで、高速の連続撮影ができます。

こんなときに適しています

- 動きの速い被写体を連続して撮り、瞬間をおさめる。
- 刻々と変わる子どもの表情を連続して撮り、お気に入りの画像を選ぶ。

1 モードダイヤルを¹²(連続撮影優先AE)にする。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。
- 毎秒最高約12枚の速度で連続して撮影する。

撮影のテクニック

- フォーカスモードダイヤルを「C」(コンティニュアスAF)にすると、撮影している間フォーカスと露出を合わせ続ける。ISOは希望の設定にできる。
- フォーカスモードダイヤルが「MF」(マニュアルフォーカス)、または「S」(シングルAF)のときのフォーカスは1枚目で固定される。

ご注意

- 顔検出は行いません。
- [オートHDR]に設定しているときは、一時的にDROの設定に従った処理が行われます。
- 速度は弊社測定条件によります。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。
- 連続撮影を優先するために、絞り値はF3.5 (開放絞り値がF3.5以上のレンズでは開放絞り値)に設定されます。また、フォーカスエリア点数は61点に設定されます。

P プログラムオート

こんなときに適しています

- 露出はカメラにまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定に変更したい。

1 モードダイヤルを「P」にする。

2 撮影機能を希望の設定にする(100 ~ 173ページ)。

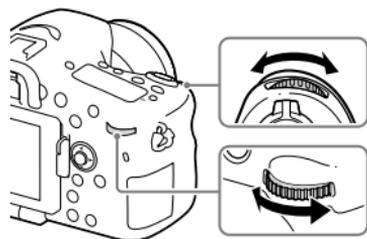
3 ピントを合わせて撮影する。

プログラムシフト

カメラが設定した適性露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

ピントを合わせた状態で前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

撮影モード表示は、「P*」になります。



A 絞り優先

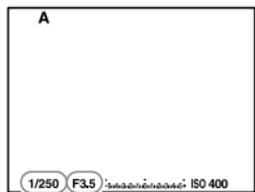
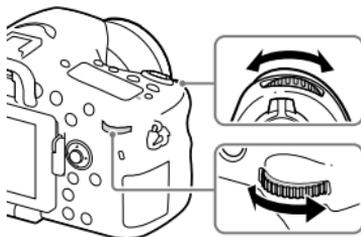
こんなときに適しています

- 被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる(被写界深度が浅くなる)。
- 風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる(被写界深度が深くなる)。

1 モードダイヤルを「A」にする。

2 前/後ダイヤルで、絞り値(F値)を選ぶ。

- 絞り値を小さくする：被写体の前後がぼける。
絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- モニター / ファインダーの画像は変化しない。撮影した画像を確認して、絞り値を調整する。
- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。



絞り値(F値)
シャッタースピード

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

撮影のテクニック

- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。
- 背景をよりぼかしたいときは、望遠レンズや明るいレンズを使う。
- プレビューボタンを押すと撮影前にぼかし具合を確認できる。

背景のぼかし具合を確認して撮るには(プレビューボタン)

モニター/ファインダーには、絞りが一番開いた状態の画像が見えています。絞りが異なると被写体のぼけ具合も変わるため、実際に撮影した写真のぼけ具合は撮影前に見ていた画像とは異なります。

プレビューボタンを押している間、設定した絞り値まで絞り込まれ、撮影前にぼけ具合を確認できます。

- ピントを合わせたあと、プレビューボタンを押す。
- プレビュー中に絞りを変更できる。

プレビューにはDROの効果やシャッタースピードの値も反映される[撮影結果プレビュー]と、絞りの値だけが反映される[絞りプレビュー](お買い上げ時)の2種類があります。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 6 → [カスタムキー設定] → [プレビューボタン]で希望の設定を選ぶ。

([カスタムキー設定]で他のボタンにも設定できます。)

ご注意

- 設定したシャッタースピードによって、プレビューされた画像が暗くなる場合がありますが、撮影結果は設定どおりの明るさで撮影できます。



プレビューボタン

S シャッタースピード優先

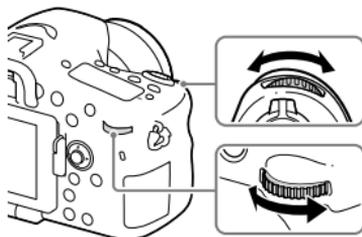
こんなときに適しています

- 一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。
- 動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

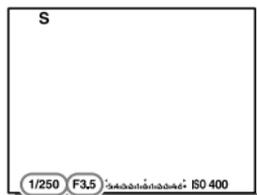
1 モードダイヤルを「S」にする。

2 前/後ダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。



撮影モードを変える



絞り値(F値)

シャッタースピード

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、 (手ブレ警告)は表示されません。
- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影(長時間露光)すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。処理中は撮影できません。

M マニュアル露出

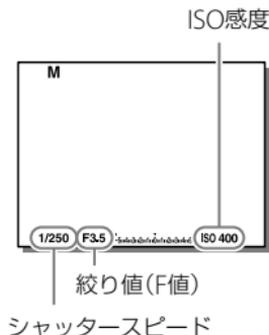
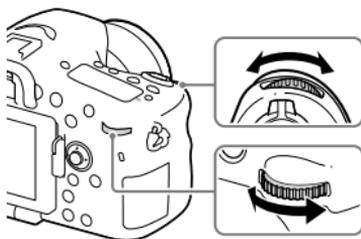
こんなときに適しています

- 絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

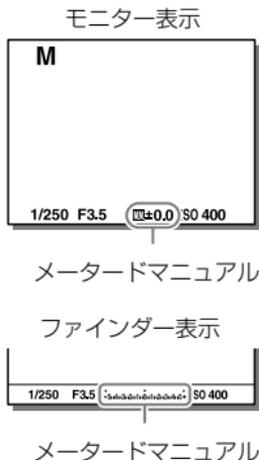
2 シャッタースピードを調整するときは後ダイヤルを回し、絞り値を選ぶときは前ダイヤルを回す。

- マニュアルモードでもISOを [ISO AUTO] に設定できる。ISOを [ISO AUTO] に設定したときには、設定した絞り値とシャッタースピードで適正露出になるようにISO感度が変化する。
- ISOが [ISO AUTO] のとき、設定した値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、ISO感度が点滅する。この場合はシャッタースピードまたは絞り値を変更する。



3 露出を合わせて撮影する。

- ISO感度を [ISO AUTO] 以外にしたときは、メータードマニュアル*で露出値を確認する。
+側：明るく写る
-側：暗めに写る
- * Mモード設定時、適正露光に対するアンダー / オーバーを示します。モニターでは数値で、ファインダーでは測光インジケータに表示される。



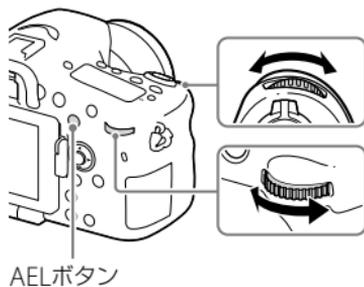
ご注意

- マニュアルモードでは、(手ブレ警告)は表示されません。

マニュアルシフト

設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

AELボタンを押しながら前/後ダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。



Mバルブ撮影

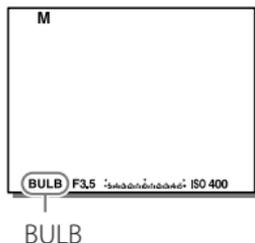
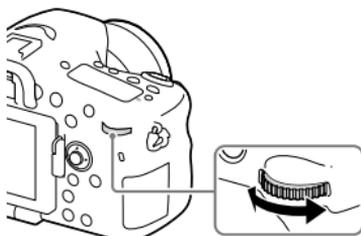
こんなときに適しています

- 花火の光が尾を引くような画像を撮る。
- 星の軌跡を撮る。

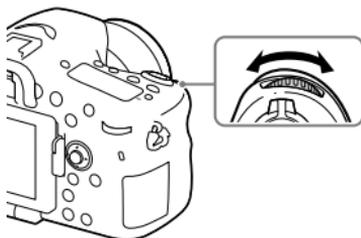
1 モードダイヤルを「M」にする。

2 後ダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

- ISOが[ISO AUTO]のとき、[BULB]に設定すると、ISO感度はISO AUTOの下限値に固定される。



3 前ダイヤルで絞り値(F値)を選ぶ。



4 シャッターボタン半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

- 三脚に取り付けて撮影する。
- 打ち上げ花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にする。無限位置が分からないレンズの場合は、同じような場所に上がる花火であらかじめピントを決めて撮影する。
- ワイヤレスリモコン(別売)を使う(172ページ)。リモコンのSHUTTERボタンを押すとバルブ撮影が始まり、もう一度押すと終了する。リモコンのSHUTTERボタンを押し続ける必要はありません。

ご注意

- 三脚を使う場合は、手ブレ補正機能を切にしてください。
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 画質を低下させずにバルブ撮影を行うためには、本機の温度が下がった状態で撮影を開始することをおすすめします。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理(長秒時ノイズリダクション)が行われます。処理中は撮影できません。画質よりも撮影タイミングを優先する場合は、長秒時NRを[切]にしてください(170ページ)。
- 以下の機能を使用しているときは、[BULB]に設定できません。また、[BULB]に設定しているときに以下の機能を使うと、シャッタースピードは一時的に30秒になります。
 - [連続撮影優先AE]
 - [スマイルシャッター]
 - [オートHDR]
 - [マルチショットNR]
 - [ピクチャーエフェクト]の[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]
 - [ドライブモード]の[連続撮影]、[セルフタイマー (連続)]、[連続ブラケット]
- 画像がブレやすくなるため、三脚や、シャッターボタンのロック機能を持つリモートコマンダー (別売)のご使用をおすすめします。

撮影モードごとの設定可能機能

選んでいる撮影モードによって、設定できない機能があります。

○は選択可能、×は選択不可能を表しています。

設定できない機能はグレーで表示されます。

撮影モード		露出補正 (118)	セルフタイマー (125)	連続撮影 (124)	顔検出 (159)	スマイルシャッター (164)	オートフレーミング (162)
AUTO (76)		×	○	○	○	○	○
SCN (78)		×	○	×	○	○	○
		×	×	○	○	○	×
		×	○	×	○	○	○
		×	○	×	×	×	○
		×	○	×	×	×	○
		×	×	×	○	×	×
		×	○	×	○	○	○
	(81)	○	×	×	×	×	×
	(85)	○	×	×	×	×	×
P (86)		○	○	○	○	○	○
A (87)		○	○	○	○	○	○
S (89)		○	○	○	○	○	○
M (90)		×*	○	○	○	○	○
	(70、174)	○*	×	×	○	×	×

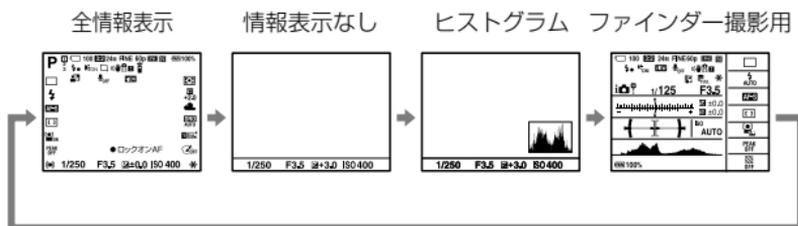
* 撮影モード「M」のときは、ISOが「ISO AUTO」のときのみ露出補正が可能です。

画面の表示を変える(DISP)

撮影情報画面の表示は、お買い上げ時はDISPボタンを押すたびに下記のよう切り替わります。



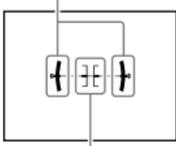
DISPボタン



使用する画面表示を選ぶ

使用する画面表示を選ぶことができます。DISPボタンを押して画面を切り換えると、選択した画面のみが表示されます。モニターとファインダーは別に設定できます。

- 1 MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) 2 → [DISPボタン] → [背面モニター]または[ファインダー]を選ぶ。
- 2 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で希望の画面を選んで、中央の●を押す。
- 3 希望の画面を選び、[実行]を選んで中央の●を押す。

グラフィック表示	シャッタースピードと絞り値をグラフィカルに表現し、露出の仕組みを分かりやすくイメージ化して表現する。 シャッタースピードインジケータ (A) / 絞りインジケータ (B) のバーが現在の値を指す。	 (A) (B)
全情報表示	撮影画面にすべての情報を表示する。	
情報表示なし	撮影画面に情報を表示しない。	
ヒストグラム	ヒストグラムを表示する(98ページ)。	
水準器	カメラの前後左右の傾きを指標で示す。水平、平衡状態のときは、表示が緑色になる。 <ul style="list-style-type: none"> • 本機を前または後に大きく傾けると、水準器の誤差が大きくなる。 • 傾きがほぼ補正された状態でも$\pm 1^\circ$程度の誤差が生じることがある。 	<p>水平方向</p>  <p>前後方向</p>
ファインダー撮影用*	ファインダーをのぞいて撮影するスタイルに適した表示になる(25ページ)。	

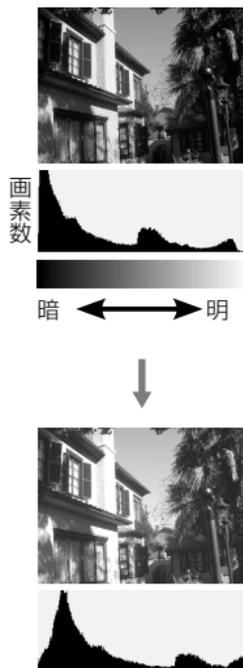
* [背面モニター]時のみ選択可能。

ヒストグラム

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。

ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、撮影後、画像をパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正をしてから撮影してください。



ご注意

- ヒストグラムは、撮影結果ではなく、画面で見ている画像のヒストグラムになります。絞り値などにより結果が異なります。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは、下記のととき大きく異なります。
 - フラッシュ発光したとき
 - 夜景などの低輝度な被写体のとき

ライブビューの見えかたを変更する

ライブビューに各種設定を反映させた表示をするかどうかを設定できます。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 2 → [ライブビュー表示]
→ 希望の設定を選ぶ。

設定効果反映On	すべての設定を反映させ、撮影結果に近い状態でライブビューを表示する。撮影結果をライブビュー画面で確認しながら撮影する場合に有効。
設定効果反映Off	露出やホワイトバランス、クリエイティブスタイル、ピクチャーエフェクトなどの設定を反映させずにライブビュー表示をする。エフェクトをかけて撮影する場合などにも、見やすい状態でライブビューが表示され、構図確認が容易になる。

ご注意

- 撮影モード[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]、[スイングパノラマ]、[動画]、シーンセレクション時は[設定効果反映Off]に設定できません。
- [設定効果反映Off]に設定時は、表示されるライブビューと撮影した画像の明るさなどが一致しません。

撮影のテクニック

- スタジオフラッシュなど他社製フラッシュを使用時には、設定されたシャッタースピードによってライブビューが暗くなる場合がある。ライブビュー表示を[設定効果反映Off]に設定することで、ライブビューが明るく表示され、構図確認が容易になる。

ピントを合わせる

ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法(マニュアルフォーカス)があります。

レンズによって、オートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り換え方法が異なります。

レンズの種類	切り換える場所	オートフォーカスにするには	マニュアルフォーカスにするには
フォーカスモードスイッチあり	レンズ	レンズのフォーカスモードスイッチを「AF」にする。 (カメラのフォーカスモードダイヤルをMF (マニュアルフォーカス)以外にする。)	レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。*
フォーカスモードスイッチなし	カメラ	カメラのフォーカスモードダイヤルをMF (マニュアルフォーカス)以外にする。	カメラのフォーカスモードダイヤルをMF (マニュアルフォーカス)にする。

* SSMLレンズとDMF対応のSAMレンズではレンズのフォーカスモードスイッチが「AF」のままで、本体側からすべてのフォーカスモードを切り換えることができます。

オートフォーカス

- 1 本機のフォーカスモードダイヤルをMF (マニュアルフォーカス)以外の好みの設定に合わせる。
- 2 レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、AFにする。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントの状態を確認して撮影する。

- ピントが合うと、フォーカス表示が●または(●)になる(102ページ)。
- ピントが合ったフォーカスエリアが緑色になる。



フォーカス表示

AF-S (シングルAF)	シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定される。
AF-A (AF制御自動切り換え)	被写体の動きに応じて、シングルAFとコンティニュアスAFが切り替わる。シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止しているときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。 <ul style="list-style-type: none"> • [AF-Aの機能]で、フォーカスモードダイヤルのA (AF制御自動切り換え)の機能をDMF (ダイレクトマニュアルフォーカス)にできる(115ページ)。
AF-C (コンティニュアスAF)	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。 <ul style="list-style-type: none"> • ピントが合ったときの電子音は鳴らない。 • フォーカスロックはできない。

撮影のテクニック

- 動きのない被写体では、[シングルAF]を使う。
- 動いている被写体にピントを合わせるときは、[コンティニューアスAF]を使う。
- ピント合わせに使うフォーカスエリアを選びたいときは、[フォーカスエリア]で設定する(104ページ)。
- ピント合わせの速度を変えるには[AF駆動速度]で設定する。

ご注意

- オートフォーカス作動中は、レンズによってはフォーカスリングが回転しますので触れないでください。

フォーカス表示の意味

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。
◎点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。
⊕点灯	ピント合わせの途中。
●点滅	ピントが合っていない。

ピントが合いにくい被写体

下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影(104ページ)、またはマニュアルフォーカス撮影(112ページ)を行ってください。

- 青空や白壁などコントラストのないもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンが連続するもの
- 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの
- 光量が不足しているとき

レンズによるフォーカスエリア点数について

本機は最大79点のフォーカスエリアを使ったピント合わせが行えますが、以下のレンズを使用時はフォーカスエリア点数が制限されます。

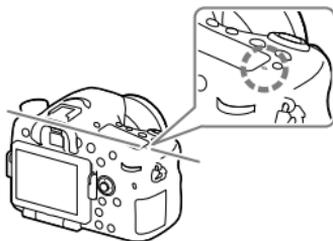
レンズ型名	フォーカスエリア点数
SAL75300、SAL1118、SAL55200、SAL1855、 SAL18552、SAL55200-2、SAL30M28、SAL55300	61点に制限
SAL500F80	中央1点に制限

- 本機発売日時点の情報です。また、国や地域によっては未発売のレンズがあります。

撮影距離を正確に測るには

本機上面の  マークがイメージセンサー*面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

- * イメージセンサー：光を電気信号に変える部分



ご注意

- お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎているか、確認してください。

静止画撮影時のオートフォーカスの追従感度を変更する

距離の異なる被写体を次々に撮影するときは[5 (高)]を、多くの被写体が交差するときは[1 (低)]を選ぶと便利です。

MENUボタン →  (撮影設定) 4 → [AF追従感度] → 希望の設定を選ぶ。

フォーカスロック

- 1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

ピントが固定される。

- フォーカスモードダイヤルを「S (シングルAF)」にする。



- 2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。



- 3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

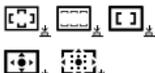
フォーカスエリア

ピント合わせの位置を変更します。

ピントが合いにくいときなどに使います。

MENUボタン →  (撮影設定) 3 → [フォーカスエリア] → 希望の項目を選ぶ。

 (ワイド)	最大79個のフォーカスエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。
 (ゾーン)	モニター上でピントを合わせたいゾーンの位置を選ぶ。ゾーンは9個のフォーカスエリアに分かれており、その中でピントを合わせるエリアが自動的に決定される。

 (中央)	常に中央部のフォーカスエリアでピントを合わせる。
 (フレキシブルスポット)	最大79個のフォーカスエリアからピントを合わせるフォーカスエリアを選ぶ。
 (拡張フレキシブルスポット)	フレキシブルスポットの周囲8点のフォーカスエリアを合焦の第2優先エリアとして、選んだ1点でピントが合わせられない場合に、この周囲のフォーカスエリアを使ってピントを合わせる。
 (ロックオンAF)	シャッターボタンを半押しすると、選択されたAFエリアから被写体を追尾する。 フォーカスエリア設定画面でロックオンAFにカーソルを合わせて、◀/▶でロックオンAFの開始エリアを変更できる。 追尾開始エリアをフレキシブルスポットまたは拡張フレキシブルスポットにすると、好きなところに追尾開始エリアを移動することもできる。

ご注意

- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、フォーカスエリアが点灯しないことがあります。

フォーカスエリアの自動消灯設定を選ぶ

フォーカスエリア表示を常に表示するか、合焦後一定時間経過後に非表示にするかを設定します。

MENUボタン →  (カスタム設定) 3 →

[フォーカスエリア自動消灯] → 希望の設定を選ぶ。

フォーカスエリア点数を設定する

非対応レンズ使用時にフォーカスエリア点数が意図しない点数に設定されるのを防ぐために、手動で切り換えます。

MENUボタン →  (カスタム設定) 3 → [フォーカスエリア点数] → 希望の設定を選ぶ。

フレキシブルスポット、拡張フレキシブルスポット時のフォーカスエリア点数を選ぶ

フォーカスエリア点数をすべて使用するか、15点に限定するかを設定できます。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 3 →
[フレキシブルスポット点数] → 希望の設定を選ぶ。

ワイド時のフォーカスエリア表示を選ぶ

フォーカスエリアをワイドにしているときにフォーカスエリアを表示する、しないの設定ができる。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 3 →
[ワイドフォーカスエリア表示] → 希望の設定を選ぶ。

中央ボタン押しロックオンAF

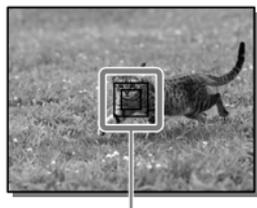
被写体が動いても、被写体を追尾し続けます。

1 MENUボタン → 📷 (撮影設定) 7 →
[中央ボタン押しロックオンAF] → [入]を選ぶ。

2 ターゲット枠を被写体に合わせ
て、マルチセレクター中央の●を
押す。

追尾を解除する場合は、もう一度
●を押す。

- 被写体を見失っても、再度被写体が見
れると発見し復帰することができます。



ターゲット枠

3 シャッターボタンを押し込み撮影する。

ご注意

- 以下のときは、ロックオンAF機能がうまく働かないことがあります。
 - 動きが速すぎる被写体
 - 小さすぎる、または大きすぎる被写体
 - 被写体と背景が同系色
 - 暗いシーン
 - 明るさが変わるシーン
- 以下のときは、ロックオンAF機能は動きません。
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]が[手持ち夜景]
 - マニュアルフォーカス
 - スマートテレコンバーター使用時
- 追尾している被写体が画面から消えると、ロックオンAFは解除されます。
- [中央ボタン押しロックオンAF]を[入]にしているときは、追尾している被写体を見失って一定期間経過後は復帰できないことがあります。

AFの作動範囲を限定する(AFレンジコントロール)

オートフォーカスの作動範囲を限定することができます。背景や撮りたい被写体よりも前にある物に邪魔されずにピントを合わせることができます。

お買い上げ時は、C (カスタム) ボタンに[AFレンジコントロール]が設定されています。

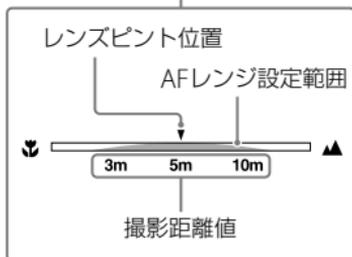
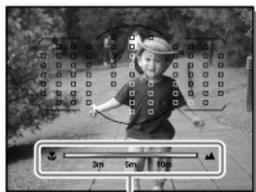
1 C (カスタム) ボタンを押す。



C (カスタム) ボタン

2 前ダイヤルで最大撮影距離を設定し、後ダイヤルで最短撮影距離を設定する。

- 設定したAFレンジ範囲内にある被写体と重なるフォーカスエリアが黄色く表示される。



3 もう一度C (カスタム) ボタンを押して距離を確定する。

- リミット範囲表示は残る。
- 設定された範囲内の被写体に重なるフォーカスエリアが黄色く表示される。

AFレンジコントロール機能を終えるには
もう一度C (カスタム) ボタンを押す。

撮影のテクニック

- 撮影したい被写体にフォーカスを合わせたあと、レンズピント位置▼が範囲内に入るようにAFレンジ設定範囲を調整する。
- フォーカスエリアの黄色い表示を見ながら、範囲内もしくは範囲外になるように設定する。

ご注意

- マニュアルフォーカス、動画のときは使用できません。
- レンズ交換すると、設定したAFレンジ範囲はリセットされます。
- フォーカスレンジリミッター機能があるレンズを使用している場合、本機のAFレンジコントロール機能と併用せず、どちらか一方をお使いください。
- 距離エンコーダ非搭載のレンズでは撮影距離値が表示されません。
- 撮影距離値は目安です。
- レンジ設定範囲、撮影距離値と実際のレンズピント位置はずれることがあります。
- 実際のAFレンジ設定範囲とフォーカスエリアの黄色い表示は合わないことがあります。
- ピントが合っていないとフォーカスエリアが黄色く表示されないことがあります。
- 光量が不足しているときや単色の平面などコントラストのない被写体では、フォーカスエリアが黄色く表示されにくいことがあります。被写体の輪郭部などを参考にしてください。
- レンズ内にモーターを持つレンズ(SSM、SAMレンズ*)以外ではダイレクトマニュアルフォーカスとの併用はできません。
 - * ダイレクトマニュアルフォーカスに対応していないSAMレンズもあります。お使いのレンズの取扱説明書でご確認ください。
- レンズ内にモーターを持つレンズ(SSM、SAMレンズ*)以外ではAF/MFコントロールとの併用時、無限遠への初期動作が入ることがあります。
 - * AF/MFコントロールに対応していないSAMレンズもあります。お使いのレンズの取扱説明書でご確認ください。

シャッターボタン以外でAFを行う(AFオン)

シャッターボタンを半押ししなくても、他のボタンでピント合わせができます。

オートフォーカスの設定はフォーカスモードダイヤルで設定しているモードになります。

[AFオン]を登録したボタン*を押す。

あらかじめ、[カスタムキー設定]でお好みのボタンの機能に[AFオン]を登録しておく。

* フォーカスホールドボタン、AELボタン、ISOボタン、露出補正ボタン、ホワイトバランスボタン、ドライブモードボタン、AF/MFボタン、Cボタン、プレビューボタン、ボタン、中央ボタンの中から選ぶ。

撮影のテクニック

- シャッターボタンでピント合わせをしたくない場合は、シャッター半押しAF]を[切]にする。

AF補助光

暗い場所でピントを合わせるために使う補助光を設定できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 3 → AF補助光] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- フォーカスモードダイヤルが「C (コンティニュアスAF)」のとき、または「A (AF制御自動切り換え)」で被写体が動いているとき(フォーカス表示または●が点灯しているとき)は、AF補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、AF補助光が発光しないことがあります。
- AF補助光機能のある外部フラッシュ (別売)を取り付けているときは、取り付けているフラッシュのAF補助光が発光します。本機の内蔵フラッシュ発光部は下げてください。
- スマイルシャッターが[入]のとき、AF補助光は発光しません。

AF微調整

レンズごとにピント合わせの位置を調整し、登録できます。
この操作は必要な場合のみ行ってください。誤って設定すると、適切にピントが合わせられなくなる場合がありますのでご注意ください。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 6 → [AF微調整] → [AF微調整設定] → [入] → [調整値] → 希望の調整値を選ぶ。

- 値を大きくすると、ピントが合う位置がカメラから遠ざかる。値を小さくすると、ピントが合う位置がカメラに近づく。

ご注意

- 調整は実際に撮影する環境で行うことをおすすめします。
- すでに登録されたレンズを装着しているときには、登録された調整値が表示されます。未登録レンズの場合は[±0]が表示されます。調整値が[-]と表示される場合は、すでに登録したレンズが30種になっており、これ以上登録はできません。新たに登録するには、登録削除するレンズを装着し、調整値を[±0]にするか、[調整値クリア]ですべての登録された調整値をリセットしてください。
- AF微調整はソニー、ミノルタ、コニカミノルタ製レンズに対応しています。非対応レンズでAF微調整を行うと、対応レンズの調整値に影響が出る場合があります。非対応のレンズでは調整を行わないでください。
- ソニー、ミノルタ、コニカミノルタで同じ仕様のレンズをお使いの場合、個々にAF微調整の設定はできません。

フォーカス/リリース優先

オートフォーカスのときにピントが合っていないなくてもシャッターを切れるようにするかどうかの設定をします。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) 4 →

[フォーカス/リリース優先] → 希望の設定を選ぶ。

- [リリース優先]、[バランス重視]を選ぶと、ピントが合っていないでもシャッターが切れます。
[バランス重視]はシャッターチャンスとピント合わせのバランスを取った撮影ができます。

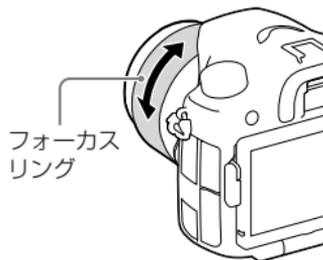
マニュアルフォーカス

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 レンズのフォーカスモードスイッチを「MF」にする。

2 レンズにフォーカスモードスイッチが付いていない場合は、本機のフォーカスモードダイヤルを「MF (マニュアルフォーカス)」にする。

3 レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。



ご注意

- ファインダー使用時は、視度調整が正しくないと、ファインダー上の正確なピントが得られません。
- マニュアルフォーカスのときは、レンズ側のフォーカスモードスイッチを必ず「MF」にしてください。切り換えずにフォーカスリングを無理に操作すると、故障の原因になります(ダイレクトマニュアルフォーカス機能のあるレンズを除く)。

ピントが合った部分を強調表示する(ピーキング)

マニュアルフォーカス撮影のときに、ピントが合った部分の輪郭を指定した色で強調表示します。微細なピント合わせが必要とされるマクロやポートレート撮影に便利です。

ピーキングのレベルとピーキングの色を設定することができます。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 2 → [ピーキングレベル] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 画像のシャープな部分をピントが合ったと判断するため、被写体やレンズによって強調表示効果が異なります。
- HDMI接続時はピーキングが表示されません。

ピーキングの色を設定するには

ピントが合った部分の輪郭を強調するピーキングの色を設定します。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 2 → [ピーキング色] → 希望の設定を選ぶ。

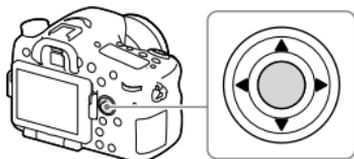
ピント拡大

マニュアルフォーカス時に撮影前の画像を拡大してピントの確認ができます。

1 MENUボタン →  (撮影設定) 6 → [ピント拡大]を選ぶ。

2 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で
拡大位置を調整する。

- ズーム倍率は、マルチセレクター中央の●を押すたびに下記のように変わる。
約5.9倍 → 約11.7倍



3 ピントの確認、調整をする。

-  (削除) ボタンを押すと拡大位置が中央に戻る。
- シャッターボタンを半押しすると、拡大表示は解除される。

4 シャッターボタンを押し込み撮影する。

- 拡大表示中のときにシャッターボタンを押しても撮影できるが、記録される画像は全体表示の範囲になる。
- 撮影後、拡大表示は解除される。

ダイレクトマニュアルフォーカス(DMF)

オートフォーカスでピントを合わせたあと、手動で微調整できます(ダイレクトマニュアルフォーカス)。フォーカスモードダイヤル「A(AF制御自動切り換え)」をこの機能に変更できます。最初からマニュアルフォーカスでピントを合わせるよりも素早くピント合わせができ、マクロ撮影などに便利です。

1 MENUボタン →  (撮影設定) 3 → [AF-Aの機能] → [DMF]を選ぶ。

2 フォーカスモードダイヤルを「A (AF制御自動切り換え)」にする。

3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる。

4 シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回してピントを調整する。

ご注意

- SAMレンズには、ダイレクトマニュアルフォーカスに対応しているレンズと、対応していないレンズがあります。お使いのSAMレンズがこの機能に対応しているかどうかについては、レンズの取扱説明書でご確認ください。

レンズ側でのダイレクトマニュアルフォーカスについて

ダイレクトマニュアルフォーカス機能を搭載しているレンズを使用し、フォーカスモードダイヤルが「S (シングルAF)」または「A(AF制御自動切り換え)」のときは、フォーカスロック後にフォーカスリングでピントの微調整を行えます(DT 16-50mm F2.8 SSMなど)。

AF/MFコントロール

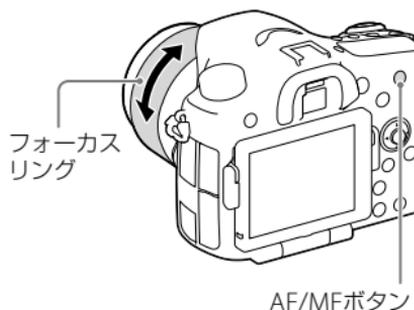
撮影中にカメラのホールディングを崩すことなく、オートフォーカスとマニュアルフォーカスを簡単に切り換えることができます(AF/MFコントロール)。

AF/MFボタンを押す。

オートフォーカスのとき：一時的にマニュアルフォーカスになる。AF/MFボタンを押したまま、フォーカスリングを回してピントを合わせる。

マニュアルフォーカスのとき：AF/MFボタンを押している間、一時的にオートフォーカスになり、ピントが固定される。

-  (カスタム設定)メニューの[カスタムキー設定] → [AF/MFボタン]で[再押しAF/MFコントロール]を選ぶと、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持できる(199ページ)。



瞳AF

ボタンを押している間、人物の目に合わせて合焦します。目に合焦すると、一定時間、目に枠が表示されます。

[瞳AF]を登録したボタン*を押す。

あらかじめ、[カスタムキー設定]でお好みのボタンの機能に[瞳AF]を登録しておく。

- * フォーカスホールドボタン、AELボタン、ISOボタン、露出補正ボタン、ホワイトバランスボタン、ドライブモードボタン、AF/MFボタン、Cボタン、プレビューボタン、ボタン、中央ボタンの中から選ぶ。

ご注意

- オートフォーカスが可能なエリア内に瞳が検出されていない場合など、状況によっては、目に合焦できない場合があります。目に合焦できないときは、顔を検出して顔に合焦します。
- 人物の顔を検出できない場合、[瞳AF]は使用できません。
- フォーカスモードをC（コンティニユアスAF）またはMF（マニュアルフォーカス）に設定しているときなど、状況によっては使用できない場合があります。
- 以下のときは、[瞳AF]機能がうまく働かないことがあります。
 - メガネ（サングラス）をかけた状態
 - 前髪がかかった状態
 - 低照度、逆光時
 - 目を閉じた状態
 - 影がかかった状態
 - ピントが大きくずれた状態

撮影のテクニック

- 瞳とフォーカスエリアが重なるように構図を工夫する。

露出補正

通常は、露出が自動的に設定されます(自動露出)。自動露出で設定された露出値を基準に、+側に補正すると、画像全体を明るく、-側に補正すると、画像全体を暗くできます(露出補正)。

1 [](露出補正)ボタンを押す。

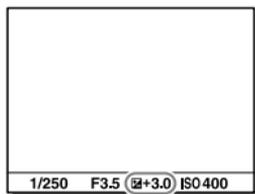
[](露出補正)ボタン



2 マルチセレクターの◀/▶で希望の補正值を選ぶ。

- + (オーバー)側：画像が明るくなる。
- (アンダー)側：画像が暗くなる。
- ファインダーモードのときは、測光インジケータで露出を確認してください。

モニター表示



露出補正值

ファインダー表示



露出補正值

3 ピントを合わせて撮影する。

MENUで設定する

MENUボタン →  (撮影設定) 4 → [露出補正] → 希望の設定を選ぶ。

撮影のテクニック

- 撮影した画像を見て補正値を調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる(126ページ)。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]またはシーンセレクションのときは、露出補正できません。
- 撮影モードが「M」のときは、[ISO AUTO]のときのみ露出補正が可能です。

前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出を補正するには

 ボタンを押さなくても、前ダイヤルまたは後ダイヤルで露出を補正できます。

MENUボタン →  (カスタム設定) 7 → [ダイヤル露出補正] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 前ダイヤルまたは後ダイヤルに露出補正を割り当てると、元々割り当てられていた機能は、露出補正を割り当てていないほうのダイヤルで操作できます。
- 撮影モード「M」で[ISO AUTO]を選択している場合、[ダイヤル露出補正]は無効です。

露出補正の影響を変えるには

フラッシュの調光にも反映するか、定常光だけに反映するか設定する。

MENUボタン →  (カスタム設定) 5 → [露出補正の影響] → 希望の設定を選ぶ。

明るさ確認しながら調節するには

画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル部分にしま模様が表示されます。明るさを調節するときの目安にすると便利です。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定)1 → [ゼブラ] → 希望の設定を選ぶ。

AEロック

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、被写体が適正な明るさになる箇所まで測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所まで測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所まで測光し、画面全体の露出を固定します。

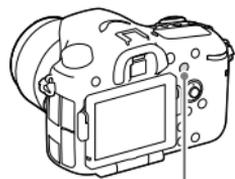
ここでは、測光モードを  (スポット) にして撮る例で説明します。

1 MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [測光モード] → [スポット] を選ぶ。

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

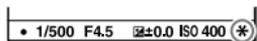
3 AELボタンを押して、露出を固定する。

- * (AEロックマーク) が点灯する。
- 測光インジケーターには、固定された露出を基準にしたスポット測光サークル内の測光値も表示される。



AELボタン

明るさを調整する



4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。
 -  (カスタム設定)メニューの[カスタムキー設定] → [AELボタン]で[再押しスポットAEL]を選ぶと、ボタンを押し続けなくても変更したモードを維持できる。
-

測光モード

MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [測光モード] → 希望の設定を選ぶ。

 (マルチ)	複数に分割した画面を各エリアごとに測光し、画面全体の最適な露出を決定する。
 (中央重点)	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光する。
 (スポット)	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行う。

撮影のテクニック

- 一般的な撮影では、[マルチ]を使う。
- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体の露出をスポット測光で測って、AEロック撮影をする(121ページ)。

ご注意

- 以下の場合、測光モードは[マルチ]に固定され、他の測光モードに変更できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]または[プレミアムおまかせオート]
 - [シーンセレクション]
 - 光学ズーム以外のズームを使用しているとき

☺/📷 ドライブモードを選ぶ

1枚撮影、連写、ブラケット撮影など、撮影の目的に合わせて使用してください。

☺/📷 (ドライブモード) ボタン →
希望のモードを選ぶ。

- ☺/📷 (ドライブモード) ボタンに他の機能が設定されている場合は、MENU ボタン → 📷 (撮影設定) 2 → [ドライブモード] → 希望の設定を選ぶ。

☺/📷 (ドライブ
モード) ボタン



☺ (1枚撮影) (124)	通常の撮影方法。
📷 (連続撮影) (124)	連続して撮影する。
☺ (セルフタイマー) (125)	10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利。
☺c (セルフタイマー (連続)) (125)	10秒後にセルフタイマーで指定した枚数を連続撮影する。
BRK c (連続ブラケット) (126)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を記録する。
BRK s (1枚ブラケット) (126)	露出を段階的にずらして、指定した枚数の画像を1枚ずつ撮影する。
BRK WB (ホワイトバランスブラケット) (129)	選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。
BRK DRO (DROブラケット) (129)	Dレンジオプティマイザーの値を段階的にずらして、合計3枚の画像を記録する。

1枚撮影

☺/☒ (ドライブモード) ボタン → □ (1枚撮影) を選ぶ。

ご注意

- シーンセレクションの[スポーツ]を選んでいるときは、1枚撮影できません。

連続撮影

1 ☺/☒ (ドライブモード) ボタン → ☒ (連続撮影) を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で希望のモードを選ぶ。

3 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。

ご注意

- ☒Hi (Hi)のときは、連写のコマ間に撮影された画像が表示されます。
- シーンセレクションの場合、[スポーツ]以外のモードでは連続撮影できません。

撮影のテクニック

- 連続撮影中にピントと露出を合わせ続けるには、以下の設定に変更する。
1枚目の露出は、シャッター半押し時に決定され、2枚目以降は露出を合わせ続ける。
 - フォーカスモードダイヤルを「C (コンティニュアスAF)」にする。
 - [シャッター半押しAEL]を[切]または[オート]にする。

セルフタイマー

1  /  (ドライブモード)ボタン →  (セルフタイマー)を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で希望のモードを選ぶ。

-  の横の数値は、現在選択されているセルフタイマーの設定。

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を示す。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマーを中止するには

 /  ボタンを押す。

セルフタイマーを解除するには

 /  ボタンを押して  (1枚撮影)を選ぶ。

撮影のテクニック

- セルフタイマー作動中の電子音を消すには、[電子音]を[切]にしてください(50ページ)。

セルフタイマー (連続)

1  /  (ドライブモード)ボタン →  (セルフタイマー (連続))を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で希望のモードを選ぶ。

-  の横の数値は、現在選択されているセルフタイマー (連続)の設定。

3 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が速くなる。

セルフタイマー（連続）を中止するには

☺/☑ボタンを押す。

セルフタイマーを解除するには

☺/☑ボタンを押して□(1枚撮影)を選ぶ。

撮影のテクニック

- セルフタイマー作動中の電子音を消すには、[電子音]を[切]にしてください(50ページ)。

連続ブラケット/1枚ブラケット



基準となる露出

-に補正

+に補正

露出を段階的にずらして撮影することをブラケット撮影といいます。基準の露出に対して、上下にずらす値の幅(段数)を指定すると、自動的に露出値をずらして合計3枚または5枚の画像を撮影します。

1 ☺/☑ (ドライブモード)ボタン → **BRK C** (連続ブラケット) または **BRK S** (1枚ブラケット)を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で希望の段数、枚数を選ぶ。

3ピントを合わせて撮影する。

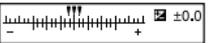
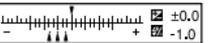
基準の露出は1枚目で設定される。

- [連続ブラケット]の場合は、撮影が終わるまでシャッターボタンを押し続ける。
- [1枚ブラケット]の場合は、1枚ずつシャッターボタンを押して撮影する。

ご注意

- 撮影モードが「M」で[ISO AUTO]のときはISO感度を変化させて露出値をずらしません。撮影モードが「M」で[ISO AUTO]以外の場合は、シャッタースピードを変化させて露出値をずらしません。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 以下の場合は、ブラケット撮影できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]または[プレミアムおまかせオート]
 - [連続撮影優先AE]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- フラッシュ発光時は[連続ブラケット]を選んでいても、調光量をずらして撮影するフラッシュブラケットになります。1枚ずつシャッターボタンを押して撮影してください。

ブラケット撮影時の測光インジケータ

	定常光*ブラケット 段数0.3段 3枚 露出補正±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段 3枚 調光補正-1.0段
ファインダー		
モニター（ファインダー撮影用のとき）	 (上段に表示)	 (下段に表示)

- * 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれます。
- ブラケット撮影時には、ブラケット撮影枚数分の指標が測光インジケータに表示されます。
 - ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えていきま

ホワイトバランスブラケット

- 1  /  (ドライブモード)ボタン → **BRKWB** (ホワイトバランスブラケット)を選ぶ。
- 2 マルチセレクターの◀/▶で希望の設定を選ぶ。
 - Loのときは10MK⁻¹*、Hiのときは20MK⁻¹の幅がずれる。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

* MK⁻¹：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位(ミレッドと同じ値)。

DROブラケット

- 1  /  (ドライブモード)ボタン → **BRKDRO** (DROブラケット)を選ぶ。
- 2 マルチセレクターの◀/▶で希望の設定を選ぶ。
 - LoのときはDROLv1、Lv2、L3の画像が撮影される。HiのときはDROLv1、Lv3、L5の画像が撮影される。
- 3 ピントを合わせて撮影する。

フラッシュを使う

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。

1 MENUボタン →  (撮影設定) 2 → [フラッシュモード]
→ 希望の設定を選ぶ。

2  (フラッシュポップアップ) ボタンを押す。

フラッシュ発光部が上がる。

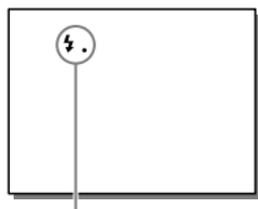
- [おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]やシーンセレクションでは、光量不足または逆光と判断したとき、自動的にフラッシュ発光部が上がります。 ボタンを押してもフラッシュ発光部は上がりません。

3 フラッシュの充電が完了したら、
撮影する。

 ● 点滅：フラッシュ充電中。

 ● 点灯：フラッシュの充電が完了。

- 暗所での撮影など、オートフォーカスでピントが合いにくい状況でシャッターボタンを半押しすると、本機のAF補助光が発光する。



 ● (フラッシュ充電)表示

 (発光禁止)	発光しない。
 (自動発光)	光量不足/逆光と判断したとき発光する。
 (強制発光)	必ず発光する。
 (スローシンクロ)	必ず発光する。暗い場所ではシャッタースピードを遅くし、フラッシュが届かない背景も明るく撮影する。
 (後幕シンクロ)	露光が終わる直前のタイミングで必ず発光する。
 (ワイヤレス)	外部フラッシュ (別売) を本機から取りはずして離して撮影する。被写体に陰影が付いて立体感を出することができる。

ご注意

- ・フラッシュ発光部をつかんで本機を持たないでください。
- ・フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真下部に影ができることがあります。レンズフードを取りはずしてください。
- ・撮影モードが「P」、「A」、「S」、「M」のときにフラッシュを発光させるには、 (フラッシュポップアップ) ボタンを押してください。フラッシュ発光部は自動でポップアップしません。
- ・フラッシュを使わないときは、手で押して元に戻してください。

撮影のテクニック

- ・フラッシュ発光時は被写体から1 m以上離れて撮影する。
- ・屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- ・後幕シンクロを使って、走っている自転車など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。
- ・フラッシュ HVL-F60M (別売) / HVL-F43M (別売) を使うとシャッタースピード全域でフラッシュ撮影が可能なハイスピードシンクロ撮影ができる。詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

赤目を軽減して撮るには

フラッシュ撮影時に目が赤くなるのを軽減する設定に変更できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 3 → [赤目軽減発光] → [入]にする。

ワイヤレスフラッシュ

- 1 シューキャップをはずし、HVL-F60M、HVL-F43Mを取り付け、本機とフラッシュの電源を入れる。
- 2 MENUボタン →  (撮影設定) 2 → [フラッシュモード] →  (ワイヤレス)を選ぶ。
- 3 ワイヤレスフラッシュを本機のマルチインターフェースシューからはずし、本機の (フラッシュポップアップ) ボタンを押してフラッシュ発光部を上げる。
- 4 テスト発光する場合は、本機のAELボタンを押す。

ご注意

- ワイヤレスフラッシュ撮影している別のカメラの信号光を、本機で設定したワイヤレスフラッシュが受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、**⚙** (カスタム設定) 6の [カスタムキー設定] → [AELボタン] (199ページ) を、[押す間AEL] に設定しておくことをおすすめします。

ワイヤレス光量比制御について

対応する複数のフラッシュと組み合わせて、ワイヤレス光量比制御も行えます。詳しくはフラッシュ (HVL-F60M、HVL-F43M) の取扱説明書をご覧ください。

スローシンクロ

スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れます。夜景を背景にしたフラッシュ撮影をする場合などに便利です。

SLOW SYNCボタンを押しながら撮影する。

画面に、露出値がロック (固定) されていることを知らせる ***** が点灯する。



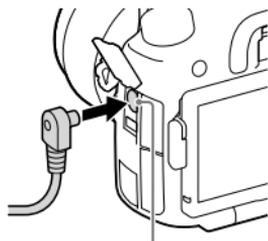
SLOW SYNCボタン

ご注意

- 撮影モードが「S」、 「M」のときは、SLOW SYNCボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
- [AELボタン] にAEL以外の機能が割り当てられている場合は、SLOW SYNCボタンでスローシンクロ撮影できません。また、AELボタン以外のボタンにAEL機能が割り当てられている場合は、そのボタンでスローシンクロ撮影ができます。

シンクロターミナルコード付きフラッシュを使う

⚡(シンクロ)ターミナルのカバーを開け、コードを差し込む。



⚡(シンクロ)ターミナル

- フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでもご使用になります。

ご注意

- 露出モードはマニュアル露出モード(ISO AUTO以外を推奨)にして、シャッタースピードは1/250秒またはフラッシュ側の推奨する値のどちらか遅い方、またはそれより低速側に設定してください。
- 暗くて構図を確認しにくい場合は、[ライブビュー表示]の設定を変え、常に適正な明るさで表示することもできます(99ページ)。
- シンクロ電圧が400V以下のフラッシュをご使用ください。
- シンクロコードを⚡(シンクロ)ターミナルに接続するときは、コードと接続したフラッシュの電源をオフにしてください。オンにしていると、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。
- フラッシュは、常にフル発光になります。フラッシュ調光補正(136ページ)はできません。
- オートホワイトバランスはおすすめできません。より正確なホワイトバランスを得るために、カスタムホワイトバランスをお使いください。
- ⚡(シンクロ)ターミナルに接続中は、フラッシュ表示が出ません。

使用可能なフラッシュモード

設定している撮影モードや機能によって、選べるフラッシュモードが異なります。

○は対応可能、×は対応不可能を表しています。

選べないフラッシュモードはグレーで表示されます。

撮影モード		 (発 光禁止)	 (自 動発光)	 (強制 発光)	 (スロー シンクロ)	 (後幕 シンクロ)	 (ワイ ヤレス)
AUTO (76)	 	○	○	○	×	×	×
SCN (78)		○	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	○	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	○	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		○	×	×	×	×	×
		×	×	×	○	×	×
 (81)		○	×	×	×	×	×
 (85)		×	×	○	○	○	○
P (86)		×	×	○	○	○	○
A (87)		×	×	○	○	○	○
S (89)		×	×	○	○	○	○
M (90)		×	×	○	○	○	○
 (70、174)		○	×	×	×	×	×

調光補正

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体の露出を変更できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 2 → [調光補正] → 希望の数値を選ぶ。

+側：発光量を増やす。

-側：発光量を減らす。

ご注意

- 以下の場合は、調光補正はできません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]または[プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離(調光距離)付近より遠くにあるときは、オーバー側(+側)の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側(-側)の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度(AUTOの場合)が変化することによって補正が行われます。

調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

調光モード

MENUボタン →  (撮影設定) 2 → [調光モード] → 希望の設定を選ぶ。

ADI調光	フォーカスの距離情報とプリ発光による光量測定結果を組み合わせ、フラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光ができる。
P-TTL調光	プリ発光による光量測定結果だけでフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射による影響を受けやすい。
内蔵マニュアル	発光量を[発光レベル]で設定し、被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量で発光する。

ADI : Advanced Distance Integrationの略

P-TTL : Pre-flash, Through the lensの略

- [ADI調光]で、距離エンコーダ搭載レンズを用いると、より正確な距離情報をもとに、高精度な調光ができる。

ご注意

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合(外部フラッシュ (別売)でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など)や、外部フラッシュ (別売)をバウンスにしているときは、自動的にP-TTL調光になります。また、そのほかにも撮影状況によって、自動的にP-TTL調光になります。
- 以下の場合は[ADI調光]だと正しい調光が得られませんので、[P-TTL調光]に設定してください。
 - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
 - ディフューザー (拡散板)を使ってフラッシュ撮影した場合
 - 露出倍数のかかるフィルター (NDなど)使用時
 - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。
- 撮影モード[スイングパノラマ]、シーンセレクションの[夜景]、[手持ち夜景]時は設定できません。

内蔵フラッシュの発光量を手動で設定するには

[調光モード]を[内蔵マニュアル]にすると、手動で発光量を調整できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 3 → [発光レベル] → 希望の設定を選ぶ。

FELロック

通常のフラッシュ撮影では被写体が最適露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、あらかじめフラッシュの発光量を決めておくことができます。

FEL : Flash Exposure Level (フラッシュ露出レベル)の略

1 FELロックしたい被写体を中央にして、ピントを合わせる。



2 [再押しFELロック]を登録したボタンを押して、発光量を固定する。

- フラッシュがプリ発光する。
- **⚡**(FELロックマーク)が点灯する。
- あらかじめ、MENUボタン → **⚙**(カスタム設定) 6 → [カスタムキー設定] → 希望のボタン → [再押しFELロック]を登録しておく。

3 撮りたい構図にして撮影する。

- FELロックを解除する場合は、もう一度[再押しFELロック]を登録したボタンを押す。



FELロック対応フラッシュ

- HVL-F60M、HVL-F43Mはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス(コントローラー/リモート)撮影で使えます。
- HVL-F20Mはクリップオン、ケーブル接続したオフカメラ、ワイヤレス(コントローラー)撮影で使えます。

ご注意

- FELロックに対応していないフラッシュを装着した場合は、エラー表示が出ます。
- AEとFELを両方固定している場合は、が点灯します。
- 内蔵フラッシュ使用時に撮影後から時間が空くと、フラッシュの充電レベルが下がり、FELロック操作を受け付けなくなることがあります。このような場合には、再度FELロック操作を行ってください。

撮影のテクニック

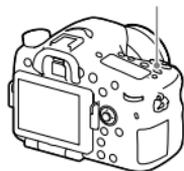
- [押す間FELロック]を設定すると、ボタンを押している間だけ保持できます。
また、[押す間FELロック/AEL]、[再押しFELロック/AEL]に設定すると、以下のときはAEをロックして撮影できます。
 - [フラッシュモード]が[発光禁止]または[自動発光]のとき
 - 内蔵フラッシュまたは外部フラッシュのマニュアル発光設定時
 - フラッシュが発光できないとき

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度(推奨露光指数)で表します。数値が大きいほど高感度になります。

1 ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

ISOボタン



2 マルチセレクターの▲/▼で希望の設定を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。
- [マルチショットNR]を選んだ場合は、マルチセレクターの▶で設定画面を表示して、▲/▼で希望の数値を選ぶ。
- 前ダイヤルを回すとマルチセレクターで選ぶのと同様に1/3段ずつ数値を変更できる。後ダイヤルを回すと1段ずつ数値を変更できる。

ご注意

- ISO100未満の領域は、記録できる被写体輝度の範囲(ダイナミックレンジ)が少し狭くなります。
- 以下の場合、ISO感度は[ISO AUTO]に固定され、変更できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]または[プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [シーンセレクション]
- 撮影モードが[P]、「A」、「S」、「M」のとき、ISO感度を[ISO AUTO]にすると、ISO 100 ~ 3200の値で自動設定されます。

ISO感度が[ISO AUTO]時に自動設定される範囲を変更するには

[ISO AUTO]を選択したときに、マルチセレクターの▶で[ISO AUTO 上限]、[ISO AUTO 下限]を選んで希望の数値を設定する。

マルチショットノイズリダクション

自動的に複数枚の連写を行い、画像を合成し、ノイズを軽減して記録します。

マルチショットノイズリダクションでは最大ISO感度よりも感度を上げることができます。

記録される画像は合成された1枚のみです。

1 ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

ISOボタン



2 マルチセレクターの▲/▼で[マルチショットNR]を選ぶ。

ご注意

- [画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき、[マルチショットNR]は設定できません。
- ISO感度が[マルチショットNR]に設定されているとき、フラッシュ、[Dレンジオプティマイザー]、[オートHDR]は使用できません。

マルチショットNRの効果を設定するには

マルチショットNRの効果レベルを設定します。

[標準]では4枚加算ですが、[高]に設定すると12枚加算してさらにノイズ低減した画像を生成できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [ISO感度] → [マルチショットNR] → [NR効果]を選ぶ。

ご注意

- [高]に設定すると、撮影と画像合成にかかる時間が長くなります。

明るさ、コントラストを自動補正する (DRO/オートHDR)

MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [DRO/オートHDR] → 希望の設定を選ぶ。

 (切)	DRO/オートHDR機能を使わない。
 (Dレンジ オプティマイ ザー)	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。
 (オートHDR)	露出の異なる3枚の画像を撮影し、適正露出の画像とアンダー画像の明るい部分、オーバー画像の暗い部分を合成することにより階調豊かな画像にする。 適正露出画像と、合成された画像の2枚が記録される。

Dレンジオプティマイザー

1 MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [DRO/オートHDR] → [Dレンジオプティマイザー]を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

 (Dレンジオプティマイザー：オート)	本機が自動で調整する。
 (レベル設定) *	撮影画像の階調を、画像の領域ごとに最適化する。Lv1 (弱) ~ 5 (強)で最適化レベルを選ぶ。

*  と一緒に表示されるLv_は、現在の設定値。

ご注意

- 以下の場合、[Dレンジオブティマイザー]は[切]に固定されます。
 - [スイングパノラマ]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
 - [ピクチャーエフェクト]
- シーンセレクションの[夕景]、[夜景]、[夜景ポートレート]、[手持ち夜景]では、[Dレンジオブティマイザー]は[切]に固定されます。これら以外のシーンセレクションでは[Dレンジオブティマイザー：オート]に固定されます。
- Dレンジオブティマイザー動作時は、ノイズが目立つ場合があります。特に補正効果を強めるときは、撮影後の画像を確認しながらレベルを選んでください。

オートHDR

1 MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [DRO/オートHDR] → [オートHDR]を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で最適化レベルを選ぶ。

 (オートHDR : 露出差オート)	本機が自動で調整する。
 (レベル設定) *	被写体の明暗差に応じて露出差を設定する。 1.0Ev (弱) ~ 6.0Ev (強)で最適化レベルを選ぶ。 例：2.0Evでは-1.0Evの画像、適正露出の画像、+1.0Evの画像の3枚が合成される。

*  と一緒に表示される_Evは、現在の設定値。

撮影のテクニック

- 一度の撮影で3回シャッターが切られるため、以下に注意する。
 - 動きや点滅発光などが無い被写体のときに設定する。
 - 構図が変わらないように撮影する。

ご注意

- [オートHDR]は、RAW画像には設定できません。
- 以下の場合、[オートHDR]を設定できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]または[プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [連続撮影優先AE]
 - [シーンセレクション]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
- 撮影後、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 被写体の輝度差の状況や撮影環境によっては思い通りの効果を得られないことがあります。
- フラッシュ発光時は、効果がほとんど得られません。
- コントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合は、良好なHDR画像が撮影できていないことがあります。カメラがこのような状態を検出した場合は、再生画像に **HDR !** を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

画像の仕上がりを設定する

ピクチャーエフェクト

好みの効果を選んで、より印象的でアーティスティックな表現の画像を撮影できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [ピクチャーエフェクト] → 希望のモードを選ぶ。

- さらに詳細な設定ができるモードを選んだ場合は、マルチセクターの ◀/▶ で希望の設定を選ぶ。

 OFF (切)	効果を使用しない。
 (トイカメラ)	周辺が暗く、シャープ感を抑えた柔らかな仕上がりになる。◀/▶で色合いを設定できる。
 (ポップカラー)	色合いを強調してポップで生き生きとした仕上がりになる。
 (ポスタリゼーション)	原色のみ、または白黒のみで再現されるメリハリのきいた抽象的な仕上がりになる。◀/▶で [白黒]か[カラー]かを選択できる。
 (レトロフォト)	古びた写真のようにセピア色でコントラストが落ちた仕上がりになる。
 (ソフトハイキー)	明るく、透明感や軽さ、優しさ、柔らかさを持ったような仕上がりになる。
 (パートカラー)	1色のみをカラーで残し、他の部分はモノクロに仕上がる。◀/▶で残す色を設定できる。
 (ハイコントラストモノクロ)	明暗を強調することで緊張感のあるモノクロに仕上がる。

 (ソフトフォーカス)	柔らかな光につつまれたような雰囲気の上 がりになる。◀/▶で効果の強弱を設定できる。
 (絵画調HDR)	絵画のように色彩やディテールが強調された 仕上がりになる。3回シャッターが切れる。 ▶/▶で効果の強弱を設定できる。
 (リッチトーン モノクロ)	階調が豊かでディテールも再現されたモノク ロに仕上がる。3回シャッターが切れる。
 (ミニチュア)	ミニチュア模型を撮影したようにボケが大き く、鮮やかな仕上がりになる。◀/▶でボける位 置を設定できる。
 (水彩画調)	にじみやぼかしを加えて水彩画のような効果 をつける。
 (イラスト調)	輪郭を強調するなどしてイラストのような効 果をつける。◀/▶で効果の強弱を設定できる。

ご注意

- 光学ズーム以外のズームを使用するとき、ズーム倍率が高くなると [トイカメラ] の効果は弱くなります。
- [パートカラー] のとき、被写体や撮影条件によっては設定した色が残らないことがあります。
- 以下の場合、[ピクチャーエフェクト] を設定できません。
 - 撮影モードが [おまかせオート] または [プレミアムおまかせオート]
 - [スイングパノラマ]
 - [連続撮影優先AE]
 -  画質] が [RAW] または [RAW+JPEG]
- [絵画調HDR]、[ミニチュア]、[リッチトーンモノクロ]、[水彩画調]、[イラスト調]、[ソフトフォーカス] のときは、撮影前に効果を確認できません。また、これらのモードでは [ドライブモード] は設定できません。
- [絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ] ではコントラストが低いシーンや、大きな手ブレ、被写体ブレが発生した場合に良好な結果が得られない場合があります。カメラがこのような状態を検出した場合は、再生画像に  を表示してお知らせします。必要に応じて、構図を変えたり、ブレに注意して撮影し直してください。

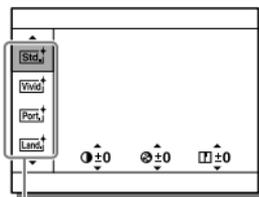
クリエイティブスタイル

13種類の画像スタイルから画像の仕上がりを設定でき、各画像スタイルごとにコントラスト、彩度、シャープネスを微調整できます。

カメラまかせで撮影するシーンセレクションと異なり、露出(シャッタースピード/絞り)なども調整できます。

1 MENUボタン → (撮影設定) 5 → [クリエイティブスタイル] を選ぶ。

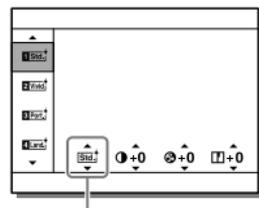
- 13種類のクリエイティブスタイルと、任意に内容を登録できる6つのスタイルボックス(のように左側に数字が入っているもの)が表示される。



クリエイティブスタイル/
スタイルボックス

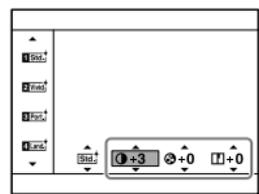
2 マルチセレクターの▲/▼で希望のクリエイティブスタイルまたはスタイルボックスを選ぶ。

- スタイルボックスを選んだときは、▶で右側に移動し、希望のクリエイティブスタイルを選ぶ。
- スタイルボックスを使えば、同じスタイルでも微妙に設定を変えて呼び出すことができる。



スタイルボックスを選んでいるときのみ表示

3 (コントラスト)、 (彩度)、 (シャープネス)を調整したいときは、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。



Std⁺ (スタンダード)	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid⁺ (ビビッド)	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Ntrl⁺ (ニュートラル)	彩度・シャープネスが低くなり、落ち着いた雰囲気表現する。パソコンでの画像加工を目的とした撮影にも適している。
Clear⁺ (クリア)	ハイライト部分の抜けがよく、透明感のある雰囲気表現する。光の煌めき感などの表現に適している。
Deep⁺ (ディープ)	濃く深みのある色再現にする。重厚感、存在感など、重みのある表現に適している。
Light⁺ (ライト)	明るく、すっきりとした色再現にする。爽快感、軽快感など明るい雰囲気の表現に適している。
Port⁺ (ポートレート)	肌をより柔らかくに再現する。人物の撮影に適している。
Land⁺ (風景)	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Sunset⁺ (夕景)	夕焼けの赤さを美しく表現する。
Night⁺ (夜景)	コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。
Autm⁺ (紅葉)	紅葉の赤・黄をより鮮やかに表現する。
B/W⁺ (白黒)	白黒のモノトーンで表現する。

 (セピア)	セピア色のモノトーンで表現する。
 (スタイルボックス 1～6)	お好みの設定を登録する。

① (コントラスト)、④ (彩度)、① (シャープネス)は、スタイルボックスごとに調整できます。

① (コントラスト)	+側に設定するほど明暗差が強調され、インパクトのある仕上がりになる。
④ (彩度)	+側にするほど色が鮮やかになる。-側に設定すれば、控えめで落ち着いた色に再現される。
① (シャープネス)	解像感を調整できる。+側に設定すれば輪郭がよりくっきりし、-側に設定すればやわらかな表現になる。

ご注意

- 以下の場合、[クリエイティブスタイル]は[スタンダード]に固定され、他のクリエイティブスタイルには変更できません。
 - 撮影モードが[おまかせオート]または[プレミアムおまかせオート]
 - [シーンセレクション]
 - [ピクチャーエフェクト]
- [白黒]、[セピア]を選択しているときは、彩度の調整はできません。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
				
光の特性	白	青みがかかる	緑がかかる	赤みがかかる

画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気表現したいときにホワイトバランス機能を使います。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]またはシーンセレクションのときは、[ホワイトバランス]は[オート]に固定され、他のホワイトバランスモードに変更できません。
- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られません。フラッシュを発光して撮影してください。

WB (ホワイトバランス)ボタン → 希望の設定を選ぶ。

WBボタンに他の機能が設定されている場合は、MENUボタン →  (撮影設定) 5 → [ホワイトバランス] → 希望の設定を選ぶ。

WB (ホワイトバランス)ボタン



AWB (オート)	光源が自動判別され、適した色合いになる。
☀(太陽光)	<p>被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる(プリセットホワイトバランス)。</p> <ul style="list-style-type: none"> マルチセレクターの▶で、微調整画面が表示され、必要に応じて色合いを微調整できる。▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する(153ページ)。
☁(日陰)	
☁(曇天)	
💡(電球)	
☹-1(蛍光灯: 温白色)	
☹0(蛍光灯: 白色)	
☹+1(蛍光灯: 昼白色)	
☹+2(蛍光灯: 昼光色)	
👉WB(フラッシュ)	

撮影のテクニック

- 選んだ設定で思いどおりの色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う(129ページ)。

色温度・カラーフィルター

希望の色温度を選び、色温度とカラーフィルターの組み合わせで色合いの微調整ができます。

1 WB (ホワイトバランス)ボタン →

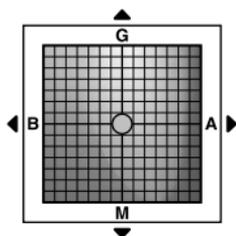
[色温度・カラーフィルター] → マルチセレクターの▶を押す。

2 ▲/▼で色温度を設定する。

3 ▶を押して微調整画面を表示し、▲/▼/◀/▶で好みの色合いに設定する。

◀でブルー (B)方向、▶でアンバー (A)方向に微調整できる。

▲でグリーン(G)方向、▼でマゼンタ(M)方向に微調整できる。



ご注意

- ナトリウム灯/水銀灯の光源下ではカスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。3つの設定を登録できます。

1 WB (ホワイトバランス)ボタン → [カスタムセット]を選ぶ。

2 白く写したいものが中央部のフォーカスエリア付近を覆うようにカメラを構えて中央の●を押す。

シャッター音がして、取り込んだ値(色温度とカラーフィルター)が表示される。

3 マルチセレクターの◀/▶で登録番号を選び、中央の●を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。

ご注意

- [カスタムWB設定エラー]というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します(鮮やかな色の被写体に向けた場合など)。値は登録され、撮影情報画面の表示が黄色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

WB (ホワイトバランス)ボタン → 希望のカスタム登録番号を選ぶ。

- マルチセレクターの▶を押すと、微調整画面が表示され、色合いを微調整できる。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

画像サイズを変える

🖼️ 画像サイズ

MENUボタン → 📷 (撮影設定) 1 → [🖼️ 画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

[横縦比]が3:2のとき

画像サイズ		用途例
L : 24M	6000×4000画素	最高画質で撮影したいとき
M : 12M	4240×2832画素	A3ノビサイズまでの印刷
S : 6.0M	3008×2000画素	A5サイズまでの印刷

[横縦比]が16:9のとき

画像サイズ		用途例
L : 20M	6000×3376画素	ハイビジョンテレビでの再生
M : 10M	4240×2400画素	
S : 5.1M	3008×1688画素	

ご注意

- [🖼️画質]でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。画面に画像サイズは表示されません。

パノラマ：画像サイズ

スイング撮影の画像サイズを設定します。「パノラマ：撮影方向」(84ページ)によって、サイズが異なります。

MENUボタン →  (撮影設定) 1 → [パノラマ：画像サイズ]
→ 希望のサイズを選ぶ。

標準	撮影方向[上][下]：3872×2160 撮影方向[左][右]：8192×1856
ワイド	撮影方向[上][下]：5536×2160 撮影方向[左][右]：12416×1856

画像の横縦比と画質を設定する

横縦比

MENUボタン →  (撮影設定) 1 → [横縦比] → 希望の比率を選ぶ。

3:2	通常の横縦比率。
16:9	ハイビジョンテレビ比率。

ご注意

- 撮影モードが[スイングパノラマ]のときは設定できません。

画質

MENUボタン →  (撮影設定) 1 → [画質] → 希望の設定を選ぶ。

RAW(RAW)	ファイル形式：RAW (圧縮Raw形式で記録します) デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 <ul style="list-style-type: none">• 画像サイズは常に最大サイズで固定され、画面には画像サイズは表示されない。
RAW+J (RAW+JPEG)	ファイル形式：RAW (圧縮Raw形式で記録します)+JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。JPEGの画質は[FINE]になります。

X.FINE (エクストラファイン)	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。「X.FINE」、「FINE」、「STD」の順で圧縮率が大きくなり、データ量が少なくなる。1枚のメモリーカードに記録できる枚数は増えるが、画質は劣化する。
FINE (ファイン)	
STD (スタンダード)	

ご注意

- 撮影モードが[スイングパノラマ]のときは、画質]は設定できません。

RAWについて

- 本機で撮影したRAW画像を開くにはImage Data Converterが必要です。このソフトウェアを使えば、RAW画像を開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。
 - RAW形式の画像は、DPOF（プリント）指定はできません。
 - RAW形式の画像には、[オートHDR]、[ピクチャーエフェクト]を設定できません。

顔を検出する

カメラが人物の顔を判別し、人物にあわせて、ピントや露出、画像処理、フラッシュの調整をします。

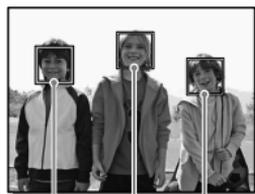
MENUボタン →  (撮影設定) 7 → [顔検出/スマイルシャッター]
→ 希望の設定を選ぶ。

 OFF (切)	顔検出機能を使わない。
 (入(登録顔優先))	[個人顔登録]で登録した顔を優先して顔検出を行う(161ページ)。
 ON (入)	登録した顔を優先せずに顔検出を行う。
 (スマイルシャッター)	笑顔を検出して自動撮影する。

顔検出枠について

顔を検出すると、灰色の顔検出枠が表示されます。オートフォーカス可能と判断されると枠が白色になり、シャッターボタンを半押しすると緑色になります。

- シャッターを半押ししたときに、オートフォーカス可能エリアに顔が検出されないときは、ピントを合わせたフォーカスエリアが緑色に表示されます。
- 複数の顔を検出した場合は、優先的に調整する顔を自動で選択し、1か所の顔検出枠が白色になります。それ以外の登録されている顔の検出枠は赤紫色になります。



顔検出枠(灰色)

顔検出枠(白色)

美肌効果の設定をするには

顔検出時、被写体の肌をなめらかに撮影する効果を設定します。

MENUボタン →  (撮影設定) 7 → [美肌効果] → 希望の設定を選ぶ。

撮影のテクニック

- 顔検出枠とフォーカスエリアが重なるように構図を工夫する。

ご注意

- 以下のときは、顔検出機能が使用できません。
 - [スイングパノラマ]
 - [連続撮影優先AE]
 - [ピクチャーエフェクト]が[ポストリゼーション]
 - [シーンセレクション]が[風景]、[夜景]、[夕景]
 - ピント拡大時
- 最大8人の顔を検出できます。
- 状況によっては、顔が検出されなかったり、顔以外を誤検出することがあります。

個人顔登録

顔情報を登録しておくことで、登録した顔を優先して顔検出を行うことができます。

1 MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) 6 → [個人顔登録] → [新規登録] を選ぶ。

2 登録したい顔をガイド枠内に合わせて、シャッターボタンを押して登録する顔を撮影する。

3 [実行] を選び、中央の●を押す。

- 最大8人の顔を登録できる。
- 明るい場所で、正面を向いた顔を撮影する。帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れると、正しく登録できないことがある。

登録した顔の優先順を変更するには

複数の顔を登録したときは登録した順で優先順位が設定されます。優先順を変更することができます。

MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) 6 → [個人顔登録] → [優先順序変更] → 優先順を変更する顔と変更先を選ぶ。

登録した顔を削除するには

登録した顔を削除できます。

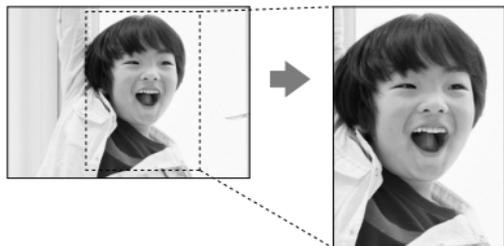
MENUボタン → ⚙ (カスタム設定) 6 → [個人顔登録] → [削除] → 削除する顔を選ぶ。

- [全て削除] を選ぶと、すべての顔をまとめて削除できます。

ご注意

- [削除] を行っても、カメラ内に登録した顔のデータが残っています。カメラ内からも削除したい場合は、[全て削除] を行ってください。

オートフレーミング



人物の顔やマクロ撮影する、またロックオンAFでとらえた被写体を検出して撮影すると、自動的に最適な構図に切り出し(トリミング)された画像が記録されます。トリミング前の画像と、トリミングされた画像の2枚が記録されます。

トリミングされた画像は、オリジナル画像と同じ画像サイズで記録されます。

MENUボタン →  (撮影設定) 7 → [オートフレーミング] → 希望の設定を選ぶ。

お買い上げ時は、[切]に設定されています。

ご注意

- 撮影モード[スイングパノラマ]、[連続撮影優先AE]、[動画]、シーンセレクションの[手持ち夜景]、[スポーツ]時は使用できません。
- 撮影状況によっては最適な構図でトリミングされない場合があります。
- 画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のときは設定できません。
- 以下の場合、[オートフレーミング]は使用できません。
 - [ドライブモード]が[連続撮影]、[速度優先連続撮影]、[連続ブラケット]、[1枚ブラケット]、[ホワイトバランスブラケット]、[DROブラケット]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
 - [DRO/オートHDR]が[オートHDR]
 - 光学ズーム以外のズーム
 - マニュアルフォーカス
 - ピクチャーエフェクトが[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[水彩画調]、[イラスト調]、[ミニチュア]

スマイルシャッター

笑顔を検出すると自動で撮影します。

1 MENUボタン → (撮影設定) 7 →

[顔検出/スマイルシャッター] → [入:普通の笑顔] → マルチセクターの◀/▶で希望のスマイル検出感度を選ぶ。

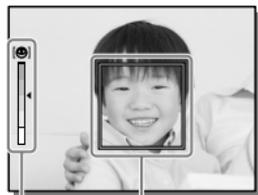
😊 (微笑み)、😄 (普通の笑顔)、😁 (大笑い)の3段階で、笑顔を検出する感度を変更できる。

- スマイルシャッター作動中は、画面にスマイル検出感度インジケーターが表示される。

2 笑顔を待つ。

笑顔を検出し、ピントが合い、スマイルレベルがインジケーターの◀を超えると、自動で撮影される。

- スマイルシャッターの対象となる顔を認識するとオレンジ色の顔検出枠が表示され、ピントの合っている顔検出枠が緑色になる。
- [オートフレーミング]を[オート]にしていると、最適な構図を決めて自動的にトリミングされる。



顔検出枠(オレンジ色)

スマイル検出感度インジケーター

3 終了するときは、MENUボタン → (撮影設定) 7 →

[顔検出/スマイルシャッター] → [スマイルシャッター]以外を選ぶ。

撮影のテクニック

- 笑顔にピントを合わせるには、顔検出枠とフォーカスエリアが重なるようにする。
- 前髪が目にかからないようにし、目は細めにする。
- 帽子やマスク、サングラスなどで顔が隠れないようにする。
- カメラに対して正面を向き、なるべく水平になるようにする。
- 口をあけてしっかり笑う。歯が見えているほうが笑顔を検出しやすくなる。
- スマイルシャッター中にシャッターボタンを押しても撮影できる。撮影後はスマイルシャッターに戻る。

ご注意

- 以下の場合、[スマイルシャッター]は使用できません。
 - [スイングパノラマ]
 - 「連続撮影優先AE」
 - 動画撮影時
 - [シーンセレクション]が[手持ち夜景]、[風景]、[夜景]、[夕景]
 - [ピクチャーエフェクト]
- スマイルシャッター使用時、ドライブモードは[1枚撮影]のみになります。
- 笑顔が検出されない場合はスマイル検出感度を設定してください。
- 状況によっては笑顔が正しく検出できない場合があります。
- スマイルシャッター中にロックオンAFで顔を追尾させると、その顔だけがスマイル検出の対象になります(106ページ)。

ズームする

レンズの光学ズームよりもさらにズームできます。

ワンプッシュでズームする(スマートテレコンバーター)

スマートテレコンバーターを使って画像の中央部分を拡大表示し、記録できます。

ボタンを押す。

- ズーム倍率は、 ボタンを押すたびに、約1.4倍 → 約2倍 → オフに切り替わる。



 ボタン

ズーム倍率によって、画像サイズは以下の設定値になります。

倍率	画像サイズ
約1.4倍	MまたはS
約2倍	S

ご注意

- 以下の場合、スマートテレコンバーターは使用できません。
 - 撮影モード[スイングパノラマ]のとき
 - 画質]が[RAW]、[RAW+JPEG]のとき
- スマートテレコンバーター中は[測光モード]が[マルチ]になります。
- 動画撮影中は、スマートテレコンバーターは使えません。

光学ズーム以外のズーム機能を使う

光学ズーム以外のズームを使って、ズームレンズによる光学ズームの倍率以上に拡大できます。

光学ズームで拡大したあとに以下の手順で光学ズーム以外のズームを使います。

MENUボタン →  (撮影設定) 6 → [ズーム] → 希望の数値を選ぶ。

本機で使用できるズーム

使用するズームは、以下の手順で選べます。

MENUボタン →  (カスタム設定) 3 → [ズーム設定] → 希望の設定を選ぶ。

また、ズーム倍率によってモニターに表示されるアイコンが変わります。



- ①  : 光学ズーム以外のズームなし(×1.0と表示される)。
- ②  スマートズーム：画像を部分的に切り出して拡大する。(画像サイズがM、Sのときのみ使用できます。)
- ③  全画素超解像ズーム：より高画質な画像処理により拡大する。
([ズーム設定]が[入：全画素超解像ズーム]または[入：デジタルズーム]のときに使用できます。)
- ④  デジタルズーム：画像処理により拡大する。([ズーム設定]が[入：デジタルズーム]のときに使用できます。)

設定	画像サイズ	光学ズームに組み合わせるズーム倍率	
画像を切り出せる範囲でズームする(画質は劣化しない)。 光学ズームのみ	L	—	
	M	約1.4倍	
	S	約2倍	
画質を優先してズームする。 入：全画素超解像ズーム	L	約2倍	
	M	約2.8倍	
	S	約4倍	
ズーム倍率を優先してズームする。 入：デジタルズーム	L	約4倍	
	M	約5.7倍	
	S	約8倍	

ご注意

- 以下の場合は、光学ズーム以外のズームは使用できません。
 - 撮影モードが[スイングパノラマ]のとき
 - [画質]が[RAW]または[RAW+JPEG]のとき
- 動画撮影中、スマートズームは使えません。
- 光学ズーム以外のズームを使用しているときは、[測光モード]が[マルチ]になります。
- 光学ズーム以外のズームを使用中は下記の機能が使用できません。
 - [オートフレーミング]
- 動画撮影中に光学ズーム以外のズームをする場合、[カスタムキー設定]で希望のボタンに[ズーム]を設定してください。

画像ノイズを減らす

☒ 長秒時ノイズリダクション

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する(長時間露光)と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先する場合は[入]を、撮影タイミングを優先するには[切]を選びます。

MENUボタン → **📷 (撮影設定) 6** → **☒長秒時NR** → **希望の設定を選ぶ。**

ご注意

- 以下の場合、☒長秒時NRを[入]にしても、ノイズリダクションは働きません。
 - [スイングパノラマ]
 - 「連続撮影優先AE」
 - [連続撮影]、[速度優先連続撮影]または[連続ブラケット]の場合
 - [シーンセレクション]の[スポーツ]または[手持ち夜景]
 - ISO感度が[マルチショットNR]
- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]またはシーンセレクションのときは、☒長秒時NRを[切]にできません。
- 撮影条件によっては、シャッタースピードが1秒以上でもノイズ軽減処理を行わない場合があります。

高感度ノイズリダクション

すべてのISO感度で作動しますが、特に高感度時に目立つノイズを効果的に低減します。通常は[標準]に設定されており、[弱]、[切]を選ぶこともできます。

MENUボタン →  (撮影設定) 6 →  高感度NR → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 撮影モードが[おまかせオート]、[プレミアムおまかせオート]、[スイングパノラマ]、シーンセレクションのとき、 高感度NRは設定できません。
- RAW画像には 高感度NRは働きません。

リモコンを使って撮る

ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1 (別売)、RMT-DSLR2 (別売)のSHUTTERボタン、2SECボタン(2秒後にシャッターを切る)、START/STOPボタン(動画ボタン：RMT-DSLR2のみ)を使って撮影します。リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 MENUボタン →  (セットアップ)3 → [リモコン] → [入] を選ぶ。

2 ピントを合わせ、リモコン発光部を本機のリモコン受光部に向けて撮影する。

ご注意

- ワイヤレスリモートコマンダー RMT-DSLR1は動画撮影には対応していません。
- レンズやフードがリモコン受光部をさえぎり、受光を妨げることがあります。受光部をさえぎらない位置から操作してください。

色空間を設定する

色を数値の組み合わせによって表現するための方法、あるいは表現できる色の範囲のことを色空間といいます。画像の用途によって色空間を変更できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 8 → [色空間] → 希望の設定を選ぶ。

sRGB	デジタルカメラの標準となっている色空間。画像調整を行わずに印刷する場合など、一般的な撮影ではsRGBを使う。
AdobeRGB	より広い色再現範囲を持っている色空間。鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果がある。 <ul style="list-style-type: none">撮影した画像のファイル名は、“_DSC”で始まる。

ご注意

- Adobe RGBは、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe RGBで撮影した画像は、Adobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

動画撮影の設定

ここでは、動画の応用的な撮影方法を紹介します。

撮影のテクニック

- ピントを合わせてから、録画を開始する。
- 以下の設定は、静止画撮影のときの設定値をそのまま使用できる。
ISO感度/ホワイトバランス/クリエイティブスタイル/露出補正/
フォーカスエリア/測光モード/顔検出/Dレンジオブティマイザー/
レンズ補正/ピクチャーエフェクト
- ISO感度、露出補正、フォーカスエリアは動画撮影中に設定を変更できる。
- [HDMI情報表示]を[なし]にすると、動画記録中でも撮影情報表示なしで記録画像を出力できます(196ページ)。

ご注意

- 動画撮影時に手ブレ補正が[入]の場合は、静止画撮影時より撮影範囲(画角)が狭くなります。16:9の静止画と同じ画角で撮影するには、
[手ブレ補正]を[切]にして撮影してください(65ページ)。
- モニターの表示がファインダー撮影用の場合、動画撮影を開始すると全情報表示に切り替わります。
- カメラを太陽など強い光源に向けて撮影しないでください。カメラの内部が故障するおそれがあります。
- AVCHD方式で記録した動画をパソコンに取り込むときは、PlayMemories Homeを使用してください(223ページ)。
- 長時間、連続して撮影しつづけると、本機の温度が上昇し、画質が低下する場合があります。
- 動画の[プログラムオート]モードでは、絞りとシャッタースピードは自動で設定されるため、明るい環境下で高速シャッターとなり、被写体の動きが滑らかに写らない場合があります。他の露出モードにして、絞りやシャッタースピードを調整することで、より滑らかに撮影できる場合があります。
- 動画撮影時のISO感度は、ISO100～12800まで選べます。ISO100よりも小さい設定値の状態動画撮影を始めると、ISO100に切り替わります。動画撮影を終えると元の設定値に戻ります。

- ISO感度を[マルチショットNR]に設定しているときは、一時的に[ISO AUTO]になります。
- 動画撮影時、[ピクチャーエフェクト]の[ソフトフォーカス]、[絵画調HDR]、[リッチトーンモノクロ]、[ミニチュア]、[イラスト調]、[水彩画調]は設定できません。動画撮影が開始されると一時的に[切]になります。

動画撮影時のオートフォーカスの追従感度を変更する

動きの速い被写体を撮影するときは[高]を、多くの被写体が交差するときは[低]を選ぶと便利です。

MENUボタン →  (撮影設定) 4 → [AF追従感度] → 希望の設定を選ぶ。

動画の設定を変更して撮影する

絞りやシャッタースピードなどの設定を変更して、思い通りにコントロールした動画を撮影できます。

1 モードダイヤルを  (動画) にする。

2 MENUボタン →  (撮影設定) 8 → [動画] → 希望の設定を選ぶ。

 P (プログラムオート)	露出(シャッタースピードと絞り)は本機が自動設定するが、その他の調整は自分で調整でき、設定した値は保持される。
 A (絞り優先)	絞りを調整し、ピントの合う範囲や背景のぼかし具合を変えて撮影できます。
 S (シャッタースピード優先)	シャッタースピードを手動調整し、動くものの表現を変えて撮影できます。
 M (マニュアル露出)	露出(シャッタースピードと絞り)を前/後ダイヤルで手動設定する。

オートスローシャッターについて

[**☑** オートスローシャッター]を[入]にすると、暗いところまでノイズを抑えた撮影ができます。

[切]にすると暗いところでは[入]のときよりも画像が暗くなりますが、被写体のブレが少なく、動きがよりなめらかに撮影できます。

MENUボタン → **📷 (撮影設定) 9** →

[**☑** オートスローシャッター] → 希望のモードを選ぶ。

ご注意

- [**☑** オートスローシャッター]は、撮影モードがオート、「P」または「A」でISO感度が[ISO AUTO]のときのみ有効です。

☑ 記録方式

MENUボタン → **📷 (撮影設定) 2** → [**☑** 記録方式] → 希望のモードを選ぶ。

AVCHD	<p>AVCHD規格の60i動画、24p動画、60p動画を記録する。ハイビジョンテレビで見るために適した記録方式。</p> <p>ソフトウェアPlayMemories Homeを使ってブルーレイディスク、またはAVCHDディスク、DVD-Videoディスクを作成できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 60iは、約60フィールド/秒、インターレース、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 24pは、約24フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。 • 60pは、約60フレーム/秒、プログレッシブ、Dolby Digital音声、AVCHD方式で記録される。
-------	--

MP4	<p>MP4 (AVC)動画を記録する。WEBアップロードやメールに適した記録方式。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MPEG-4、約30フレーム/秒、プログレッシブ、AAC音声、MP4形式で記録される。 • [H]記録方式を[MP4]にして撮影した動画からはソフトウェアPlayMemories Homeを使っても、ディスクを作成することはできません。
-----	---

H 記録設定

ビットレートが高いほど、画質は向上します。

MENUボタン →  (撮影設定) 2 → **[H記録設定]** → 希望の設定を選ぶ。

[H記録方式]が[AVCHD]のとき

記録設定	ビットレート	説明
60i 24M (FX)	最大24 Mbps	1920×1080 (60i)の高画質で撮影する。
60i 17M (FH)	平均約17 Mbps	1920×1080 (60i)の標準画質で撮影する。
60p 28M (PS)	最大28 Mbps	1920×1080 (60p)の最高画質で撮影する。
24p 24M (FX)	最大24 Mbps	1920×1080 (24p)の高画質で撮影する。映画のような雰囲気記録できる。
24p 17M (FH)	平均約17 Mbps	1920×1080 (24p)の標準画質で撮影する。映画のような雰囲気記録できる。

【**画質**記録方式】が【MP4】のとき

記録設定	平均ビットレート	説明
1440×1080 12M	約12 Mbps	1440×1080で撮影する。
VGA 3M	約3 Mbps	VGAサイズで撮影する。

ご注意

- 【**画質**記録設定】を【60p 28M(PS)】または【60i 24M(FX)】、【24p 24M(FX)】にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHDディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。
- 60p、24pの動画をテレビで見るときは、60p、24pに対応したテレビが必要です。対応していないテレビの場合、60iとして出力されます。

録音レベル

レベルメーターを見ながら録音レベルを調整できます。

MENUボタン → **カメラ** (撮影設定) 9 → **【録音レベル】** → マルチセクターの◀/▶で希望のレベルを選ぶ。

+側：録音レベルが上がる。

-側：録音レベルが下がる。

リセット：録音レベルを初期値に戻す。

撮影のテクニック

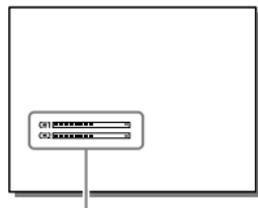
- 大きな音の動画を録画する場合は、録音レベルを低めに設定すると臨場感のある音声が記録できる。小さな音の動画を録画する場合は、録音レベルを高めに設定することで聞きやすい音声で記録できる。

ご注意

- 録音レベルの設定値にかかわらず、リミッターは常に作動しています。
- [録音レベル]は撮影モードが[動画]のときのみ選べます。
- 録音レベルの調整は、内蔵マイクと  (マイク)端子入力に対して有効です。

音声レベル表示

音声レベルを画面に表示するかどうかを選びます。



音声レベル

MENUボタン →  (カスタム設定) 1 → [音声レベル表示] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 以下の場合は音声レベルが表示されません。
 - [音声記録]が[切]のとき
 - 画面表示が[情報表示なし]になっているとき
- 撮影モードは[動画]にしてください。動画時のみ、記録前に音声レベルの表示ができます。

音声出力タイミング

HDMI出力で音声を確認するとき、撮影時のエコー対策を設定できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 9 → [音声出力タイミング] → 希望の設定を選ぶ。

ライブ	動画録音時の音を遅延なしで出力する。音声モニタリング時、音のずれが気になるときに選択する。
リップシンク	動画撮影時に映像と音声を同期させて出力する。映像と音声のずれによる違和感を防ぐ。

音声の記録について

動画撮影中はカメラやレンズの作動音、操作音などが記録されてしまうことがあります。音声を記録しないように設定できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 9 → [音声記録] → [切]を選ぶ。

風音を低減するには

内蔵マイクからの入力音声の低域音をカットして、風音を低減できます。

MENUボタン →  (撮影設定) 9 → [風音低減] → [入]を選ぶ。

ご注意

- [入]に設定すると低い音の一部も低減されてしまう場合があります。風音がない場合は[切]にしてください。
- 別売りのマイク使用時は、[風音低減]の効果が得られません。

再生時の機能を使う

静止画と動画を切り換える(ビューモード)

再生方法を選びます。

MENUボタン →  (再生) 1 → [ビューモード] → 希望のモードを選ぶ。

日付ビュー	日付ごとに撮影した画像を表示する。
フォルダービュー (静止画)	静止画のみをフォルダーごとに表示する。
フォルダービュー (MP4)	動画(MP4)のみをフォルダーごとに表示する。
AVCHDビュー	AVCHD動画のみを表示する。

拡大して見る

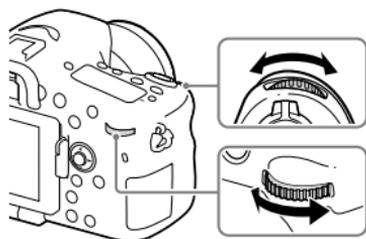
静止画再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

- 1 拡大したい画像を表示して、 ボタンを押す。



2 後ダイヤルで希望の大きさに拡大する。

- 前ダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられる。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できる。



3 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で、拡大表示する場所を選ぶ。

拡大再生を終了するには

マルチセレクター中央の●を押すと、拡大前の画像に戻ります。

一覧表示で見る

再生時、同時に複数の画像を表示できます。

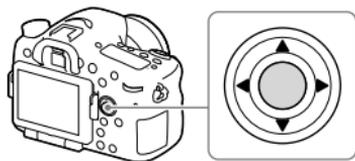
1 ボタンを押す。

一覧表示画面になる。

 ボタン



2 マルチセレクターの▲/▼/◀/▶で画像を選ぶ。



1枚再生画面表示に戻るには

表示したい画像を選んでいる状態で、マルチセレクター中央の●を押します。

表示枚数を切り換えるには

一覧表示画面で表示される枚数を変更できます。

MENUボタン →  (再生) 1 → [一覧表示] → 希望の設定を選ぶ。

再生表示を変更するには

マルチセレクターで左側のバーを選び、▲/▼で前/次のページを表示できます。また、左側のバーを選んでマルチセレクター中央の●を押すと、カレンダー画面、またはフォルダー選択画面になり、日付、またはフォルダーを選べます。アイコンを選んでビューモードを切り換えることもできます(181ページ)。



回転

1 回転したい画像を表示して、MENUボタン →  (再生) 1 → [回転] を選ぶ。

2 マルチセレクター中央の●を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは、手順2を繰り返す。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持される。

通常再生画面に戻るには

MENUボタンを押す。

ご注意

- 動画は回転できません。
- パソコンに取り込んだ画像は、PlayMemories Homeでは、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

スライドショー

MENUボタン →  (再生) 1 → [スライドショー] → [実行] を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、マルチセレクターの◀/▶で、画像を戻す/送ることができる。
- 一時停止はできない。

途中で終了するには

MENUボタンを押す。

画像を切り換える間隔を変更するには

MENUボタン →  (再生) 1 → [スライドショー] → [間隔設定] → 希望の秒数を選ぶ。

繰り返し再生するには

MENUボタン →  (再生) 1 → [スライドショー] → [リピート] → [入] を選ぶ。

記録画像の回転表示

画像を再生するときの向きを設定できます。

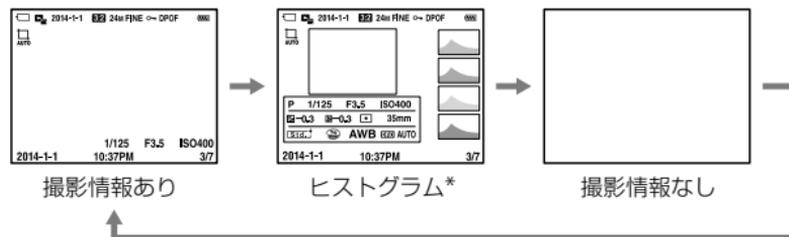
MENUボタン →  (再生) 1 → [記録画像の回転表示] → 希望の設定を選ぶ。

オート	本機を回転させると、本機の縦横を判断し、再生している画像が自動で回転します。
マニュアル	縦位置で撮影した画像を縦向きに表示します。また回転機能で表示する向きを設定した場合はその向きに表示します。
切	記録画像を常に横向きに表示します。

再生時の画面表示について

再生時の画面表示の切り換え

DISPボタンを押すたびに、下記のように画面表示が切り替わります。

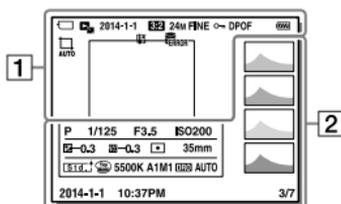


* 画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します(白とび黒つぶれ警告)。

- 再生時の設定は、オートレビューでも反映されます。

ヒストグラム表示時の画面表示一覧

[情報表示あり]の画面表示については25ページをご覧ください。



1

表示	意味
	メモリーカード(57、253)
	ビューモード(181)
100-0003	フォルダー番号-ファイル番号(228)
3:2 16:9	静止画の画像横縦比(157)
24M 12M 6.0M 20M 10M 5.1M WIDE STD	静止画の画像サイズ(155)
RAW RAW+J X.FINE FINE STD	静止画の画質(157)
	プロテクト(189)
DPOF	DPOF (プリント)指定(190)
	バッテリー容量(58)
	バッテリー残量警告(58)
	管理ファイルフル警告(244) /管理ファイルエラー警告(244)
	温度上昇警告
	NFC有効
	飛行機モード
	オートフレーミング(162)

2

表示	意味
	ヒストグラム(98)
	撮影モード(75)
1/125	シャッタースピード(89)
F3.5	絞り値(87)
ISO200	ISO感度(141)
-0.3	露出補正(118)
-0.3	調光補正(136)
	測光モード(122)
35mm	レンズ焦点距離
	クリエイティブスタイル(148)
	ピクチャーエフェクト(146)
AWB -1 0 +1 WB 5500K A1 M1	ホワイトバランス(オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム)(151)
OFF DRO HDR HDR	Dレンジオプティマイザー(143) /オートHDR/オートHDR画像警告(144)

表示	意味
2014-1-1 10:37PM	撮影日時
3/7	画像番号/ビューモード内画像枚数

保護する(プロテクト)

画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。

1 MENUボタン →  (再生) 2 → [プロテクト] → [画像選択] を選ぶ。

2 マルチセレクトターの◀/▶で保護したい画像を選んで、中央の●を押す。

- チェックボックスに✓マークが付く。
- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。



3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 マルチセレクトターの▲/▼で[確認]を選び、中央の●を押す。

画像の保護をまとめて解除するには

表示しているフォルダーごとや日付ごとに、画像の保護をまとめて解除します。

MENUボタン →  (再生) 2 → [プロテクト] → [このフォルダーを全て解除]または[この日付を全て解除]を選ぶ。

ご注意

- [ビューモード]の設定によって、表示される項目が異なります。

プリント指定する

画像を選択する

撮影した静止画を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像をプリントするかを指定しておくことができます。

指定方法は、下記の手順をご覧ください。

DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

1 MENUボタン →  (再生) 2 → [プリント指定] → [画像選択] を選ぶ。

2 マルチセレクターの◀/▶で画像を選び、中央の●を押す。

チェックボックスに☑マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。

3 他の画像もプリントするときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 マルチセレクターの▲/▼で [確認] を選び、中央の●を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- プrintの枚数指定はできません。

日付を入れる

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所(画像内/画像外、サイズなど)は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン →  (再生) 2 → [プリント指定] → [印刷設定] → [日付プリント] → [入] → [実行] を選ぶ。

ご注意

- プリンターによっては、日付プリントの機能に対応していないものもあります。

削除する

不要な画像を選んで削除したり、まとめて削除できます。
一度削除した画像は、元に戻せません。削除してよいか、事前に確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

画像選択削除

1 MENUボタン →  (再生) 1 → [削除] → [画像選択] を選ぶ。

2 マルチセクターで削除したい画像を選び、中央の●を押す。

チェックボックスに✓マークが付く。

- 解除するときは、もう一度中央の●を押す。



合計枚数

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。

- 一覧表示のときに、画面左側のバーを選んで、フォルダー内の画像をまとめて選択することもできる。

4 MENUボタンを押す。

5 マルチセクターの▲/▼で[確認]を選び、中央の●を押す。

まとめて画像を削除する

表示しているフォルダービュー内または日付内のすべての画像を削除します。

1 MENUボタン →  (再生) 1 → [削除] →
[このフォルダーの全画像]または[この日付の全画像]を選ぶ。

2 マルチセレクトターの▲/▼で[確認]を選び、中央の●を押す。

希望のフォルダーまたは日付を表示するには

再生時にを押して一覧画面を表示し、マルチセレクトターで左側のバーを選び、▲/▼で希望のフォルダーまたは日付を選びます。

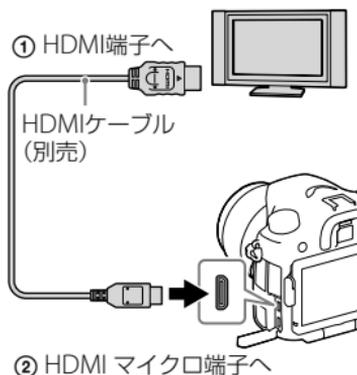
ご注意

- [ビューモード]の設定によって、表示される項目が異なります。

テレビで見る

本機の画像をテレビで見するには、HDMIケーブル(別売)と、HDMI端子のあるハイビジョンテレビが必要です。

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。



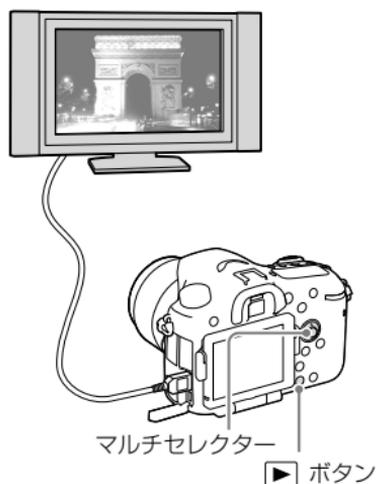
2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

- テレビの取扱説明書もあわせてご確認ください。

3 本機の電源を入れる。

撮影した画像がテレビに表示される。
マルチセレクターの◀▶で画像を選ぶ。

- 本機のモニターは点灯しない。
- 再生画面になっていないときは、
▶ ボタンを押してください。



ご注意

- HDMIケーブルは、HDMIロゴの付いたもの、またはソニー製のケーブルを推奨します。
- HDMIケーブルは、本機側はHDMIマイクロ端子、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのものをお使いください。
- テレビに正しく画面が表示されない場合は、 (セットアップ) 3の [HDMI設定] → [HDMI解像度] を接続するテレビに合わせて、[1080p] または [1080i] にしてください。
- 一部の機器では正常に動作しない場合があります。
- 本機と接続機器の出力端子同士を接続しないでください。故障の原因になります。

ブラビア プレミアムフォト™について

本機はブラビア プレミアムフォトに対応しています。

ブラビア プレミアムフォトに対応したソニー製テレビにHDMIケーブルで接続出力すると、写真を今までになかった感動の高画質で快適にお楽しみいただけます。

ブラビア プレミアムフォト対応のUSB端子つきソニー製テレビでは、付属のマイクロUSBケーブルでも接続できます。

ブラビア プレミアムフォトとは、写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。

HDMI情報表示

HDMIケーブル(別売)で本機とテレビを接続したとき、情報表示なしの画像をテレビに表示し、情報表示のある画像を本機のモニターに表示します。

1 MENUボタン →  (セットアップ) 3 → [HDMI設定] → [HDMI情報表示] → [なし]を選ぶ。

2 本機とテレビを接続する(194ページ)。

撮影している画像が、情報表示なしでテレビに表示される。
本機のモニターには画像情報が入った状態で表示される。

ブラビア™リンク

本機とブラビアリンクに対応のテレビをHDMIケーブルでつなぐと、テレビのリモコンで操作できます。

1 ブラビアリンクに対応したテレビと本機を接続する(194ページ)。

テレビの入力が自動で切り替わり、本機の画像が表示される。

2 リモコンの「リンクメニュー」ボタンを押す。

3 リモコンのボタンで操作する。

ご注意

- HDMIケーブルで本機とテレビを接続する場合、操作できる項目が制限されます。
- 2008年以降に発売された「ブラビアリンク(リンクメニュー対応)」に対応したテレビで使用できます。また、リンクメニュー操作はお使いのテレビによって異なります。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 他社のテレビとHDMI接続する場合、テレビのリモコン操作で本機が不要な動きをする場合は、 (セットアップ) 3の[HDMI設定] → [HDMI機器制御]を[切]にしてください。

4K静止画再生

4K対応テレビに4K解像度で静止画を出力します。

1 本機と4KテレビをHDMIケーブルで接続する(194ページ)。

2 MENUボタン →  (再生) 2 → [4K静止画再生] → [確認]を選ぶ。

ご注意

- 4K対応テレビのみで使用できます。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

本体の設定を変更する

レンズなしリリース

本機を天体望遠鏡に取り付ける場合などは、レンズを取り付けていない状態でもシャッターを切れるように設定します。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 4 →
[レンズなしリリース] → [許可] を選ぶ。

ご注意

- 天体望遠鏡など、レンズ信号接点を持たないレンズをお使いの場合は、正確な測光が行えません。撮影結果を見て、手動で露出を合わせてください。

グリッドライン

構図合わせのための補助線であるグリッドライン表示を設定します。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 1 → [グリッドライン] →
希望の設定を選ぶ。

オートレビュー

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ☆ (カスタム設定) 1 → [オートレビュー] →
希望の設定を選ぶ。

ご注意

- オートレビュー時は、[歪曲収差補正]などの画像処理前の画像を最初に表示したあとに、処理後の画像を表示することがあります。

カスタムキー設定

フォーカスホールドボタン*、AELボタン、ISOボタン、露出補正ボタン、ホワイトバランスボタン、ドライブモードボタン、AF/MFボタン、C（カスタム）ボタン、プレビューボタン、ボタン、中央ボタンの中から選ぶ。

* レンズのフォーカスホールドボタンの機能を設定します。

MENUボタン →  (カスタム設定) 6 → [カスタムキー設定] → 希望のキー → 希望の設定を選ぶ。

割り当てられる機能について

スタンダード**	露出補正	ドライブモード
フラッシュモード	フォーカスエリア	顔検出/スマイルシャッター
 オートフレーミング	 美肌効果	ISO感度
測光モード	調光補正	ホワイトバランス
DRO/オートHDR	クリエイティブスタイル	ピクチャーエフェクト
 画像サイズ	 横縦比	 画質
押す間AEL	再押しAEL	押す間スポットAEL
再押しスポットAEL	押す間FELロック	再押しFELロック
押す間FELロック/AEL	再押しFELロック/AEL	中央ボタン押しロックオンAF
押す間AF/MFコントロール	再押しAF/MFコントロール	AFロック
AFオン	AFレンジコントロール	フォーカスホールド
絞りプレビュー	撮影結果プレビュー	スマートテレコンバーター
ズーム	ピント拡大	登録
モニターミュート	スマートフォン転送	スマートフォン操作
カメラ内ガイド	瞳AF	 手ブレ補正
 手ブレ補正	録音レベル	ゼブラ
グリッドライン	音声レベル表示	ピーキングレベル
ピーキング色	モニター明るさ	未設定

** 中央ボタンにのみ設定できます。

カスタムキーでのみ設定できる機能

スタンダード	[中央ボタン押しロックオンAF]の設定によってボタンの機能が変わります。 <ul style="list-style-type: none"> • [中央ボタン押しロックオンAF]が[入]のとき： [中央ボタン押しロックオンAF] • [中央ボタン押しロックオンAF]が[切]のとき： 画面の中央でAFを行う。
押す間AEL	ボタンを押している間、AEロックします。
再押しAEL	ボタンを押すと、AEロックします。再度押すと解除します。
押す間スポットAEL	121ページ
再押しスポットAEL	121ページ
押す間FELロック	140ページ
再押しFELロック	139ページ
押す間FELロック/AEL	140ページ
再押しFELロック/AEL	140ページ
押す間AF/MFコントロール	116ページ
再押しAF/MFコントロール	116ページ
AFロック	ボタンを押している間、AFロックします。
AFオン	110ページ
絞りプレビュー	88ページ
撮影結果プレビュー	88ページ
モニターミュート	一度押すとモニターを黒画面にします。もう一度押すと黒画面を解除します。
カメラ内ガイド	54ページ
瞳AF	116ページ

電子先幕シャッター

電子先幕シャッターを使うと、短いリリースタイムラグで撮影できます。

MENUボタン → **☆ (カスタム設定) 5** →
[電子先幕シャッター] → **希望の設定を選ぶ。**

ご注意

- 大口径レンズを装着して、高速のシャッタースピードで撮影する場合、被写体や撮影環境によってボケ像が欠けることがあります。その場合は[切]に設定してお使いください。
- ミノルタ/コニカミノルタ製レンズを使用するときは[切]に設定してお使いください。
- 高速のシャッタースピードで撮影する場合、撮影条件によっては画面の明るさにムラが出る場合があります。その場合は[切]に設定してお使いください。

モニター明るさ

本機は明るさセンサー（19ページ）により、周囲の明るさに合わせて、モニターの明るさを自動調整します。

明るさを手動で変えたり、晴天時の屋外に最適な明るさにすることもできます。

MENUボタン → **☰ (セットアップ) 1** → **[モニター明るさ]**
→ 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- [オート]設定時は、明るさセンサーを手などで覆わないようにしてお使いください。
- [オート]設定時にACアダプター AC-PW10AM（別売）を使うと、モニターの明るさは常に最も明るい設定になります。
- 室内で[屋外晴天]にすると明るすぎるため、室内での使用時は[オート]か[マニュアル]に設定してください。

ファインダー明るさ

本機は、被写体の明るさに合わせてファインダーの明るさを自動調整します。

これを手動で変えることもできます。

MENUボタン →  (セットアップ) 1 →
[ファインダー明るさ] → [マニュアル] → 希望の設定を選ぶ。

パワーセーブ開始時間

操作していないときにパワーセーブ(省電力)モードになるまでの時間を設定してバッテリーの消耗を防ぎます。パワーセーブ時でも、シャッターボタン半押しなどの操作をすれば、撮影が再開できます。

MENUボタン →  (セットアップ) 2 →
[パワーセーブ開始時間] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- テレビ接続時はパワーセーブモードになりません。

FINDER/MONITOR

モニター表示とファインダー表示の自動切り換えを無効にして、FINDER/MONITOR切り換えボタンを押したときのみ切り換えるように設定できます。

MENUボタン →  (カスタム設定) 4 →
[FINDER/MONITOR] → [マニュアル] を選ぶ。

レンズ補正を設定する

レンズの周辺光量低下、倍率色収差、歪曲収差を自動で補正します(自動補正対応レンズのみ)。自動補正対応レンズは、専用サポートサイトでご確認ください。

<http://www.sony.co.jp/DSLR/support/>

レンズ補正(周辺光量)

使用するレンズによって画面の周辺部が暗くなる場合に、自動で光量を補正します。

お買い上げ時の設定は[オート]になっています。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 6 → [レンズ補正] → [周辺光量補正] → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正(倍率色収差)

使用するレンズによって画面周辺部で色ずれが起こる場合に、自動で色ずれを補正します。

お買い上げ時の設定は[オート]になっています。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 6 → [レンズ補正] → [倍率色収差補正] → 希望の設定を選ぶ。

レンズ補正(歪曲収差)

使用するレンズによって画面の歪みが起こる場合に、自動で歪みを補正します。

お買い上げ時の設定は[切]になっています。

MENUボタン → ☆(カスタム設定) 6 → [レンズ補正] → [歪曲収差補正] → 希望の設定を選ぶ。

メモリーカードへの記録方法を設定する

フォーマット

フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン →  (セットアップ) 5 → [フォーマット] → [実行]を選ぶ。

ご注意

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。
- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。
- バッテリー残量が1%以下のときは、フォーマットできません。

ファイル番号

MENUボタン →  (セットアップ) 5 → [ファイル番号] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイル番号をリセットせず、9999までファイル番号を続ける。
リセット	新規のフォルダーにファイルを記録する場合にはファイル番号をリセットし、0001から番号を付ける。同一フォルダー内にファイルが存在している場合は、その続きから始まる。

ご注意

- [リセット]を行うと、ファイル番号はリセットされます。

フォルダー形式

撮影した静止画は、メモリーカードの中のDCIMフォルダーの下に自動生成されたフォルダーに保存されます。

MENUボタン →  (セットアップ) 5 → [フォルダー形式]
→ 希望の設定を選ぶ。

標準形式	フォルダー名が、フォルダー番号+MSDCFになる。 例：100MSDCF
日付形式	フォルダー名が、フォルダー番号+年月日(西暦下1桁月日4桁)になる。 例：10040405 (100フォルダー、2014年4月5日)

ご注意

- MP4動画のフォルダー形式は「フォルダー番号+ANV01」で固定されます。

記録フォルダー選択

標準形式フォルダーを選択中でフォルダーが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダー(記録フォルダー)を選べます。

MENUボタン →  (セットアップ) 5 →
[記録フォルダー選択] → 希望のフォルダーを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダー設定中は、記録フォルダーの選択はできません。

フォルダー新規作成

メモリーカードの中に、新しいフォルダーを作成します。
既存番号+1のフォルダーが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダーに記録されます。静止画用のフォルダーとMP4動画用のフォルダーが同時に作成されます。

MENUボタン →  (セットアップ) 5 →
[フォルダー新規作成]を選ぶ。

ご注意

- 他機で使用していたメモリーカードを本機に入れて撮影すると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。
- 1つのフォルダー番号に記録できる画像は最大4000枚です。容量を超えると、自動的に新しいフォルダーが作成される場合があります。

管理ファイル修復

パソコンでファイルを操作したなどの原因で、画像を管理しているファイルに何らかの異常が発生すると、メモリーカード内の画像が再生できなくなります。
そのような場合に管理ファイルの修復を行います。

MENUボタン →  (セットアップ) 5 → [管理ファイル修復]
→ [実行]を選ぶ。

ご注意

- 十分に充電したバッテリーをお使いください。残量の少ないバッテリーを使用して行くと、データを破損するおそれがあります。

アップロード設定(Eye-Fi)

市販のEye-Fiカードを使って、アップロード機能を使うことができます。

Eye-Fiカードが本機のメモリーカードスロットに入っているとき、自動アップロード機能の設定メニューが表示されます。

MENUボタン →  (セットアップ) 1 → [アップロード設定] → [入]を選ぶ。

通信状態の画面表示

	待機中で、送信画像が無い
	アップロード待機中
	接続中
	アップロード中
	エラー発生

ご注意

- Eye-Fiカードはご使用の前に、無線LANアクセスポイントや転送先を設定してください。詳しくはEye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- Eye-Fiカードは一部の国、または地域で販売しています。
- Eye-Fiカードに関する問い合わせは、その製造者・販売者に直接ご確認ください。
- Eye-Fiカードはご購入された国、または地域のみで使用が認められています。使用する国、または地域の法律に従ってお使いください。
- Eye-FiカードはワイヤレスLAN機能を持っています。飛行機の中など、使用を禁止されている場所では、Eye-Fiカードを本機に入れなくてください。入っている場合は[アップロード設定]を[切]にしてください。アップロード機能が[切]になっていると画面上に  が表示されます。
- 新しいEye-Fiカードを初めて使うときは、カードをフォーマットする前に、カードに書き込まれているEye-Fiマネージャーのインストールファイルをパソコンにコピーしてください。

- Eye-Fiカードは、ファームウェアを最新版にバージョンアップしてからお使いください。バージョンアップについて詳しくは、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 画像アップロード中はパワーセーブ機能は働きません。
-  (エラー発生)が表示された場合は、メモリーカードを抜き差しするか、電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、Eye-Fiカードが壊れている可能性があります。
- 無線LANの通信は他の通信機器の影響を受けることがあります。通信状態が良くないときは、接続先のアクセスポイントに近づいてください。
- アップロードできるファイルについては、Eye-Fiカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機はエンドレスモードに対応していません。Eye-Fiを使用する前に、エンドレスモードは必ずオフに設定してください。

好みの設定を登録する

よく使うモードや数値の組み合わせを3つまで本機に登録でき、モードダイヤルで簡単に呼び出せます。

1 本機を登録したい設定にする。

2 MENUボタン →  (撮影設定) 9 → [登録]を選ぶ。

3 マルチセレクターの◀/▶で登録先の番号を選び、中央の●を押す。

登録したあとも、設定を変更できます。

登録できる項目

撮影モード	シャッタースピード	絞り
ISO感度	 画像サイズ	 横縦比
 画質	パノラマ: 画像サイズ	パノラマ: 撮影方向
 記録方式	 記録設定	ドライブモード
フラッシュモード	調光補正	フォーカスエリア
ロックオンAF	測光モード	ホワイトバランス
DRO/オートHDR	クリエイティブスタイル	ピクチャーエフェクト
顔検出/スマイルシャッター	ISO AUTO上限	ISO AUTO下限
赤目軽減発光	 AF補助光	 長秒時NR
 高感度NR	 美肌効果	 オートフレーミング
手ブレ補正	 色空間	 オートスローシャッター

登録を呼び出すには

モードダイヤルの「1」、「2」、「3」から呼び出したい番号を選んでください。

登録した内容を変更するには

呼び出したあとに希望する設定に変更し、同じ番号に再登録してください。

ご注意

- プログラムシフトは登録できません。
- 一部の機能については、本機のダイヤルの位置と、実際に撮影に使われる設定とが一致しなくなります。本機のモニター情報を元に撮影してください。

設定を初期値に戻す

本機的主要な設定が初期値に戻ります。

MENUボタン →  (セットアップ) 6 → [設定リセット] → 希望の設定 → [確認]を選ぶ。

○はリセットされる項目、×はリセットされない項目です。

項目	リセット後の設定値	撮影設定 リセット	初期化
画像サイズ	L: 24M	○	○
横縦比	3:2	○	○
画質	ファイン	○	○
パノラマ: 画像サイズ	標準	○	○
パノラマ: 撮影方向	右	○	○
記録方式	AVCHD	○	○
記録設定	60i 17M(FH)	○	○
ドライブモード	1枚撮影	○	○
フラッシュモード	強制発光	○	○
調光補正	±0.0	○	○
調光モード	ADI調光	○	○
発光レベル	1/1	○	○
赤目軽減発光	切	○	○
AF-Aの機能	AF-A	○	○
フォーカスエリア	ワイド	○	○
AF補助光	オート	○	○
 AF駆動速度	高速	○	○
 AF追従感度	3	○	○
 AF追従感度	中	○	○
露出補正	±0.0	○	○
露出値ステップ幅	0.3段	○	○

項目	リセット後の設定値	撮影設定 リセット	初期化
ISO感度	ISO AUTO	○	○
測光モード	マルチ	○	○
ホワイトバランス	オート	○	○
DRO/オートHDR	Dレンジオプティマイザー	○	○
クリエイティブスタイル	スタンダード	○	○
ピクチャーエフェクト	切	○	○
ズーム	-	○	○
ピント拡大	-	○	○
長秒時NR	入	○	○
高感度NR	標準	○	○
中央ボタン押しロックオン AF	切	○	○
顔検出/スマイルシャッター	入(登録顔優先)	○	○
美肌効果	切	○	○
オートフレーミング	切	○	○
オートモード	おまかせオート	○	○
シーンセレクション	ポートレート	○	○
動画	プログラムオート	○	○
静止画：手ブレ補正	入	○	○
動画：手ブレ補正	切	○	○
色空間	sRGB	○	○
オートスローシャッター	入	○	○
音声記録	入	○	○
録音レベル	26	○	○
音声出力タイミング	ライブ	○	○
風音低減	切	○	○
登録	-	○	○
ゼブラ	切	×	○

項目	リセット後の設定値	撮影設定 リセット	初期化
ピント拡大時間	無制限	×	○
グリッドライン	切	×	○
音声レベル表示	入	×	○
オートレビュー	2秒	×	○
DISPボタン	-	×	○
ピーキングレベル	切	×	○
ピーキング色	ホワイト	×	○
露出設定ガイド	切	×	○
ライブビュー表示	設定効果反映On	×	○
AFレンジコントロール	入	×	○
フォーカスエリア自動消灯	切	×	○
フォーカスエリア点数	オート	×	○
フレキシブルスポット点数	全て	×	○
ワイドフォーカスエリア表示	入	×	○
ズーム設定	光学ズームのみ	×	○
アイスタートAF	切	×	○
FINDER/MONITOR	オート	×	○
レンズなしリリース	禁止	×	○
フォーカス/リリース優先	バランス重視	×	○
シャッター半押しAF	入	×	○
シャッター半押しAEL	オート	×	○
シャッター半押しブレ補正	入	×	○
電子先幕シャッター	入	×	○
連続撮影 (プレミアムおまかせオート)	オート	×	○
画像抽出 (プレミアムおまかせオート)	オート	×	○
露出補正の影響	定常光+フラッシュ	×	○

項目	リセット後の設定値	撮影設定 リセット	初期化
ブラケット順序	0→-→+	×	○
個人顔登録	-	×	○
AF微調整	-	×	×
レンズ補正	-	×	○
ファンクションメニュー設定	-	×	○
カスタムキー設定	-	×	○
ダイヤルの設定	 絞り  シャッター	×	○
ダイヤル露出補正	切	×	○
MOVIE（動画）ボタン	常に有効	×	○
ダイヤルロック	切	×	○
スマートフォン転送	-	×	○
パソコン保存	-	×	○
テレビ鑑賞	-	×	○
スマートフォン操作	-	×	○
飛行機モード	切	×	○
アクセスポイント簡単登録	-	×	○
アクセスポイント手動登録	-	×	○
機器名称変更	-	×	○
MACアドレス表示	-	×	○
SSID・PWリセット	-	×	○
ネットワーク設定リセット	-	×	○
削除	-	×	○
ビューモード	日付ビュー	×	○
一覧表示	9枚	×	○
記録画像の回転表示	マニュアル	×	○
スライドショー	-	×	○
回転	-	×	○
拡大	-	×	○

項目	リセット後の設定値	撮影設定 リセット	初期化
4K静止画再生	-	×	○
プロテクト	-	×	○
プリント指定	-	×	○
モニター明るさ	オート	×	○
ファインダー明るさ	オート	×	○
ファインダー色温度	±0	×	○
音量設定	7	×	○
電子音	入	×	○
アップロード設定	入	×	○
タイトルメニュー	切	×	○
モードダイヤルガイド	切	×	○
削除確認画面	「キャンセル」が先	×	○
パワーセーブ開始時間	1分	×	○
クリーニングモード	-	×	○
デモモード	切	×	○
リモコン	切	×	○
HDMI解像度(HDMI設定)	オート	×	○
HDMI情報表示(HDMI設定)	あり	×	○
HDMI機器制御(HDMI設定)	入	×	○
USB接続	オート	×	○
USB LUN設定	マルチ	×	○
日時設定	-	×	○
エリア設定	-	×	○
フォーマット	-	×	○
ファイル番号	連番	×	○
記録フォルダー選択	-	×	○
フォルダー新規作成	-	×	○

項目	リセット後の設定値	撮影設定 リセット	初期化
フォルダー形式	標準形式	×	○
管理ファイル修復	-	×	○
メディア残量表示	-	×	○
バージョン表示	-	×	○
認証マーク表示	-	×	○
設定リセット	-	×	○

本機のバージョンを確認する

お手持ちのカメラのバージョンを表示します。本機のファームウェアのアップデートがリリースされたときなどに確認します。
レンズバージョンアップに対応したレンズを装着すると、レンズのバージョンも表示されます。

MENUボタン →  (セットアップ) 6 → [バージョン表示] を選ぶ。

ご注意

- バッテリー残量が  (残量が3個)以上でないと、アップデートは行えません。十分に充電したバッテリーを使うか、ACアダプター AC-PW10AM (別売)の使用をおすすめします。

Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能を使う

本機のWi-Fi機能/NFCワンタッチ機能を使って次のことが行えます。

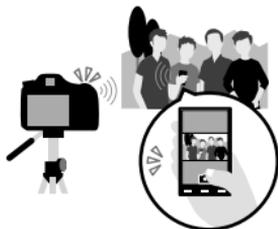
パソコンに画像を保存する



スマートフォンに画像を転送する



スマートフォンをカメラから
リモコンとして使う



テレビで静止画を鑑賞する



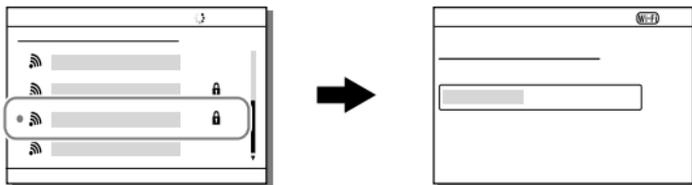
Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能の詳細については、別紙の「Wi-Fi機能/NFCワンタッチ機能をお使いのお客様へ」またはヘルプガイド(259ページ)をご覧ください。

カメラを無線アクセスポイントに接続する

お使いの無線アクセスポイントに本機を接続します。お使いの無線アクセスポイントのSSID（アクセスポイントの名称）とパスワードをお手元に準備して操作してください。

1 MENUボタン →  (ワイヤレス) 2 →
[アクセスポイント手動登録]を選ぶ。

2 マルチセレクターの▲/▼で、接続したい無線アクセスポイントを選び、中央の●を押して無線アクセスポイントのパスワードを入力 → [OK]を選ぶ。



ご注意

- 接続できない場合は、無線アクセスポイントの説明書を参照いただくか、管理されている方にお問い合わせください。
- パソコンに画像を保存する場合は、お使いのパソコンに専用のソフトウェアをインストールしてください。

Windowsをお使いの方：PlayMemories Home
www.sony.net/pm/

Macをお使いの方：Wireless Auto Import（ワイヤレス自動取り込み）
<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

ソフトウェアを使う

本機で撮影した画像をいっそうご活用いただくために、以下のソフトウェアをご利用ください。

- Image Data Converter
- PlayMemories Home
- Remote Camera Control

パソコンの推奨環境を確認する

ソフトウェアのパソコン環境は以下のURLよりご確認ください。
www.sony.net/pcenv/



Image Data Converterを使う

次のことなどができます。

- RAW画像を再生し、トーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存
RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像の表示、比較
- 5段階でランク付け
- カラーラベルの設定

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。

[スタート] → [すべてのプログラム] → [Image Data Converter]
→ [ヘルプ] → [Image Data Converter Ver.4]

Image Data Converterのサポート情報

<http://www.sony.co.jp/ids-sj/>

Image Data Converterをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のURLにアクセスする。

<http://www.sony.co.jp/ids-sj/>

2 画面の指示に従ってImage Data Converterをダウンロードしてインストールする。

ご注意

- Image Data Converterのインストールにはインターネット接続が必要です。

Image Data Converterガイドを見る

Image Data Converterの操作について詳しくは、Image Data Converterガイドをご覧ください。

Windows :

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [Image Data Converter] → [ヘルプ] → [Image Data Converter Ver.4]

- Windows 8の場合は、[Image Data Converter Ver.4]を起動して、メニューバーの[ヘルプ]から[Image Data Converterガイド]を選択します。

Mac :

1 Finderを起動して[アプリケーション] → [Image Data Converter] → [Image Data Converter Ver.4] → メニューバーの[ヘルプ] → [Image Data Converterガイド]を選ぶ。

- Image Data Converterのサポートページ(<http://www.sony.co.jp/ids-sj/>)でも詳しい操作方法をご確認頂けます。

PlayMemories Homeを使う

撮影した静止画、動画を、パソコンに取り込んで閲覧や活用ができます。AVCHD動画をパソコンに取り込む場合はPlayMemories Homeが必要です。

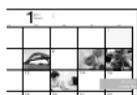


カメラの画像をPCに取り込み

取り込んだ画像を再生する



Windowsは以下の機能も使えます。



カレンダーで表示



動画ディスクを作成



ネットワークサービスにアップロード

PlayMemories Online™
で画像をシェア



- カメラとパソコンを接続し、PlayMemories Homeを起動して、[お知らせ]をクリックするとImage Data ConverterやRemote Camera Controlなどのソフトウェアがダウンロードできます。

ご注意

- PlayMemories Homeのインストールにはインターネット接続が必要です。
- PlayMemories Online、各ネットワークサービスの利用にはインターネット接続が必要です。
- Mac用アプリケーションについては以下のURLをご覧ください。
<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>
- 2011年以前の機種に付属のソフトウェアPMB (Picture Motion Browser) がインストールされている場合、PMBはPlayMemories Homeに上書きインストールされます。
PMBの後継ソフトウェアPlayMemories Homeをご使用ください。

- [録画記録設定]を[60p 28M(PS)]または[60i 24M(FX)]、[24p 24M(FX)]にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください。

PlayMemories Homeをインストールする

- 1 パソコンのインターネットブラウザで以下のダウンロードサイトにアクセスして、[インストール] → [実行]をクリックする。

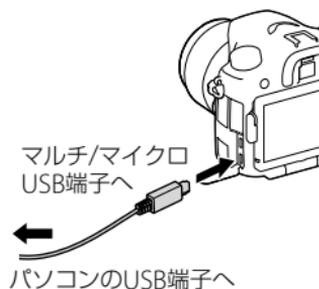
www.sony.net/pm/

- 2 画面の指示に従ってインストールを進める。

- PlayMemories Homeサポートページ
(<http://www.sony.co.jp/pmh-sj/>)で詳しい操作方法をご確認ください。

PlayMemories Homeで利用できる機能を追加する

本機とパソコンを接続すると、PlayMemories Homeに機能が追加される場合があります。すでにPlayMemories Homeがインストールされている場合でも、本機とパソコンを一度接続することをおすすめします。



Remote Camera Controlを使う

パソコンと本機を接続してRemote Camera Controlをご利用になると、次のことができます。

- 本機の設定、撮影をパソコンで行います。
- 撮影した画像を直接パソコンに記録します。
- インターバルタイマー撮影を行います。

MENUボタン →  (セットアップ) 4 → [USB接続] → [PCリモート]にしてから使います。詳しい使いかたは、ヘルプをご覧ください。

Remote Camera Controlをインストールする

1 パソコンのインターネットブラウザで以下のURLにアクセスする。

Windows:

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Win/>

Mac:

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

2 画面の指示に従ってRemote Camera Controlをダウンロードしてインストールする。

ご注意

- Remote Camera Controlのインストールにはインターネット接続が必要です。

本機とパソコンを接続する

USB接続方法を設定する

本機をパソコンなどとUSB接続するときの接続方法を設定します。

MENUボタン →  (セットアップ) 4 → [USB接続] → 希望の設定を選ぶ。

オート	接続するパソコンやその他USB機器に応じて、MTPとマストレージのどちらで接続するのか自動的に選択される。Windows 7、Windows 8の場合にはMTPで接続され、Windows 7、Windows 8特有の機能が使用できる。
マストレージ	本機とパソコン、その他USB機器をマストレージ接続する。
MTP	本機とパソコン、その他USB機器をMTP接続する。Windows 7、Windows 8の場合にはMTPで接続され、Windows 7、Windows 8特有の機能が使用できる。
PCリモート	Remote Camera Controlを使って、パソコンから撮影したり、撮影した画像をパソコン内に保存したりする。

ご注意

- [USB接続]を[オート]に設定しているときは、接続に時間がかかる場合があります。
- Windows 7、Windows 8接続時にデバイスステージ*が表示されない場合、[USB接続]を[オート]に設定してください。
- * 接続されたカメラなどを管理できるメニュー画面 (Windows 7、Windows 8の機能) です。

USB接続モードを設定する(USB LUN設定)

本機をパソコンなどとUSB接続するとき、USB接続の機能を制限して互換性を高めます。通常は[マルチ]のまま使い、どうしても接続できない場合のみ、[シングル]に設定します。

MENUボタン →  (セットアップ) 4 → [USB LUN 設定] → 希望の設定を選ぶ。

マルチ	通常はこちらを選ぶ。
シングル	[マルチ]で接続できないときは、こちらを選ぶ。

パソコンと接続する

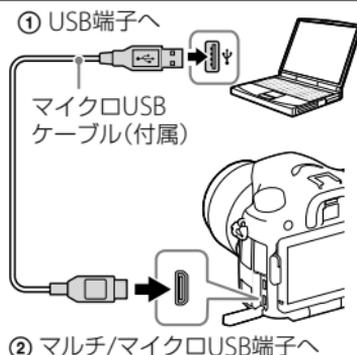
1 十分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター AC-PW10AM (別売)を使い、本機とコンセントを接続する。

2 本機とパソコンの電源を入れる。

3  (セットアップ) 4の[USB接続]が[マストレージ]になっていることを確認する。

4 本機とパソコンを接続する。

- 初回接続時のみ、パソコンが本機を認識するための作業を自動的に行います。作業が終わるまでお待ちください。



画像を取り込んで見る(Windows)

PlayMemories Homeを使うと、簡単に画像を取り込みます。

PlayMemories Homeを使わずに画像をパソコンに取り込むには

本機とパソコンを接続して自動再生ウィザードが起動したら、[フォルダを開いてファイルを表示] → [OK] → [DCIM]または[MP_ROOT]をクリックして、取り込みたい画像をパソコン内にコピーしてください。

ファイル名について

フォルダー	ファイルの種類	ファイル名
DCIMフォルダー	JPEGファイル	DSC0□□□□.JPG
	JPEGファイル(Adobe RGB)	_DSC□□□□.JPG
	RAWファイル	DSC0□□□□.ARW
	RAWファイル(Adobe RGB)	_DSC□□□□.ARW
MP_ROOTフォルダー	MP4ファイル(1440×1080 12M)	MAH0□□□□.MP4
	MP4ファイル(VGA 3M)	MAQ0□□□□.MP4

- (ファイル番号)は0001 ~ 9999の半角数字
- [画質]を[RAW+JPEG]で撮影した場合、RAWファイルとJPEGファイル名の数字部分は同じです。

ご注意

- AVCHD動画を取り込むなどの操作はPlayMemories Homeを使用してください。
- 本機とパソコンを接続した状態で、パソコンから本機のAVCHD動画ファイルやフォルダーを操作した場合、画像ファイルが壊れたり、再生できなくなることがあります。パソコンから本機のメモリーカード上のAVCHD動画を削除したり、コピーをしたりしないでください。このような操作をした結果に対し、当社は責任を負いかねます。

画像を取り込んで見る(Mac)

PlayMemories Homeを使うと、簡単に画像を取り込めます。

PlayMemories Homeを使わずに画像をパソコンに取り込むには

1 本機とパソコンを接続したら[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリックする。

2 画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする。

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

3 [ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックする。

画像が表示される。

Mac用ソフトウェアについて

その他Mac用ソフトウェアの詳細は以下のURLをご覧ください。

<http://www.sony.co.jp/imsoft/Mac/>

パソコンとの接続を切断する

以下の操作を行いたいときは、1～2の手順をあらかじめ行ってください。

- マイクロUSBケーブルを抜く。
- メモリーカードを取り出す。
- 本機の電源を切る。

1 タスクトレイの切断アイコンをダブルクリックする。

- Windows 7、Windows 8のときは、 をクリックしてから、 をクリックする。



2 [USB大容量記憶装置を安全に取り外します]をクリックする。

ご注意

- Mac使用時は、あらかじめメモリーカード、またはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップしてください。パソコンとの接続が切断されません。
- Windows 7、Windows 8使用時は、切断アイコンが出ない場合があります。その場合は前記の手順を行わずに切断できます。
- アクセスランプが点灯しているときは、マイクロUSBケーブルを抜かないでください。データが壊れることがあります。

動画のディスクを作成する

本機に記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。

動画ディスクの作りかたを選ぶ

本機で記録したAVCHD動画からディスクを作成することができます。ディスクの種類によって再生可能な機器が異なります。お使いの再生機器に合わせて、作成するディスクの種類を選択してください。作成方法は、PlayMemories Homeを使ってパソコンで作成する方法(Windowsのみ)と、レコーダーなどのパソコン以外の機器を使って作成する方法を紹介します。

ご注意

- Mac版のPlayMemories Homeではディスクを作成できません。

ディスクの種類/目的	記録できる動画画質			再生機器
	PS	FX	FH	
 Blu-ray ハイビジョン画質で残したい	○	○	○	ブルーレイディスク再生機器(ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション3など)
 DVD ハイビジョン画質(AVCHD記録ディスク)で残したい	×*	×*	○	AVCHD規格対応再生機器(ソニー製ブルーレイディスクプレーヤー、プレイステーション3など)
 DVD 標準画質で記録して残したい	×*	×*	×*	一般的なDVD再生機器(DVDプレーヤー、DVD再生可能なパソコンなど)

- * [設定] [録画設定] を [60p 28M(PS)] または [60i 24M(FX)]、[24p 24M(FX)] にして撮影した動画は、PlayMemories HomeでのAVCHD記録ディスク作成時に変換され、そのままの画質でディスクを作成することはできません。変換には時間がかかります。そのままの画質で保存したいときは、ブルーレイディスクに保存してください(232ページ)。

ブルーレイディスクを作るには

パソコンに取り込んだAVCHD動画から、ブルーレイディスクを作成できます。

お使いのパソコンがブルーレイディスク作成に対応している必要があります。

ディスクは、BD-R（書き換え不可）、BD-RE（書き換え可）が使えます。追加記録はできません。

ブルーレイディスクをPlayMemories Homeで作成するには専用のアドオンソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、以下のURLをご覧ください。

<http://support.d-imaging.sony.co.jp/BDUJ/>

インストールには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。

ご注意

- [60p 28M (PS)] で撮影した動画からPlayMemories Homeを使って作成したブルーレイディスクは、AVCHD規格 Ver.2.0に対応した機器でのみ再生できます。

PlayMemories Homeで使えるディスクの種類について

PlayMemories Homeでは以下の12 cmのディスクを使えます。ブルーレイディスクについては、232ページをご覧ください。

ディスクの種類	特徴
DVD-R / DVD+R / DVD+R DL	書き換えできない。
DVD-RW / DVD+RW	書き換えて再利用できる。

パソコン以外の機器で動画ディスクを作成する

ブルーレイレコーダーなどでもディスクを作成することができます。機器によって作成できるディスクの種類が異なります。

使用する機器	作成できるディスクの種類	
 <p>ブルーレイレコーダーを使ってブルーレイディスクや標準画質のディスクを作成する。</p>	 ハイビジョン画質	 標準画質
 <p>HDDレコーダーなどを使って標準画質のディスクを作成する。</p>	 標準画質	

ご注意

- 作成方法の詳細は、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- [60p 28M (PS)]で撮影した動画からブルーレイディスクを作成するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。また、作成したブルーレイディスクを再生するには、AVCHD規格Ver.2.0に対応した機器が必要です。

困ったときは

困ったときは、下記の流れに従ってください。

① 234～242ページの項目をチェックし、本機を点検する。

② バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

③ 設定リセットをする(211ページ)。

④ **α**専用サポートサイトで確認する。
<http://www.sony.co.jp/DSLR/support/>

⑤ 相談窓口で電話で問い合わせる。

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください(55ページ)。
- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。電源が入らない。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です(249ページ)。
- 残量表示と実際のズレが生じています。バッテリーを一度使い切ってから充電すると正しい表示に戻ります。ご使用状況によっては、表示にズレが生じることがあります。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(55ページ)。
- バッテリーの寿命です(256ページ)。新しいバッテリーと交換してください。
- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください(55ページ)。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定(パワーセーブ)になります。シャッターボタンを半押しするなどの操作をすれば、パワーセーブは解除されます(202ページ)。

バッテリー充電中、CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーはNP-FM500Hのみ使用できます。NP-FM500Hかどうか確認してください。
- バッテリーを取りはずし、もう一度同じバッテリーを本機に入れてください。
- 1年以上使用していないバッテリーは劣化の可能性があります。
- 充電に適した範囲外にあるため、充電の一時待機状態になっています。バッテリーの充電は周囲温度が10℃ ~30℃の環境で行うことをおすすめします。

電源を入れてもモニターがつかない。

- [FINDER/MONITOR]が[マニュアル]になっています。FINDER/MONITOR切り換えボタンを押してください(202ページ)。

撮影する

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調整してください(19ページ)。

ファインダーに画像が映らない。

- [FINDER/MONITOR]が[マニュアル]になっています。FINDER/MONITOR切り換えボタンを押してください(202ページ)。
- ファインダーに接眼してください。

モニターに画像が映らない。

- [FINDER/MONITOR]が[オート]でウェストレベル撮影をする場合、アイセンサーが反応してモニターが消灯します。[FINDER/MONITOR]を[マニュアル]にしてください。

シャッターが切れない。

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。
- メモリーカードの空き容量を確認してください。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください(60ページ)。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、「レンズなしリリース」を「許可」にして撮影してください(198ページ)。
- セルフタイマーになっている。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています(170ページ)。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています(157ページ)。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいので、撮影に多少時間がかかる場合があります。
- オートHDR処理中です(144ページ)。

同じ画像が数枚撮影される。

- ドライブモードが連続撮影、またはブラケット撮影になっています。[1枚撮影]にしてください(123ページ)。
- 撮影モードが「連続撮影優先AE」になっています(85ページ)。
- 撮影モードが「プレミアムおまかせオート」になっていて、「画像抽出」が「切」になっています(77ページ)。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎます。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。フォーカスモードダイヤルを「MF(マニュアルフォーカス)」以外にしてください(100ページ)。
- レンズにフォーカスモードスイッチが付いている場合は、「AF」にしてください。
- 光量が不足している。

アイスタートAFが働かない。

- [アイスタートAF]を「入」にしてください(45ページ)。
- シャッターボタンを半押ししてください。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください(64ページ)。
- エリア設定で現在地と異なる場所が設定されています。[エリア設定]を設定し直してください(64ページ)。

シャッターボタンを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる(フレア)。**光のにじみが現れる(ゴースト)。**

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入っています。レンズフードを取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合(光量低下)があります。この場合は[周辺光量補正](203ページ)で補正することができます。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください(39ページ)。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内で撮影してください。

モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません(13ページ)。

モニターの表示が普段と異なる。

- DISPボタンを押して、モニターの表示をお好みの設定に変えてください(96ページ)。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。暗いところでの撮影はシャッタースピードが遅くなるので、三脚またはフラッシュの使用をおすすめします(130ページ)。
- [手ブレ補正]または[手ブレ補正]が[入]になっているか、確認してください。

音声为正しく記録されない。

- 録音レベルを調節して音量を最低に絞ると、音声は記録されません。
- 録音レベルを調節して音量を最大にすると、音声が割れやすくなります。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダー/ファイルの名前を変更したためです(228ページ)。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- パソコン内の画像を本機で再生するにはPlayMemories Homeを使って画像をコピーしてください。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください(230ページ)。

画像を削除する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください(189ページ)。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください(189ページ)。

パソコン

最新サポート情報は、**α** 専用サポートサイトをご覧ください。
<http://www.sony.co.jp/DSLR/support/>

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(220ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください(55ページ)。
- 接続には、付属のマイクロUSBケーブルを使ってください(227ページ)。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください(227ページ)。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(227ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください(228、229ページ)。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(204ページ)。

画像を再生できない。

- PlayMemories Homeをお使いの場合はPlayMemories Homeのヘルプをご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときにPlayMemories Homeが自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(227ページ)。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(57ページ)。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(73、192ページ)。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています(59、253ページ)。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

プリントする

プリントできない。

- RAW画像はプリントできません。RAW画像をプリントするには、Image Data ConverterでJPEG画像に変換してください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB (DCF2.0/Exif2.21)に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります(173ページ)。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に横縦比が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- PlayMemories Homeを使ってプリントすると日付挿入ができます(223ページ)。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(249ページ)。

電源を入れると、「エリア/日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(64、250ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです(157ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- 電源スイッチが「ON」のままバッテリーを取り出すと、設定内容がリセットされることがあります。バッテリーを取り出すときは、電源スイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(23、53ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。温度が上がっているときには、いったんバッテリーを取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。
- ACアダプター（別売）使用時は、一度コードを抜いて、電源を入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店または相談窓口にお問い合わせください。

画面に「ERROR」が表示される。

- 手ブレ補正機能が作動していません。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。電源スイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店または相談窓口にお問い合わせください。

画面に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出る
ことがあります。

エリア/日付/時刻を設定してください

- エリアと日付、時刻を設定する。
長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電する(64、250ページ)。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、別売のACアダプターを使用する。

このメモリーカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した。
[実行]を選んでフォーマットを行ってください。フォーマットをすると本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。
それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

メモリーカードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

メモリーカードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

メモリーカードがロックされています

- 書き込み禁止スイッチまたは誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっている。解除する。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクション、高感度ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

レンズの装着を確認してください
非対応レンズの場合は、カスタム
設定メニューでリリースを許可に
できます

- レンズが正しく装着されていない。またはレンズが取り付けられていない。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は、
[レンズなしリリース]を[許可]にする。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

しばらく使用できません

カメラの温度が下がるまでお待ち
ください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。
本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

[]

- 長時間撮影したため、本機の温度が上がった。撮影を終了してください。

この動画記録方式では
撮影できません

- [] 記録方式]を[MP4]にしてください。

FULL

- 本機で日付を管理できる枚数を越えている。

ERROR

- 本機の管理ファイルへの記録ができない。PlayMemories Homeで、すべての画像をパソコンに取り込み、メモリーカードを修復してください。

カメラエラー 電源を入れなおし
てください

システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合は相談窓口にお問い合わせください。

管理ファイルに不整合が見つかり
ました

修復しますか？

- 管理ファイルが破損しているため、AVCHD動画の撮影、再生ができない。画面の指示に従い修復してください。

拡大できません

回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

これ以上フォルダー作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダーがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダーを作成できません。

本体のお手入れ

カメラ本体の清掃

- レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりは画像やカメラ性能に影響を与えることがあるため、市販のプロアー*で吹き飛ばしてください。イメージセンサーの清掃は246ページをご覧ください。
* スプレー式のプロアーは故障の原因となりますので使用しないでください。
- その他、本体表面の清掃は、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。
 - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
 - 上記が手についたまま本機を扱うこと
 - ゴムやビニール製品との長時間の接触

レンズの清掃

- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面を清掃するときは、市販のプロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。

イメージセンサーをクリーニングする

本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（光を電気信号に変える部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。

ご注意

- 清掃はすみやかに行ってください。
- スプレー式のブロアーは、水滴が本機内部に飛び散るので使用しないでください。

カメラで自動クリーニングを行う

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する(58ページ)。

2 MENUボタン →  (セットアップ) 3 →
[クリーニングモード]を選ぶ。

3 マルチセレクターの▲/▼で[実行]を選び、中央の●を押す。
イメージセンサーが短時間振動して、ゴミをふるい落とす。

4 本機の電源を切る。

ブロアーを使って清掃を行う

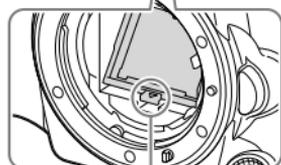
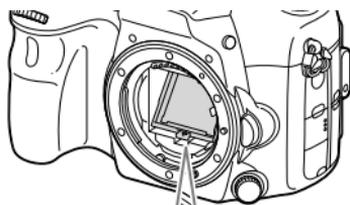
カメラで自動クリーニングを行ったあと、更に清掃が必要な場合には、以下の手順でブロアーを使った清掃を行ってください。

1 「カメラで自動クリーニングを行う」の1～4の手順でクリーニングモードを実行する。

2 レンズをはずす(61ページ)。

3 ミラーロックレバーを指先で押し、ミラーを跳ね上げる。

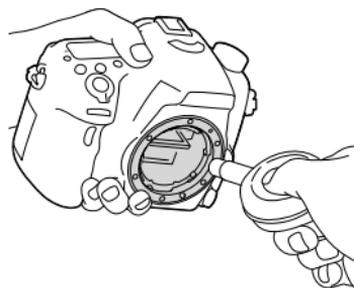
- ミラー表面には触らないように注意する。



ミラーロックレバー

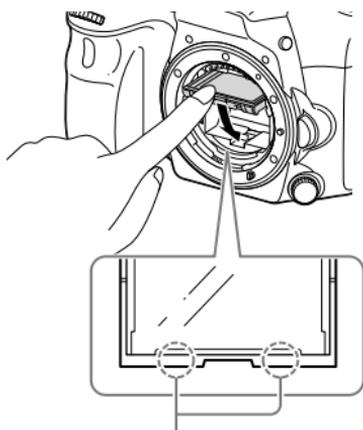
4 ブロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

- ブロアーの先端をイメージセンサーに当てないようにして、マウントより中に入れないでください。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにして手早く行ってください。
- ミラー裏面のほこりもブロアーで清掃する。



5 清掃終了後、カチッと音がするまで指でミラーを押し下げる。

- ミラーの枠の部分で指で押し下げる。ミラー表面には触れないように注意する。
- 確実にロックされるまで、ミラーを押し下げる。



どちらか一方を押して下げる

6 レンズを取り付ける。

- レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認する。

ご注意

- 清掃終了後、レンズを取り付ける際には、ミラーが確実に下がっていることを確認してください。レンズを傷つけたり、故障につながる場合があります。また、ミラーが下がり切っていないと、撮影の際、オートフォーカスでピント合わせができなくなります。
- ミラーを上げた状態のまま撮影することはできません。
- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近くでの保管
変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。
- 湿度の高い場所
レンズにカビが発生することがあります。

保管方法

使用しないときは、必ずレンズフロントキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0～40℃です。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切や電池の有無に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し3か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消費している場合があります。相談窓口にお問合せください(裏表紙)。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター(別売)を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

レンズとアクセサリーについてのご注意

本機には、カメラの特性に適合するように設計されたソニー製レンズ/アクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせて使用した際の性能や、それによって生じた事故、故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

マルチインターフェースシューについてのご注意

- フラッシュなどのアクセサリーを本機のマルチインターフェースシューに取り付け/取りはずしする場合は、電源を「OFF」にしてから行ってください。取り付けの際は、最後まで差し込んでからネジを締め、本機にしっかり固定されていることを確認してください。
- シンクロ端子が高電圧な市販フラッシュや、極性が逆の市販フラッシュを使用すると故障の原因になりますので使わないでください。

メモリーカードについて

メモリーカードおよびカードアダプターにラベルなどを貼らないでください。故障の原因になります。

本機の廃棄/譲渡に関するご注意

個人情報保護のため、本機を廃棄、譲渡するときは以下の操作を行ってください。

- ・[設定リセット]→[初期化](211ページ)

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

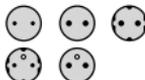
本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

撮影・再生に際してのご注意

- メモリーカードの動作を安定させるために、メモリーカードを本機ではじめてお使いになる場合には、まず、本機でフォーマットすることをおすすめします。
フォーマットすると、メモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことはできません。大切なデータはパソコンなどに保存しておいてください。
- 長期間、画像の撮影・消去を繰り返しているとメモリーカード内のファイルが断片化(フラグメンテーション)して、動画記録が途中で停止してしまう場合があります。このような場合は、パソコンなどに画像を保存したあと、[フォーマット](204ページ)を行ってください。
- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴性に配慮して設計されていますが、防水性能は備えていません。雨中での使用時は、本機やレンズに雨がつかないようにしてください。使用後に汚れた場合は、本機を清掃してください。水、砂、ほこり、塩分などが本機に残っていると、故障の原因になります。
- 取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(249ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。メモリーカードなどを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。フラッシュ表面の汚れが発光による熱で発煙したり、焦げる場合があります。汚れ・ゴミがある場合は柔らかい布などで清掃してください。

海外で使用する には

バッテリーチャージャーやACアダプター AC-PW10AM (別売)は全世界 (AC100V ~ 240V · 50/60Hz)で使えます。ただし、地域によってはコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

コンセント形状例		
地域	主に北米	主にヨーロッパ
変換プラグアダプター	不要	必要 

ご注意

- 電子式変圧器(トラベルコンバーター)は不要です。故障の原因となるので使わないでください。

海外のテレビで見る(カラーテレビ出力方式)

本機で撮影した画像をテレビで見るときは、本機と同じカラーテレビ方式(NTSC)のテレビが必要です。

NTSC方式

日本、アメリカ、エクアドル、カナダ、韓国、コロンビア、ジャマイカ、スリナム、台湾、中央アメリカ、チリ、パハマ、フィリピン、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、メキシコ、など

PAL方式

イギリス、イタリア、インドネシア、オーストラリア、オーストリア、オランダ、クウェート、クロアチア、シンガポール、スウェーデン、スイス、スペイン、スロバキア、タイ、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、ベトナム、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マレーシア、ルーマニア、など

PAL-M方式

ブラジル

PAL-N方式

アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ

SECAM方式

イラク、イラン、ウクライナ、ギリシャ、フランス領ギアナ、フランス、ブルガリア、モナコ、ロシア、など

AVCHD規格について

「AVCHD」規格は、高効率の圧縮符号化技術を用いて、1080i方式や720p方式のHD（ハイビジョン）信号を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラ用に開発された規格です。映像圧縮にはMPEG-4 AVC/H.264方式を、音声にはドルビーデジタル方式、または、リニアPCM方式を採用しています。MPEG-4 AVC/H.264方式は、従来の画像圧縮方式に比べ、さらに高い圧縮効率を持った優れた方式です。

メモリーカードについて

メモリーカード使用上のご注意

- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
 - 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
 - 直射日光のあたる場所
 - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 水にめらさないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。

- 書き込み禁止スイッチや誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると画像の記録や消去などができなくなります。この場合はロックを解除してください。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードは、本機での動作を保証しません。本機でフォーマットしてください。
- お使いのメモリーカードと機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- メモリーカード本体にラベルなどを貼らないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。

本機で使用できるメモリースティックについてのご注意

本機で使用できるものは下記のとおりです。ただし、すべてのメモリースティック PRO デュオの動作を保証するものではありません。

メモリースティック PRO デュオ

*1*2*3

メモリースティック PRO-HG デュオ

*1*2

メモリースティック XC-HG デュオ

*1*2

本機で使用可能です。

- *1 マジックゲート™搭載のメモリースティック デュオです。
「マジックゲート」とは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。本機ではマジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。
- *2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。
- *3 動画撮影時はMark2マークの付いたもののみ使えます。
- 使用可能なメモリースティックについての最新情報は、ホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください。
<http://www.sony.co.jp/mstaiou/>

メモリースティック マイクロ™ (別売) 使用上のご注意

- 本製品はメモリースティック マイクロ (M2) に対応しています。M2はメモリースティック マイクロの略称です。
- メモリースティック マイクロを本機でお使いの場合は、必ずメモリースティック マイクロをデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入すると、メモリースティック マイクロが取り出せなくなる可能性があります。
- メモリースティック マイクロは小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

バッテリー / バッテリーチャージャーについて

- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- バッテリーチャージャーを取り付けるときは、お手近なコンセントをお使いください。
- 充電終了直後またはそれに近い状態のバッテリーを未使用のまま、何度も充電を繰り返さないでください。バッテリーの性能に影響します。
- バッテリーチャージャー（付属）で、インフォリチウムMシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをすることがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。

- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

バッテリー使用上のご注意

- バッテリーはNP-FM500Hをご使用ください。NP-FM55H、NP-FM50、NP-FM30は使用できません。
- 使用状況や環境によっては、残量表示は正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いと、バッテリーの性能は低下し、使用できる時間は短くなります。また、連写の速度も遅くなります。バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影や連続撮影、電源の入り切りなどを頻繁にしたり、モニターを明るく設定すると、バッテリーの消費が早くなります。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度充電して本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

ライセンスについて

ライセンスに関する注意

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアが搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者様の要求に基づき、弊社はこれらの内容をお客様に通知する義務があります。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記載されています。

本機とパソコンをMassStorage接続し、[PMHOME] - [LICENSE]内にあるファイルをご一読ください。

本製品は、MPEG LA, LLC.がライセンス活動を行っているAVC PATENT PORTFOLIO LICENSEの下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、又は他の報酬を受けていない使用目的で、MPEG-4 AVC規格に合致したビデオ信号(以下、AVC VIDEOといいます)にエンコードすること。

(ii) AVC VIDEO (消費者が個人的、又は他の報酬を受けていない目的でエンコードしたもの、若しくはMPEG LAよりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます)をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC.のホームページをご参照ください。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License (以下「GPL」とします)または、GNU Lesser General Public License (以下「LGPL」とします)の適用を受けるソフトウェアが含まれております。お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。ソースコードは、Webで提供しております。

ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。

<http://www.sony.net/Products/Linux/>

なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。

ライセンス内容(英文)に関しては、本機の内蔵メモリー内に記録されています。本機とパソコンをMassStorage接続し、[PMHOME] - [LICENSE]内にあるファイルをご一読ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

“困ったときは”の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときは相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。

ただし、故障の状況、その他の事情により、修理に代えて製品を交換する場合がありますので、ご了承ください。

ヘルプガイドについて



「ヘルプガイド」はオンラインで見るマニュアルです。パソコンやスマートフォンでご覧ください。

さらに詳しい使いかたをご覧ください。

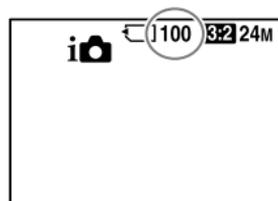
URL :

<http://rd1.sony.net/help/ilc/1410/ja/>



撮影可能枚数/時間を確認する

メモリーカードを入れて電源スイッチを「ON」にすると、画面に、撮影可能枚数(現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか)が表示されます。



ご注意

- 撮影可能枚数が「0」で黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください(57、192ページ)。
- 撮影可能枚数が「NO CARD」で黄色く点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。当社試験基準メモリーカード使用時の枚数です。撮影状況および使用するメモリーカードによって記録可能枚数は異なります。

画像サイズ：L 24M

横縦比3:2のとき*

本機でフォーマットしたメモリーカード

(単位：枚)

画質 \ 容量	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
スタンダード	330	660	1350	2700	5400	10500
ファイン	200	410	820	1650	3300	6600
エクストラファイン	100	200	400	820	1600	3250
RAW+JPEG	54	105	220	440	880	1750
RAW	74	145	300	600	1200	2400

* [横縦比]を[16:9]に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できません(RAW設定時はのぞく)。

バッテリーの使用時間と撮影/再生可能枚数

		使用時間	枚数
静止画撮影	モニターモード時	約240分	約480枚
	ファインダーモード時	約205分	約410枚
実動画撮影	モニターモード時	約120分	—
	ファインダーモード時	約110分	—
連続動画撮影	モニターモード時	約175分	—
	ファインダーモード時	約175分	—
静止画再生	モニターモード時	約270分	約5400枚
	ファインダーモード時	約320分	約6400枚

- 使用時間や撮影枚数は満充電された状態での目安です。使用方法によって時間や枚数は減少する場合があります。
- 使用時間や撮影可能枚数は以下の条件で撮影した場合です。
 - 温度が25℃
 - DT 16-50mm F2.8 SSMレンズ使用時
 - 当社製のメモリースティック PRO デュオ(別売)使用時
 - [ファインダー明るさ]：[マニュアル][±0]
 - [モニター明るさ]：[マニュアル][±0]
- 静止画撮影時の数値は、CIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。

(CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association)

 - フォーカスモード：S (シングルAF)
 - 30秒ごとに1回撮影
 - 10回に一度、電源を入/切する

- 動画撮影時の数値はCIPA規格により、以下の条件で撮影した場合です。
 - 動画画質：AVCHD FH
 - 実動画撮影：撮影、ズーム、撮影スタンバイ、電源入/切を繰り返す。
 - 連続動画撮影：連続撮影の制限(29分)により撮影が終了したときは、再度MOVIE（動画）ボタンを押して撮影を続ける。ズームなどのその他の操作はしない。

動画の記録可能時間

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる、動画ファイルの合計記録時間の目安です。

本機でフォーマットしたメモリーカード

容量 記録方式 サイズ	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB	64GB
AVCHD 60i 24M (FX)	10分	20分	40分	1時間 30分	3時間	6時間
AVCHD 60i 17M (FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間 5分	8時間 15分
AVCHD 60p 28M (PS)	9分	15分	35分	1時間 15分	2時間 30分	5時間 5分
AVCHD 24p 24M (FX)	10分	20分	40分	1時間 30分	3時間	6時間
AVCHD 24p 17M (FH)	10分	30分	1時間	2時間	4時間	8時間
MP4 1440× 1080 12M	20分	40分	1時間 20分	2時間 45分	5時間 30分	11時間
MP4 VGA 3M	1時間 10分	2時間 25分	4時間 55分	10時間	20時間	40時間

困ったときは／本機について

- 連続撮影可能時間は1回の撮影で約29分です(商品仕様による制限)。また、記録方式の設定をMP4(12M)にした場合、連続で撮影できる時間は約20分です(ファイルサイズ2GBによる制限)。

ご注意

- 撮影シーンに合わせて動画の画質を自動調節するVBR (Variable Bit-Rate) 方式を採用しているため記録時間が変動します。動きの速い映像を記録する場合、メモリーの容量を多めに使用してより鮮明な画像を記録しますが、その分記録時間は短くなります。また、撮影環境や被写体の状態、画質/画像サイズの設定によっても記録時間は変動します。
- 表の数値は連続撮影時間ではありません。
- 撮影環境や使用するメモリーカードによって記録時間が異なる場合があります。
- [I] が表示された場合は動画撮影を終了してください。
本機の温度が上がっています。
- 動画の再生については71ページをご覧ください。

動画の連続撮影についてのご注意

- イメージセンサーを使った高精細な動画や高速で連写を行うには多くの電力を必要とします。そのため連続して撮影し続けることでカメラ内部、特にイメージセンサーの温度が上昇します。温度の上昇は画質への影響やカメラ内部に対して負荷が生じるので自動的に電源が切れる仕様となっています。
- しばらく電源を切った状態から撮影を開始した場合、下記の連続動画撮影が可能です(記録開始から停止するまでの時間です)。

環境温度	連続動画撮影時間
20℃	約29分
30℃	約29分
40℃	約17分

- 連続動画撮影時間は温度環境や動画撮影前の使用状況により変動します。カメラの電源を入れ、構図確認や静止画撮影を繰り返し使用していた場合には、カメラ内部の温度が上昇しますので、上記の動画撮影時間より短くなります。
- 温度の上昇により動画撮影が停止した場合、電源を切ったまま数分間放置し、カメラの温度が下がってから撮影を再開してください。
- 以下の点に気を付けると、より長く動画を撮影することができます。
 - できるだけ直射日光を避ける
 - 使用しないときはこまめに電源を切る

- 1つの動画ファイルは約2GBで制限されます。連続記録中のファイルサイズが約2GBになると、[**■**]記録方式]が[MP4]の場合は、自動的に記録が止まり、[**■**]記録方式]が[AVCHD]の場合は、自動的に新しいファイルが作成されます。
- 動画の連続撮影は最長でも約29分で停止します。

主な仕様

本体

【形式】

カメラタイプ	フラッシュ内蔵レンズ交換式デジタルカメラ
使用レンズ	ソニー Aマウントレンズ

【撮像部】

撮像素子	23.5mm×15.6 mm (APS-Cサイズ)、CMOSイメージセンサー
総画素数	約24 700 000画素
カメラ有効画素数	約24 300 000画素

【手ブレ補正】

静止画撮影時	形式：イメージセンサーシフト方式
動画撮影時	形式：電子式

【アンチダスト】

システム	帯電防止コートとイメージセンサーシフト駆動の併用
------	--------------------------

【オートフォーカス】

形式	TTL位相差検出方式(中央F2.8センサーあり)、79点(15点クロスタイプ)
検出輝度範囲	EV -2 ~ EV 18 (ISO 100相当)
AF補助光	約1 m ~ 5 m

【ファインダー】

形式	電子式ビューファインダー (有機EL)
画面サイズ	1.3cm (0.5型)
総ドット数	2 359 296ドット
視野率	100%
倍率	約1.09倍(35mm判換算:約0.71倍、50 mmレンズ、無限遠、視度-1 m ⁻¹ 時)

アイポイント 最終光学面から約27 mm、接眼枠から約22 mm (視度
-1 m⁻¹時)(CIPA規格準拠)

視度調整 -4.0 m⁻¹ ~ +3.0 m⁻¹

【液晶モニター】

形式 7.5 cm (3.0型) TFT駆動

ドット数 1 228 800 (640×4 (RGBW)×480)ドット

【露出制御】

測光素子 “Exmor” CMOSセンサー

測光方式 1200分割ライブビュー分析測光

測光範囲 EV -2 ~ +17、分割、中央重点、スポット測光とも(ISO100
相当、F1.4レンズ使用)

ISO感度(推奨露光指数) 静止画撮影時:オート、ISO50 ~ 25600 (1/3EVステップ)
動画撮影時:オート、ISO100 ~ 12800相当(1/3EVステップ)

露出補正 ±5.0EV (1/3、1/2EVステップ切り換え可能)

【シャッター】

形式 電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード範囲

静止画撮影時:1/8000 ~ 30秒、バルブ

動画撮影時:1/8000 ~ 1/4秒(1/3段ステップ)、AUTO時
は1/60秒まで(オートスローシャッター 1/30秒まで)

フラッシュ同調速度 1/250秒

【内蔵フラッシュ】

ガイドナンバー 12 (ISO100・m)

充電時間 約3秒

照射角 16 mmレンズをカバー (レンズ表示の焦点距離)

調光補正 ±3.0EV (1/3、1/2EVステップ切り換え)

フラッシュ光の届く範囲

絞り値	F2.8	F4	F5.6	
ISO感度	ISO 100	1 m ~ 4.3 m	1 m ~ 3 m	1 m ~ 2.1 m
	ISO 200	1 m ~ 6.1 m	1 m ~ 4.2 m	1 m ~ 3 m
	ISO 400	1.4 m ~ 8.6 m	1 m ~ 6 m	1 m ~ 4.3 m
	ISO 800	2 m ~ 12 m	1.4 m ~ 8.5 m	1 m ~ 6.1 m

【連続撮影】

連続撮影速度	連続撮影優先AE:毎秒最高約12枚/  Hi:毎秒最高約8枚/  Lo:毎秒最高約3枚 * 弊社測定条件による。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。
最大連続撮影枚数	連続撮影優先AE時 エクストラファイン:53枚/ファイン:60枚/スタンダード: 64枚/RAW+JPEG:25枚/RAW:26枚 連続撮影時 エクストラファイン:56枚/ファイン:75枚/スタンダード: 93枚/RAW+JPEG:26枚/RAW:28枚

【拡大再生】

拡大倍率範囲	画像サイズ:L:約1.0～18.8倍/M:約1.0～13.3倍/ S:約1.0～9.4倍
--------	---

【記録方式】

静止画記録方式	JPEG (DCF Ver.2.0、Exif Ver.2.3、MPF Baseline)準拠、 RAW (ソニー ARW 2.3フォーマット)
---------	--

動画記録方式(AVCHD方式)

AVCHD規格 Ver2.0準拠
映像:MPEG-4 AVC/H.264
音声:Dolby Digital 2ch
ドルビーデジタルステレオクリエイター搭載

- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。

動画記録方式(MP4方式)

映像:MPEG-4 AVC/H.264
音声:MPEG-4 AAC-LC 2ch

【記録メディア】

メモリースティック PRO デュオ、SDカード

【入出力端子】

マルチ/マイクロUSB端子

USB通信、Hi-Speed USB (USB2.0)

* この端子はマイクロUSB規格に対応した機器をつなぐことができます。

HDMI端子

HDMIタイプD マイクロ端子

マイク端子

Ø 3.5 mmステレオミニジャック

REMOTE端子

【電源】

バッテリー

リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H

消費電力(撮影時)

DT 16-50mm F2.8 SSM* 使用時

ファインダー使用時：約3.5 W

モニター使用時：約3.0 W

* ILCA-77M2Qに付属

【その他】

マイクロホン

ステレオ

スピーカー

モノラル

Exif Print

対応

DPOF

対応

PRINT Image Matching III

対応

外形寸法

142.6 mm×104.2 mm×80.9 mm (幅×高さ×奥行き、突起部を除く)

本体質量

約726 g (バッテリー、メモリースティック PRO デュオを含む)

約647 g (本体のみ)

動作温度

0°C～40°C

[ワイヤレスLAN]

対応規格	IEEE 802.11 b/g/n
使用周波数帯	2.4 GHz帯
セキュリティー	WEP/WPA-PSK/WPA2-PSK
接続方式	WPS (Wi-Fi protected Setup)/マニュアル
アクセス方式	インフラストラクチャーモード
NFC	NFCフォーラム Type 3 Tag準拠

画像の互換性について

- 本機は、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system” (DCF)に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

バッテリーチャージャー BC-VM10A

定格入力	AC100V - 240V、50 Hz/60 Hz、9W
定格出力	DC 8.4V、0.75 A
動作温度	0°C ~ 40°C
保存温度	-20°C ~ +60°C
最大外形寸法	約70 mm×25 mm×95 mm (幅×高さ×奥行き)

リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H

使用電池	リチウムイオン蓄電池
最大電圧	DC 8.4V
公称電圧	DC 7.2V
容量	公称容量 11.8 Wh (1 650 mAh) 定格(最小)容量 11.5 Wh (1 600 mAh)
最大外形寸法	約38.2 mm×20.5 mm×55.6 mm (幅×高さ×奥行き)

レンズ

商品名(型名)	DT 16-50mm F2.8 SSM (SAL1650)
35mm判換算焦点距離*1 (mm)	24-75
レンズ群一枚	13-16
画角*1	83° -32°
最短撮影距離*2 (m)	0.3
最大撮影倍率(倍)	0.2
最小絞り	f/22
フィルター径(mm)	72
外形寸法(最大径×長さ)(約: mm)	81×88
質量(約: g)	577

*1 ここでの35mm判換算焦点距離および画角とは、APS-Cサイズ相当の撮像素子を搭載したレンズ交換式デジタルカメラでの値を表します。

*2 最短撮影距離とは、撮像素子面から被写体までの最短距離を表します。

- このレンズは距離エンコーダーを搭載しています。距離エンコーダーにより、高精度な調光(ADI調光)をADI対応フラッシュとの組み合わせで実現しています。
- レンズの機構によっては、撮影距離の変化に伴って焦点距離が変化する場合があります。記載の焦点距離は撮影距離が無限遠での定義です。
- 温度変化によるピントの移動を補正するため、無限遠(∞)位置に余裕を持たせてあります。無限遠の被写体をMFで撮影する場合は、ファインダーで確認しながらピント合わせをしてください。

焦点距離について

本機での撮影画角は、35 mm判カメラの画角よりも狭くなります。お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍すれば、35 mm判カメラとほぼ同じ画角で撮影できる焦点距離に相当する値を求めることができます。

(例: 焦点距離50 mmのレンズを付けると、35 mm判カメラで約75 mmに相当する画角が得られます。)

商標について

- メモリスティックおよびはソニー株式会社の商標または登録商標です。
- Blu-ray Disc™およびBlu-ray™はブルーレイディスクアソシエーションの商標です。
- AVCHD ProgressiveおよびAVCHD Progressiveロゴは、パナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Dolby, ドルビー、およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- HDMI, HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- Microsoft, Windows, Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macは米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- iOSは、シスコの登録商標または商標です。
- iPadは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
- Android, Google PlayはGoogle Inc.の登録商標または商標です。
- Wi-Fi, Wi-Fiロゴ, Wi-Fi PROTECTED SET-UPはWi-Fi Allianceの登録商標または商標です。
- NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。
- Felicaプラットフォームマークは、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- 「おサイフケータイ」は、株式会社NTTドコモの登録商標です。
- AOSSは、株式会社バッファローの商標です。
- DLNAおよびDLNA CERTIFIEDはDigital Living Network Allianceの商標です。
- Facebook, “f” ロゴはFacebook, Inc.の商標または登録商標です。
- YouTubeおよびYouTubeロゴは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Eye-Fiは、Eye-Fi, Inc.の商標です。
- 「プレイステーション3」は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商品です。また、 “プレイステーション” および “PlayStation” は同社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。



安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。



下記の注意事項を守らないと、火災、大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理は相談窓口にご依頼ください。



分解禁止

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、相談窓口にご相談ください。



禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、モニターを見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。



禁止

撮影時は周囲の状況に注意を払う

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。



禁止

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。



禁止

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品やメモリーカードなどを飲み込むおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。



禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。



指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない



禁止

困ったときは／本機について



下記の注意事項を守らないと、火災、大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない



禁止

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない



禁止

視力障害や失明の原因となります。

長時間、同じ持ち方で使用しない



禁止

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態していると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合には特にご注意ください、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合。
- 血行の悪いかた、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合。

ワイヤレス機能ご使用上のご注意

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

航空機内ではワイヤレス機能を使用しない



禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能の使用を中止する



指示

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。



下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気が多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。



禁止

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。



ぬれ手禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。



指示

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



禁止

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。



禁止

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を指・手袋などで覆ったまま発光しない。また、発光後もしばらくは発光部に手を触れないでください。やけど、発煙、故障の原因となります。



禁止

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。



禁止

レンズやモニターに衝撃を与えない

レンズやモニターはガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



禁止

困ったときは／本機について

つづき



下記の注意事項を守らないと、けがや財産に損害を与えることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリなどを取りはずすときは、手をそえる

電池やメモリーカードなどが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。



直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くのものに結露すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。



⚠ 危険 電池についての
安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大げがや
やけど、火災などを避けるため、下記の注意事
項をよくお読みください。

⚠ 危険

- 乾電池型充電式電池・バッテリーパックは指定されたバッテリージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオープンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアークリップなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹼水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。



禁止

⚠ 警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。
- アルカリ電池/ニッケルマンガン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。



禁止

⚠ 注意

- 電池は、+、-を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。



指示

お願い



Li-ion

リチウムイオン電池

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については、
一般社団法人JBRCホームページ
<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html> を参照してください。

索引

ア行

アイスタートAF.....	45
アイセンサー.....	19
アイピースカップ.....	68
赤目軽減発光.....	39
圧縮率.....	157
アップロード設定(Eye-Fi).....	207
後幕シンクロ.....	130
アンチダスト機能.....	62, 246
一覧表示.....	182
イメージセンサー.....	103, 246
イラスト調.....	147
色温度(ホワイトバランス).....	153
色空間.....	173
印刷.....	190
インデックス.....	182
エクストラファイン.....	157
エリア設定.....	64
オートHDR.....	144
オートスローシャッター.....	176
オートフォーカス.....	100, 116
オートフレーミング.....	162
オートホワイトバランス.....	151
オートモード.....	76
オートレビュー.....	198
お手入れ.....	245
おまかせオート.....	76

主な仕様.....	266
音声記録.....	180
音声出カタイミング.....	180
音声レベル表示.....	179
音量設定.....	50, 71

カ行

絵画調HDR.....	146
回転.....	183
顔検出.....	159
拡大.....	181
拡張フレキシブルスポット.....	105
画質.....	157
カスタムキー設定.....	199
カスタム (ホワイトバランス).....	154
画像サイズ.....	155
カメラ内ガイド.....	54
画面表示.....	25, 96, 186
カラーフィルター (ホワイトバランス).....	153
感度.....	141
管理ファイル修復.....	206
強制発光.....	130
記録画像の回転表示.....	185
記録可能枚数.....	260
記録設定(動画).....	177
記録フォルダー形式.....	205

記録方式(動画).....	176	自動発光.....	130
クイックナビ.....	32	視度調整.....	19
グラフィック表示.....	96	絞り.....	87
クリーニングモード.....	246	絞りプレビュー.....	88
クリエイティブスタイル.....	148	絞り優先.....	87
グリッドライン.....	198	シャープネス.....	150
黒つぶれ.....	186	シャッタースピード.....	89
蛍光灯: 温白色 (ホワイトバランス).....	151	シャッタースピード優先.....	89
蛍光灯: 昼光色 (ホワイトバランス).....	151	シャッター半押しAEL.....	46
蛍光灯: 昼白色 (ホワイトバランス).....	151	シャッター半押しAF.....	46
蛍光灯: 白色 (ホワイトバランス).....	151	シャッター半押しブレ補正.....	66
結露.....	249	充電.....	55
言語.....	13	焦点距離.....	271
高感度ノイズリダクション.....	171	情報表示なし.....	96
個人顔登録.....	161	初期化.....	204
コンティニューアスAF.....	101	初期値.....	211
コントラスト.....	150	ショルダーストラップ.....	22
サ行		白とび.....	186
再生.....	71, 181	シングルAF.....	101
彩度.....	150	シンクロターミナル.....	134
削除.....	73, 192, 204	水彩画調.....	146
削除確認画面.....	51	水準器.....	97
撮影可能枚数.....	260	スイングパノラマ.....	81
撮影結果プレビュー.....	88	ズーム.....	69, 166, 181
撮影モード.....	75	スクロール再生.....	84
シーンセレクション.....	78	スタイルボックス.....	148
		スタンダード.....	157
		スポーツ.....	78
		スポット測光.....	122
		スマートズーム.....	167

スマートテレコンバーター166	中央重点.....122
スマイル検出感度インジケーター164	中央(フォーカスエリア)104
スマイルシャッター.....164	調光補正.....136
スライドショー.....184	調光モード.....137
スローシンクロ.....133	長秒時ノイズリダクション170
静止画撮影.....69	定常光.....46, 128
静止画/動画切換.....181	ディスク作成.....231
設定リセット.....211	ディスプレイ.....96
セルフタイマー.....125	デジタルズーム.....167
全画素超解像ズーム.....167	手ブレ防止.....65
全情報表示.....97	手ブレ補正.....65
操作音.....50	手持ち夜景.....78
ゾーン(フォーカスエリア)104	デモモード.....51
測光インジケーター91, 118, 128	テレビで見る.....194
測光モード.....122	電球(ホワイトバランス)151
ソフトウェア.....220	電子音.....50
ソフトハイキー.....146	電子先幕シャッター.....201
ソフトフォーカス.....146	電池.....55, 57, 255
フォーカスエリア自動消灯105	トイカメラ.....146
夕行	動画.....70, 174
ダイヤルの設定.....48	動画音声記録.....180
ダイヤル露出補正.....119	動画記録設定.....177
ダイヤルロック.....48	動画記録方式.....176
太陽光(ホワイトバランス)151	登録.....209
ダイレクトマニュアルフォーカス115	登録呼び出し.....210
縦記録画像の再生.....185	時計合わせ.....64
縦横比.....157	ドライブモード.....123
	曇天(ホワイトバランス)151

ナ行

日時設定.....	64
ノイズリダクション.....	142, 170

ハ行

バージョン表示.....	217
パートカラー.....	146
ハイコントラストモノクロ.....	146
ハイスピードシンクロ撮影.....	131
背面モニター.....	96
パソコン.....	220, 226
発光禁止.....	130
バッテリー.....	55, 57, 255
バッテリー残量.....	58
パノラマ.....	81
パノラマ：画像サイズ.....	156
パノラマ再生.....	84
パノラマ：撮影方向.....	84
バルブ撮影.....	92
パワーセーブ.....	202
半押し.....	69
ピーキング.....	113
ピーキング色.....	113
ピーキングレベル.....	113
日陰(ホワイトバランス).....	151
ピクチャーエフェクト.....	146
ヒストグラム.....	98
日付.....	63
日付ビュー.....	181
日付プリント.....	191

瞳AF.....	116
美肌効果.....	160
ビューモード.....	181
表示切り換え.....	96, 186
表示パネル.....	29
表示パネル照明ボタン.....	29
ピント.....	100
ピント拡大.....	114
ファイル番号.....	204
ファイン.....	157
ファインダー.....	19, 96
ファインダー明るさ.....	202
ファインダー色温度.....	50
ファインダー撮影用 (背面モニター).....	96
ファインダー/モニター 切替設定.....	202
ファンクションボタン.....	35
ファンクションメニュー設定.....	36
風音低減.....	180
風景.....	78
フォーカスエリア.....	104
フォーカスエリア自動消灯.....	105
フォーカスエリア点数.....	105
フォーカス表示.....	102
フォーカスモード.....	100
フォーカス/レリーズ優先.....	112
フォーカスロック.....	104
フォーマット.....	204
フォルダー形式.....	205

フォルダー新規作成.....	206
フォルダー選択.....	205
フォルダービュー.....	181
ブラケット.....	126
ブラケット順序.....	46
フラッシュブラケット.....	126
フラッシュ （ホワイトバランス）.....	151
フラッシュモード.....	130, 135
フラッシュ露出レベルロック	139
ブラビアリンク.....	196
プリント.....	190
プリント指定.....	190
フレキシブルスポット.....	104
フレキシブルスポット点数.....	106
プレビュー.....	88
プレミアムオート画像抽出.....	77
プレミアムオート連続撮影.....	77
プレミアムおまかせオート.....	76
プログラムオート.....	86
プロテクト.....	189
ヘルプガイド.....	259
ポートレート.....	78
ポストリゼーション.....	146
ポップカラー.....	146
ボリューム.....	50
ホワイトバランス.....	151
ホワイトバランスブラケット	129

マ行

マクロ.....	78
マストレージ.....	226
マニュアルシフト.....	92
マニュアルフォーカス.....	112, 116
マニュアル露出.....	90, 175
マルチ.....	122
マルチショットノイズリダクシ ョン.....	142
ミニチュア.....	146
ムービー.....	70, 174
メニュー.....	37
メモリーカード	57, 59, 204, 253
モードダイヤルガイド.....	76
モニター.....	74, 96, 186
モニター明るさ.....	201
モニター表示.....	25

ヤ行

夜景.....	78
夜景ポートレート.....	78
夕景.....	78
横縦比.....	157

ラ行

ライブビュー表示.....	99
リセット.....	211
リッチトーンモノクロ.....	146
リモコン.....	22, 172

レトロフォト.....	146	Adobe RGB	173
連写.....	124	AEL.....	121
レンズ.....	60	AEロック.....	121
レンズなしリリース.....	198	AF-A	101
レンズ補正(周辺光量).....	203	AF-C	101
レンズ補正(倍率色収差).....	203	AF/MFコントロール.....	116
レンズ補正(歪曲収差).....	203	AF/MFボタン.....	116
連続撮影.....	124	AF-S.....	101
連続撮影優先AE.....	85	AF微調整.....	111
連続ブラケット.....	126	AF補助光.....	110
ロー.....	157	AFレンジコントロール.....	44, 107
録音レベル.....	178	AUTO.....	69
露出値ステップ幅.....	40	AVCHD.....	176
露出補正.....	118	AVCHDビュー.....	181
露出補正の影響.....	46	DISP.....	96, 186
露出モード.....	75	DISPボタン(背面モニター).....	96
ロックオンAF.....	105, 106	DISPボタン(ファインダー).....	96
ワ行		DMF.....	115
ワイド(フォーカスエリア).....	104	DPOF指定.....	190
ワイドフォーカスエリア表示.....	106	DRO/オートHDR.....	143
ワイヤレス(フラッシュモード).....	132	DROブラケット.....	129
数字/アルファベット順		Dレンジオブティマイザー.....	143
1枚撮影.....	124	Eye-Fi.....	207
1枚ブラケット.....	126	FELロック.....	139
4K静止画再生.....	197	FINDER/MONITOR.....	202
A.....	87	FINE.....	157
ADI調光.....	137	Fn.....	35, 36
		HDMI.....	194
		HDMI解像度.....	194
		HDMI機器制御.....	197

HDMI情報表示.....	196
HDR.....	143
Image Data Converter.....	221
ISO感度.....	141
JPEG.....	157
M.....	90
MENU.....	37
MF.....	112, 116
MOVIE.....	70, 174
MOVIE (動画)ボタン.....	48, 70
MP4.....	176
MR.....	209
MTP.....	226
NR効果.....	142
P.....	86
PCリモート.....	226
PlayMemories Home.....	223
P-TTL調光.....	137
RAW.....	157
RAW+J.....	157
Remote Camera Control.....	225
S.....	89
SCN.....	78
sRGB.....	173
STD.....	157
USB.....	226
USB LUN 設定.....	227
USB接続.....	226
WB.....	151
X.FINE.....	157

